EPSON

ユーザーズマニュアル

オフィスシリーズ Type-PA • User's Manual

オフィスシリーズ Type-PA

本機を使用開始するまでの手順を説明しています。
必ずお読みください。
標準装備されている装置や機能と、
取り付け可能な装置について説明しています。
添付されているソフトウエアの使用方法や
インストール方法について説明しています。

ご使用の前に

- ご使用の際は、必ず「マニュアル」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- 「マニュアル」は、不明な点をいつでも解決できるように、すぐに取り出して見られる場所に保管してください。

安全にお使いいただくために

このマニュアルおよび製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために絵表示が使われています。
その表示と意味は次のとおりです。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警 告　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

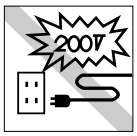
⚠注 意　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

⚠警 告

煙が出たり、変な臭いや音がするなど異常状態のまま使用しないでください。
感電・火災の原因となります。
すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談ください。
お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。

マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。
けがや感電・火災の原因となります。

表示されている電源(交流100V)以外では使用しないでください。
指定外の電源を使うと、感電・火災の原因となります。



ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となります。

通風孔など開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落としたりしないでください。
感電・火災の原因となります。

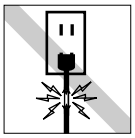
⚠ 警 告

異物や水などの液体が内部に入った場合は、そのまま使用しないでください。
感電・火災の原因となります。
すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談ください。

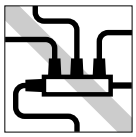
破損した電源コードを使用しないでください。感電・火災の原因となります。
電源コードを取り扱う際は、次の点を守ってください。

- 電源コードを加工しない。
- 無理に曲げたり、ねじったり、引っぱったりしない。
- 電源コードの上に重いものを載せない。
- 熱器具の近くに配線しない。

電源コードが破損したら、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談ください。

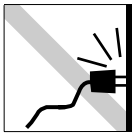


電源コードのたこ足配線はしないでください。
発熱し、火災の原因となります。
家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。



電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。
取り扱いを誤ると、火災の原因となります。

- 電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
- 電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。



電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。
感電・火傷の原因となります。

小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。
飲み込むと化学物質による被害の原因となります。
万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。

⚠ 注 意

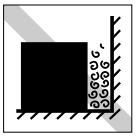
小さなお子様の手の届くところには設置、保管しないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。

不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。

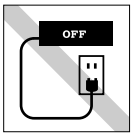
湿気やほこりの多い場所に置かないでください。
感電・火災の危険があります。

⚠ 注 意

本製品の通風孔をふさがないでください。
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。
次のような場所には設置しないでください。
- 押し入れや本箱など風通しの悪いところ。
- じゅうたんや布団の上
- 毛布やテーブルクロスのような布をかけない。

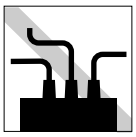


連休や旅行等で長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。
配線を誤ると、火災の危険があります。

本製品を移動させる場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、すべての配線を外したことを確認してから行ってください。



ヘッドフォンやスピーカは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。
ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量で聴覚障害の原因となります。

長時間あるいは不自然な姿勢でのコンピュータ操作は避けてください。
肩こり、腰痛、目の疲れ、腱鞘炎などの危険があります。

メモリの交換などは本製品の内部が高温時には行わないでください。内部が高温になるため火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。

液晶ディスプレイが破損して、内部の液体が漏れた場合は、液体をなめたり、触ったりしないでください。
火傷や化学物質による被害の原因となります。
万一、液体が皮膚に付着したり、目に入った場合は流水で充分に洗い、医師に相談してください。

本製品は重いので、開梱や移動する場合は一人で行わないでください。
必ず二人以上で行ってください。

● 使い始めるまでの準備

コンピュータの接続方法や電源の入れ方、切り方、セットアップについて説明します。

● コンピュータの基本操作

キーボード、マウスやフロッピーディスクなど、コンピュータの基本的な操作方法について説明します。

● システムの拡張

コンピュータに内蔵オプション装置を装着して機能を拡張する方法を説明します。

● SCUの設定

SCU(システム環境ユーティリティ)を使用し、SCUの設定を変更する方法について説明します。

● こんなときは

困ったときの確認事項と対処方法を説明します。

● 付録

お手入れ方法やハードディスクドライブを購入時の状態に戻す方法、仕様などについて説明します。

目　次

マニュアル中の表記について　(7)

製品保護上の注意　(9)

使用・保管時の注意 ..... (9)
記録メディア ..... (10)
マウス ..... (11)

使い始めるまでの準備

ご使用の前に　2

ご使用の前の確認事項 2
コンピュータを使い始めるまでの手順 ... 3
本機の特長 4
添付ソフトウェアの概要 5

各部の名称と働き　8

前面 8
背面 9
右側面 10
左側面 11

コンピュータの設置　12

電源の入れ方とWindowsのセットアップ　18

電源を入れる前に 18
電源の入れ方とWindowsの起動 19
Windows使用時の確認事項 20

WindowsMeインストールモデルのセットアップ23

WindowsMeのセットアップ 23
セットアップ終了後の作業 24
WindowsMe起動ディスクの作成 25

Windows98インストールモデルのセットアップ　26

Windows98のセットアップ 26
セットアップ終了後の作業 28
Windows98起動ディスクの作成 29

Windows2000インストールモデルのセットアップ　30

Windows2000のセットアップ 30
セットアップ終了後の作業 32
セットアップブートディスクの作成 33

WindowsNT4.0インストールモデルのセットアップ　35

WindowsNT4.0のセットアップ 35
ネットワークドライバのインストール 38
Service Pack6aのインストール 39
セットアップ終了後の作業 40

バックアップディスクの作成　41

バックアップFD作成ユーティリティ 41
バックアップFD作成ユーティリティの実行 .. 41

電源の切り方　43

WindowsMeの終了と電源の切り方 43
Windows98の終了と電源の切り方 44
Windows2000の終了と電源の切り方 44
WindowsNT4.0の終了と電源の切り方 .. 45
リセット 46

コンピュータの基本操作

マウスを使う　48

マウスの操作 48
マウスの設定変更 48

キーボードを使う　49

キーの種類と役割 49
ホットキーを使用する 52
ホットキーの設定 53

FDD（フロッピーディスクドライブ）を使う　54

FDのセットと取り出し 54
FDのフォーマット 55
データのバックアップ 56
ライトプロテクト（書き込み禁止） .. 57
1.25MBのFDを使用する 57

HDD（ハードディスクドライブ）を使う 58
データのバックアップ 58
HDDのフォーマット 58
購入時のHDD領域について 59
CD-ROMドライブを使う 60
CD-ROMのセットと取り出し 60
強制的なCD-ROMの取り出し 62
PCカードを使う 63
PCカードのセットと取り外し 64
赤外線通信を使う 67
赤外線通信を使用可能にする 67
赤外線通信の実行 68
表示装置を使う 70
LCDユニット 70
CRTディスプレイ 71
表示装置の切り替え方法 72
解像度や表示色を変更する 74
解像度や表示色を変更するには 74
表示できる解像度と表示色 76
サウンド機能を使う 78
FAXモデムを使う 80
お使いになる前に 80
インターネットに接続するには 82
ダイヤルするための準備 85
オンラインでプロバイダと契約する .. 86
手動でダイヤルアップ接続の設定をする . 88
インターネットへの接続と切断 90
Internet ExplorerとOutlook Expressの使い方 92
Internet Explorerの使い方 92
Outlook Expressの使い方 94
省電力機能 96
省電力機能の種類 96
実行方法 99
復帰方法 100
そのほかの機能 101
ネットワーク機能を使う 101
パラレルコネクタを使う 101
シリアルコネクタを使う 101
USBコネクタを使う 102
コンピュータウィルスの検索・駆除 ... 102

システムの拡張

DIMMの増設 104
DIMMの仕様 104
作業時の注意 105
背面カバーの取り付け・取り外し .. 106
DIMMの取り付け 108
外付け可能な周辺機器 110

SCUの設定

システムの環境設定 112
SCUの操作 113
SCUの起動 113
SCUの操作 114
設定値をもとに戻すには 115
SCUの終了 116
パスワードの設定と解除 117
パスワードの種類 117
パスワードの設定 117

SCUの設定項目 120

SCUの設定値 124

こんなときは

困ったときに 128

コンピュータの不具合 128
省電力機能に関する不具合 130
キーボードの不具合 131
マウスの不具合 132
LCDの不具合 133
FDDの不具合 136
HDDの不具合 137
CD-ROMドライブの不具合 138
アプリケーションソフトの不具合 139
メモリの不具合 140
PCカードの不具合 140
プリンタの不具合 141
スピーカの不具合 141
FAXモデムの不具合 142

警告メッセージが表示されたら 145

付録

お手入れ 150

本機のお手入れ 150
マウスのお手入れ 150

リチウム電池の交換 152

CMOSの初期化 155

ATコマンドの使用 157

FAXモデムカードを取り外すには 158

HDDを購入時の状態に戻す 160

必要なメディア 160
HDDを購入時の状態に戻す順番 ... 160
HDDを購入時の状態に戻す場合の注意 .. 162
リカバリの実行 165
マウスドライバのインストール 166
FAXモデムのインストール 167
キーボードドライバのインストール ... 171
各種ドライバのインストール 171
STD領域の作成 172

HDD領域の変更 174

MS-DOS領域の種類 174
HDD領域の変更 175
既存領域の削除 176
MS-DOS領域の作成 178
MS-DOS領域のフォーマット 181

コネクタ仕様 182

機能仕様一覧 184

機能仕様一覧 184

用語集 185

索引 192

マニュアル中の表記について

本書では、次のような記号を使用しています。

安全に関する記号

警告	この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する記号

制限	**制限事項です。** 機能または操作上の制限事項を記載してあります。
参考	**参考事項です。** 覚えておくと便利なことを記載してあります。
●●●▶	**説明文が次ページに続くことを示します。**
☞	**参照ページを示します。**
1 2	**操作手順です。** ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。
Ctrl	**□で囲んだマークはキーボード上のキーを表します。** ↵はEnterキーを表します。また、N は Nみ のことです。このように必要な部分のみを記載しているため、実際のキートップの表示とは異なる場合があります。
Ctrl + Z	**＋の前のキーを押したまま＋の後のキーを押します。** **この例では、Ctrl を押したまま Z を押します。**

名称の表記

本書では、コンピュータに関連する製品の名称を次のように表記します。

HDD	**ハードディスクドライブ**
FD	**フロッピーディスク**
FDD	**フロッピーディスクドライブ**

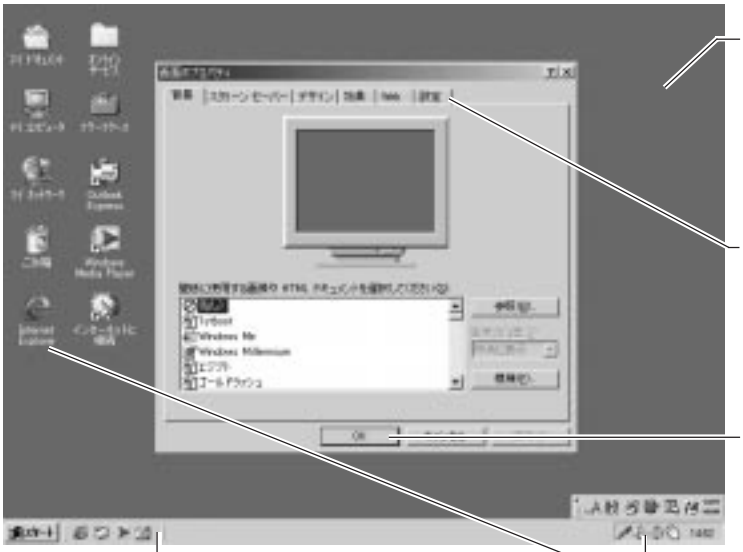
オペレーションシステムに関する記述

本書では、オペレーションシステムの名称を次のように略して表記します。

WindowsMe	**Microsoft® Windows® Millennium Edition**
Windows98	**Microsoft® Windows® 98 Operating system**
Windows2000	**Microsoft® Windows® 2000 Professional**
WindowsNT4.0	**Microsoft® Windows NT® Workstation Operating system Version 4.0**
MS-DOS	**Microsoft® MS-DOS® Operating system Version 6.2/V**

Windowsの画面表示に関する記載方法

本書では、Windows画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。



デスクトップ
Windowsが起動して、ディスプレイに表示される画面。

タブ

ボタン

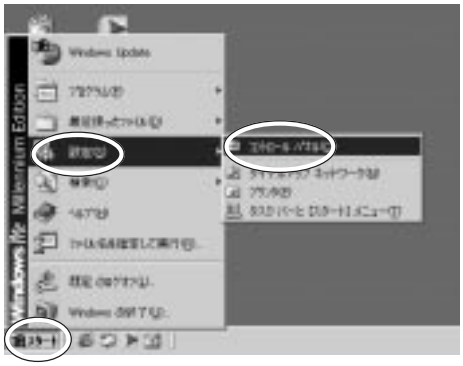
タスクバー
起動中のアプリケーションが表示されたり、画面の設定、音量の設定ができるアイコンが表示されるバー。

アイコン
デスクトップ上に並んでいる小さなイラスト。
機能などをイラストで表示しています。

Windowsの画面操作に関する記載方法

本書では、Windows画面上で行う操作手順を次のように記載します。

●記載例　：**[スタート]**をクリックします。
実際の操作　：スタートをクリックします。

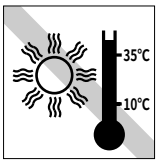


●記載例　：[スタート]－「設定」－「コントロールパネル」をクリックします。
実際の操作　：① **[スタート]**をクリックします。
② 表示されたメニューから**「設定」**をクリックします。
③ 横に表示されるサブメニューから**「コントロールパネル」**をクリックします。

製品保護上の注意

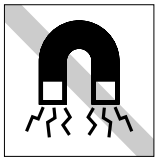
使用・保管時の注意

コンピュータは精密な機械です。故障や誤動作の原因となりますので、次の注意事項を必ず守って、本製品を正しく取り扱ってください。

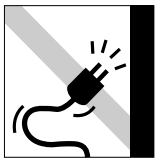


温度が高すぎる所や、温度が低すぎる所には置かないでください。また、急激な温度変化も避けてください。
故障、誤動作の原因になります。適切な温度の目安は10℃～35℃です。

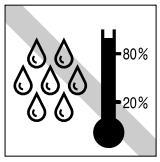
直射日光の当たる所や、発熱器具(暖房器具や調理用器具など)の近くなど、高温・多湿となる所には置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。



テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものの近くに置かないでください。コンピュータの誤動作が生じたり、FDなどのデータが破壊されることがあります。逆に、コンピュータの影響でテレビやラジオに雑音が入ることもあります。



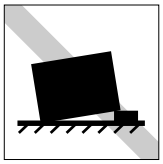
電源ケーブルが抜けやすい所(ケーブルに足が引っかかりやすい所や、ケーブルの長さがぎりぎりの所など)にコンピュータを置かないでください。バッテリパックの状態により、電源ケーブルが抜けると、それまでの作業データがメモリ上から消えることがあります。



湿度が高すぎる所や、湿度が低すぎる所には置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。適切な湿度の目安は20%～80%です。

ホコリの多い所には置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。

他の機械の振動が伝わる所など、振動しがちな場所には置かないでください。故障、誤動作の原因になります。

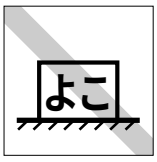


不安定な所には設置しないでください。
落下したり、振動したり、倒れたりすると、コンピュータが壊れ、故障することがあります。

LCD画面の表面を先のとがったもので引っかいたり、無理な力を加えたりしないでください。
LCD画面の表面はアクリル製ですので、キズが付いたり、割れたりすることがあります。

本製品の汚れを取るときは、ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。柔らかい布に中性洗剤を滴らない程度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。

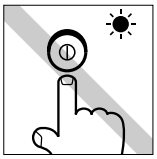
遠隔地に輸送するときや保管するときは、裸のままで行わないでください。衝撃や振動、ホコリなどからコンピュータを守るため、専用の梱包箱に入れてください。



コンピュータ本体を横置きにしないでください。
故障、誤動作の原因になります。
本機は縦置き専用に設計されています。

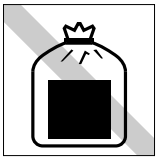
コンピュータ本体の上には重い物を載せないでください。
倒れたり、重圧により、故障や誤動作の原因となることがあります。

本製品を落としたり、ぶつけるなど、ショックを与えないでください。



アクセスランプが点灯中は、コンピュータの電源を切ったり、リセットをしないでください。

輸送や保管をするときは、付属物をセットしたままにしないでください。配線ケーブル、フロッピーディスク、CD-ROMなどは取り外してください。



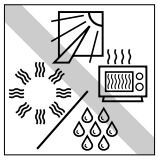
コンピュータ・バッテリパックは一般ゴミとして廃棄しないでください。
廃棄するときは、お住まいの市区町村の条例または規則に従って、適切に処分してください。

記録メディア

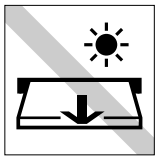
以下のような取り扱いをすると、次の記録メディアに登録されたデータが破壊されるおそれがあります。
記録メディアの種類は、次のとおりです。

- FD **FD**
- CD-ROM・DVD-ROMなど **CD**

記録メディアの種類を指定していない場合は、すべての記録メディアに該当します。

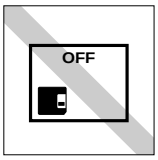


直射日光が当たる所、暖房器具の近くなど、高温・多湿となる場所には置かないでください。



アクセスLEDが点灯中は、記録メディアを取り出したり、コンピュータの電源を押したり、リセットをしないでください。

上に物を載せないでください。

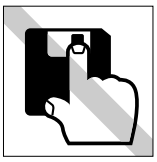


使用後は、コンピュータにセットしたままにしたり、裸のまま放置したりしないでください。
専用のケースに入れて保管してください。

キズを付けないでください。

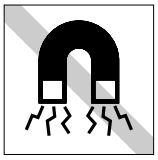
ゴミやホコリの多いところでは、使用や保管しないでください。

クリップではさむ、折り曲げるなど、無理な力をかけないでください。



アクセスカバーを開けたり、磁性面に触れたりしないでください。**FD**

磁性面にホコリや水を付けないでください。
シンナーやアルコールなどの溶剤類を近づけないでください。**FD**

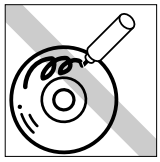


テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものに近づけないでください。**FD**

何度も読み書きしたフロッピーディスクは使わないでください。
磨耗したフロッピーディスクを使うと、読み書きでエラーが生じることがあります。**FD**

信号面(文字などが印刷されていない面)に触れないでください。**CD**

レコードやレンズ用のクリーナーなどは使わないでください。
クリーニングするときは、CD専用クリーナーを使ってください。**CD**



信号面(文字などが印刷されていない面)に文字などを書き込まないでください。**CD**

CD-ROMドライブのデータ読み取りレンズをクリーニングするCDは使わないでください。**CD**

レコードのように回転させて拭かないでください。
CD-ROMは、内側から外側に向かって拭いてください。**CD**

シールを貼らないでください。**CD**

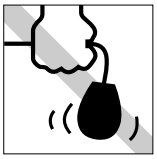
マウス

マウスは精密な機械です。次の点に注意して操作してください。

落としたり、ぶつけたりして強い衝撃を与えないでください。

マウスボールを素手で触らないでください。マウスボールにホコリやゴミが付いたまま使用すると、誤動作や故障の原因になります。

平らな場所で使用してください。
でこぼこのある場所ではマウスボールの回転が不規則になり、マウスの動きがコンピュータに正確に伝わりません。



持ち運びはマウス本体を持ってください。ケーブルを持って運ばないでください。

使い始めるまでの準備

コンピュータの接続方法、電源の入れ方、切り方やセットアップについて説明します。

ご使用の前に

ご使用前の確認事項

本機の次の場所には、製品情報が記載されたラベルが貼られています。本機をご使用の前に、ラベルが貼られていることを確認してください。ラベルは、絶対にはがさないでください。

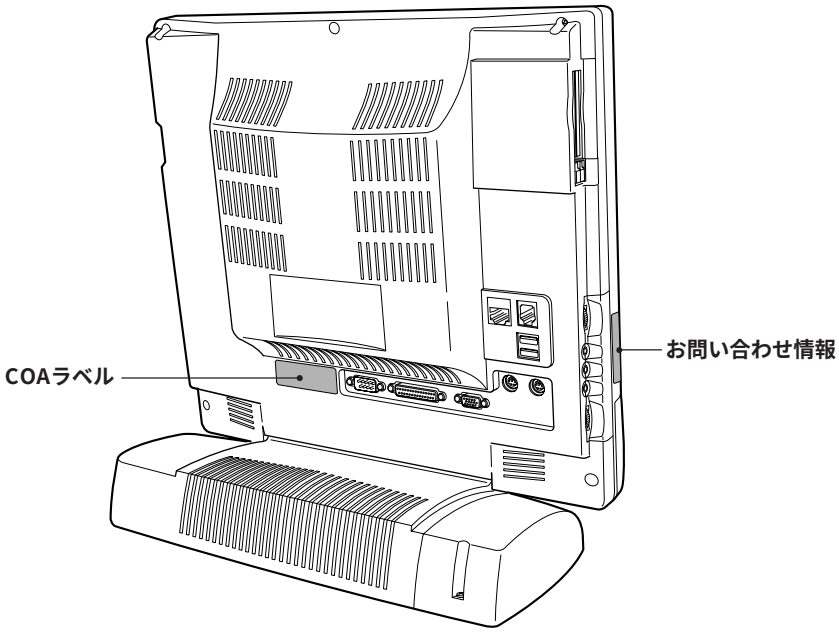
- **お問い合わせ情報ラベル**

  お問い合わせ情報ラベルには、型番や製品番号が記載されています。弊社へのサポート・サービスに関するお問い合わせをいただく際にこれらの番号が必要です。

  製品のサポート・サービスについては、『サポート・サービスのご案内』または『サポートと保守サービスのご案内』をご覧ください。

- **COAラベル**

  COAラベル（Windows Certificate of Authenticityラベル）は、正規のWindowsを購入されたことを証明するラベルです。万一COAラベルを紛失された場合、再発行はできません。絶対にはがさないでください。



コンピュータを使い始めるまでの手順

購入後に初めて使用する場合は、次の手順で作業を行ってください。

梱包品の確認
（『梱包品の確認』）

まず、梱包品に不足や不良がないか確認します。

↓

安全にお使いいただくために
（表紙裏面）

本製品を正しく安全にお使いいただくための情報を確認します。必ずお読みください。

↓

製品保護上の注意
（(9)ページ）

本製品を正しく取り扱っていただくための注意事項を確認します。必ずお読みください。

↓

ご使用の前に
（2ページ）

本製品を正しく取り扱っていただくための情報を確認します。

↓

各部の名称と働き
（8ページ）

本機の、各部の名称と働きを確認します。

↓

コンピュータの設置
（12ページ）

各機器の接続を行い、本機を使用可能な状態にします。

↓

電源の入れ方とWindowsのセットアップ
（18ページ）

電源を入れ、Windowsを初めて起動したときに実行されるWindowsのセットアップを行います。

↓

電源の切り方
（43ページ）

Windowsを終了し、本機の電源を切ります。

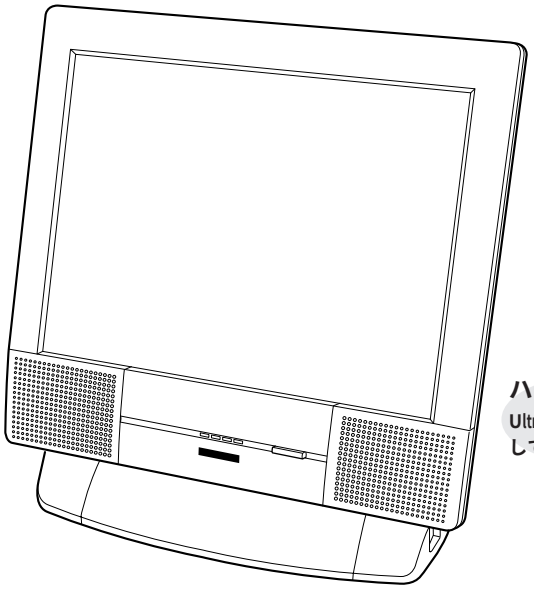
本機の特長

メモリ容量
64MBのSDRAM(Synchronous DRAM)を標準で搭載しています。最大512MBまで拡張できます。

表示
XGA(1024×768ドット)の高精細かつ鮮明なワイドビューアングルTFT液晶ディスプレイ(LCD)を一体型で搭載しています。

PCカードスロット
PC Card Standard準拠Card Bus対応のPCカードスロットを2本装備しています。

ステレオスピーカ内蔵
ステレオスピーカを内蔵しています。



ハードディスクドライブ
Ultra ATA/66対応のHDDを搭載しています。

CPU性能
Intel PentiumIIIプロセッサまたはIntel Celeronプロセッサを搭載しています。

ネットワーク機能
100BASE-TXに対応したネットワーク機能を内蔵しています。

FAXモデム機能
V.90に対応したFAXモデムを内蔵しています。
(FAXモデム機能搭載モデル)

赤外線通信
高速赤外線通信ポートを装備しています。

USB
USBコネクタを側面2コ、背面2コの計4コ装備しています。

添付ソフトウェアの概要

本機に標準で添付されているソフトウェアは次のとおりです。購入時の仕様によっては、このほかにも添付されているソフトウェアがあります。

記号の見方

《ソフトウェア添付形態》

:ディスクが添付されています。
各ソフトウェアは次のディスクに登録されています。
*1「リカバリCD-ROM」
*2「マウスドライバCD」
*3「ユーティリティCD」

Ⓑ **:バックアップディスクの作成が必要です。**
☞ **p.18「電源の入れ方とWindowsのセットアップ」**

《インストール状態》

:内蔵HDDにインストールされています。

:インストールされていません。必要に応じてWindowsのセットアップ後にインストールしてください。

× **:ソフトウェアは添付されていません。または使用しません。**

■ WindowsMe/Windows98インストールモデル

ソフトウェア	添付形態	インストール状態	
		WindowsMe インストールモデル	Windows98 インストールモデル
● **WindowsMe** WindowsMeは最新のものがインストールされています。 ☞『WindowsMeクイックスタートガイド』	*1		×
● **Windows98** Windows98は最新のものがインストールされています。 ☞『Windows98ファーストステップガイド』	*1	×	
● **マウスドライバ** マウスを使用するためのドライバです。	*2		
● **ディスプレイドライバ** Windowsを高解像度・多色で表示するためのドライバです。	*1		
● **サウンドドライバ** 音を鳴らしたり、録音するためのドライバです。	*1		
● **３モードFDDドライバ** 1.25MBフォーマットのフロッピーディスクを読み書きするためのドライバです。	*1		
● **キーボードユーティリティ** ホットキーを使用するためのドライバとユーティリティです。	*1		

ソフトウェア	添付形態	インストール状態	
		WindowsMe インストールモデル	Windows98 インストールモデル
● **FAXモデムドライバ(FAXモデム機能搭載モデル)** FAXモデム機能を使用するためのドライバです。	*1		
● **ネットワークドライバ** ネットワーク機能を使用するためのドライバです。	*1		
● **STD領域作成ユーティリティ** 省電力モードの休止状態を保存する領域を作成するためのユーティリティです。	*1	×	
● **VirusScan for Windows** 最新マクロウィルスに対応し、ウィルス駆除もできる高機能なウィルス対策プログラムです。 ☞『VirusScan for Windowsユーザーズガイド(電子マニュアル)』	*3		
● **Adobe Acrobat Reader** 様々なアプリケーションソフトで作成した書類のデザインやレイアウトをそのまま再現するPDFファイルの表示やプリントができるソフトウェアです。	*3		
● **ユーザーズマニュアル(PDFファイル)** 「ユーザーズマニュアルファイル」(本書)が、コンピュータ画面上でいつでも見られるようにPDF化されています。	Ⓑ		

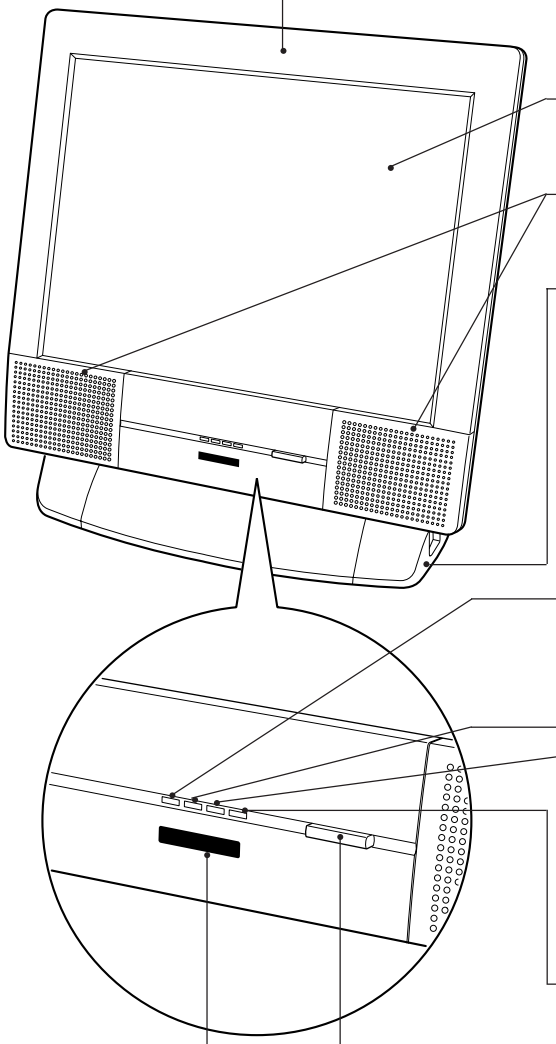
■ Windows2000/WindowsNT4.0インストールモデル

ソフトウェア	添付形態	インストール状態	
		Windows2000 インストールモデル	WindowsNT4.0 インストールモデル
● **Windows2000** Windows2000は最新のものがインストールされています。 ☞『Windows2000クイックスタートガイド』	*1		×
● **WindowsNT4.0** WindowsNT4.0は最新のものがインストールされています。 ☞『WindowsNT4.0ファーストステップガイド』	*1	×	
● **マウスドライバ** マウスを使用するためのドライバです。	*2		

ソフトウェア	添付形態	インストール状態	
		Windows2000 インストールモデル	WindowsNT4.0 インストールモデル
● **ディスプレイドライバ** Windowsを高解像度・多色で表示するためのドライバです。	*1		
● **AGPドライバ** 画面の高速表示をするためのドライバです。	*1		×
● **サウンドドライバ** 音を鳴らしたり、録音するためのドライバです。	*1		
● **３モードFDDドライバ** 1. 25MBフォーマットのフロッピーディスクを読み書きするためのドライバです。	*1		
● **IDEドライバ** DMA機能を有効にするためのドライバです。	*1		×
● **FAXモデムドライバ（FAXモデム機能搭載モデル）** FAXモデム機能を使用するためのドライバです。	*1		
● **ネットワークドライバ** ネットワーク機能を使用するためのドライバです。	*1		
● **VirusScan for Windows** 最新マクロウィルスに対応し、ウィルス駆除もできる高機能なウィルス対策プログラムです。 ☞『VirusScan for Windowsユーザーズガイド（電子マニュアル）』	*3		
● **Adobe Acrobat Reader** 様々なアプリケーションソフトで作成した書類のデザインやレイアウトをそのまま再現するPDFファイルの表示やプリントができるソフトウェアです。	*3		
● **ユーザーズマニュアル（PDFファイル）** 「ユーザーズマニュアルファイル」（本書）が、コンピュータ画面上でいつでも見られるようにPDF化されています。	Ⓑ		

各部の名称と働き

前面



LCDユニット
スピーカなども含めた画面部分の総称です。

LCDパネル
入力した文字や、作業内容を表示します。

内蔵ステレオスピーカ
警告音や、音声などを鳴らします。

電源ユニット
スタンド部の総称です。

FDDアクセスランプ
FDに読み書きを行っているときに点灯します。

CD-ROMドライブアクセスランプ
CD-ROMにアクセスしているときに点灯、点滅します。

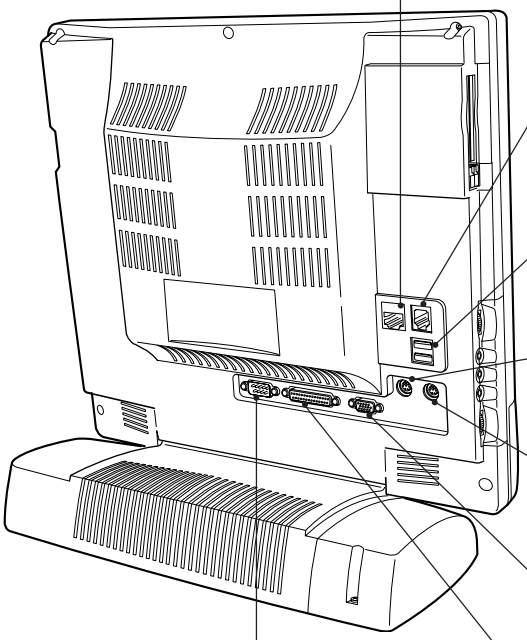
HDDアクセスランプ
HDDにアクセスしているときに点灯します。

電源ランプ
電源を入れると緑色に点灯します。スタンバイ中は橙色に点滅します。

電源スイッチ
コンピュータの電源の入/切を行います。

赤外線通信ポート
赤外線通信を行います。

背面



ネットワークコネクタ
ネットワークと接続します。

モデムコネクタ
（FAXモデム機能搭載モデル）
電話回線を接続します。

USBコネクタ
USB機器を接続します。

マウスコネクタ
PS/2マウスを接続します。

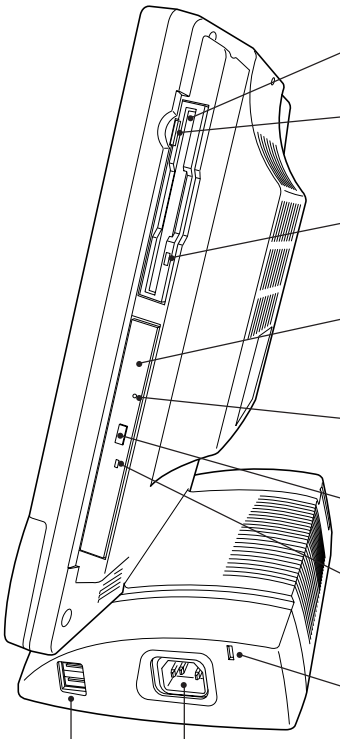
キーボードコネクタ
PS/2キーボードを接続します。

VGAコネクタ
外付けディスプレイを接続します。

パラレルコネクタ
プリンタや、スキャナなどを接続します。

シリアルコネクタ
モデムなど、RS-232Cインタフェースに対応した機器を接続します。

右側面



3.5型FDD
3.5型FDDの読み書きを行います。

FDDイジェクトボタン
FDDにセットしたFDを取り出すときに押します。

FDDアクセスランプ
FDに読み書きを行っているときに点灯します。

スリムドライブ
CD-ROM、CD-R/RW、DVD-ROMドライブのいずれかが装着されています。

イジェクトホール
ディスクトレイが開かなくなったときに使用します。

イジェクトボタン
ディスクトレイの開閉を行います。

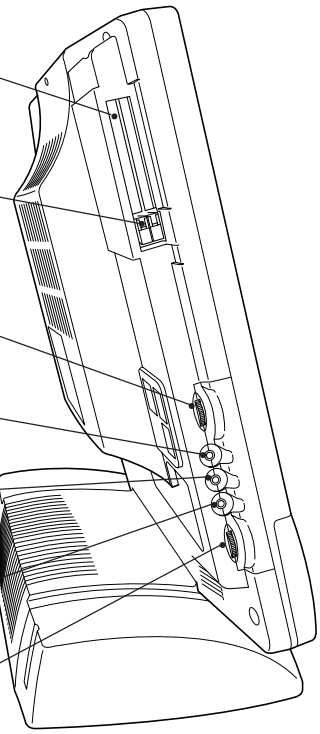
アクセスランプ
CDにアクセスしているときに点灯・点滅します。

ケンジントンロック
ケンジントン社製セキュリティキーを差しこみます。(盗難防止用)

電源コネクタ
添付の電源コードを接続して電気を供給します。

USBコネクタ
USB装置を接続します。

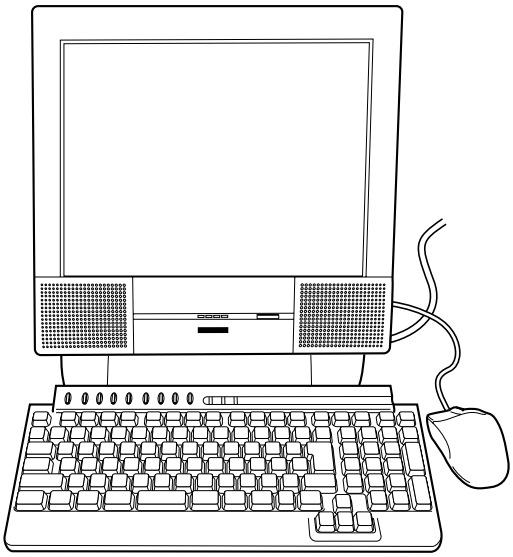
左側面



- **PCカードスロット**
  PC Card Standard準拠のPCカードをセットして使用します。
- **PCカードイジェクトボタン**
  PCカードを取り出すときに押します。
- **輝度調節ダイヤル**
  画面の明るさを調節します。
- **マイク入力コネクタ**
  マイクを接続します。
- **ライン入力コネクタ**
  カセットデッキなどのオーディオ機器のライン出力端子と接続します。
- **ヘッドフォン出力コネクタ**
  スピーカや、ヘッドフォンを接続します。
- **ボリューム調節ダイヤル**
  スピーカの音量を調節します。

コンピュータの設置

本機を安全な場所に設置し、キーボードやマウス、電源コードなどを接続して使用できる状態にする手順を説明します。
ここでの説明は標準的なシステム構成で行っています。プリンタなどの周辺機器は、Windowsのセットアップ終了後に周辺機器に添付のマニュアルを参照して接続とセットアップを行ってください。



設置における注意

注意

- **不安定な場所(ぐらついた台の上や傾いた所など)に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。**
- **本製品の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。次のような場所には設置しないでください。**
  ・押し入れや本箱などの風通しの悪いところ
  ・じゅうたんや布団の上
  ・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。

故障や誤動作を防ぐため、「製品保護上の注意」にある注意事項を守って設置場所を決めてください。

各種コード(ケーブル)接続時の注意

警告

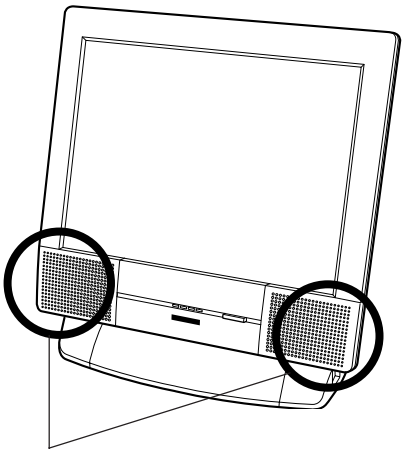
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源コードのたこ足配線はしないでください。発熱し、火災の原因となります。家庭用電源コンセント(交流100V)から電源を直接取ってください。
- 電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。取り扱いを誤ると、火災の原因となります。
  - ・電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
  - ・電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。

注意

- 各種コード(ケーブル)は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、火災の危険があります。

本機を持ち運ぶ際の注意

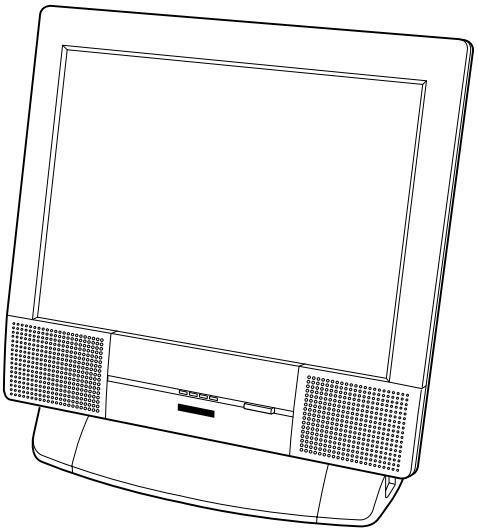
本機を動かしたり、持ち運んだりするときは次の場所を持ってください。適切でない場所を持つとLCDユニットが壊れる恐れがあります。



この部分を持ってください。

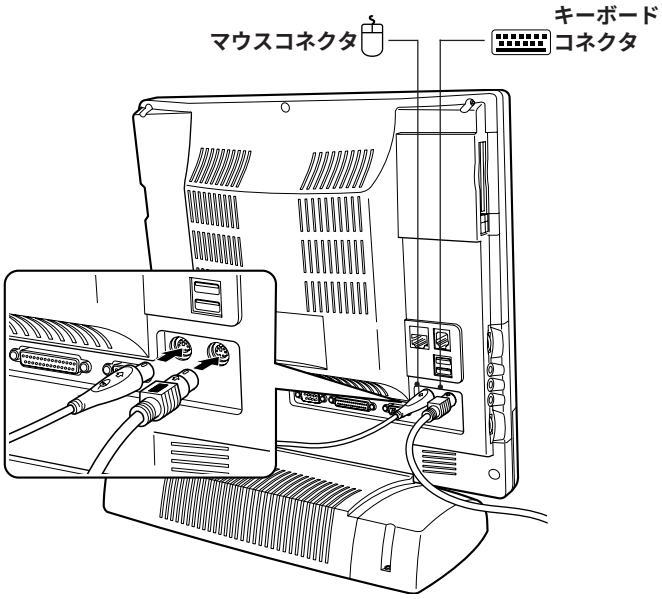
設　置

1 本機を丈夫で水平な場所に置きます。



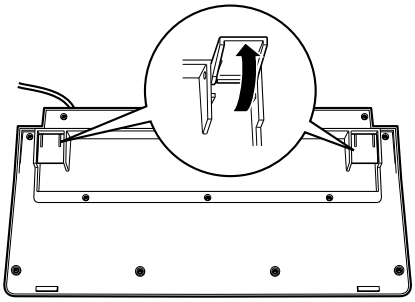
キーボードとマウスの接続

2 キーボードケーブルのコネクタとマウスケーブルのコネクタの矢印を上向きにして、本体の各コネクタに差し込みます。



キーボードは操作しやすい位置に置き、次の調節をしてください。

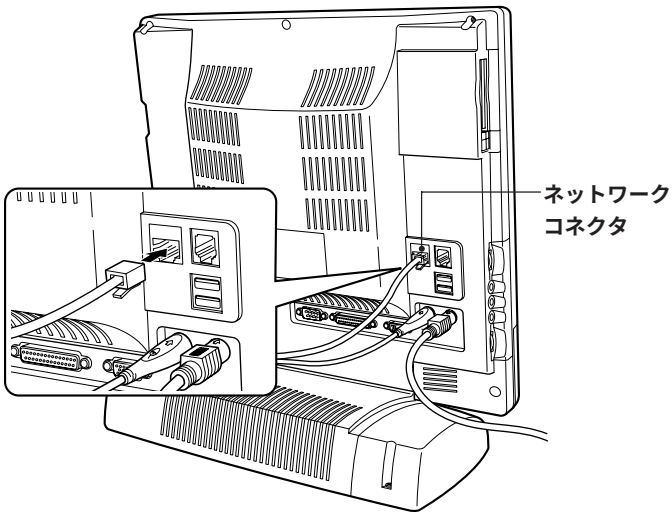
● キーボードを傾斜させるときはキーボード背面の両端の脚を起こします。



ネットワークへの接続

3 ネットワークケーブルでネットワークと接続します。

ネットワークコネクタがカチッと音がするまで差し込みます。



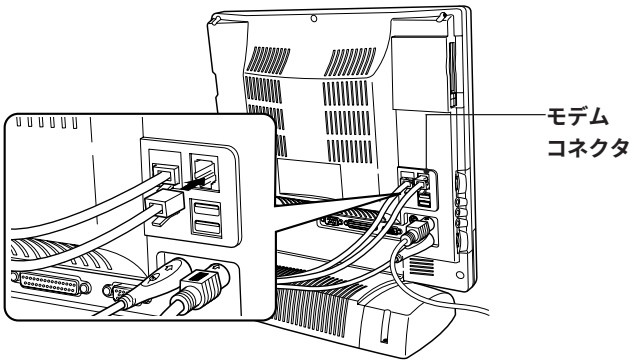
電話回線への接続

4 FAXモデム機能搭載モデルの場合は、電話回線への接続を行います。

使用している回線や、電話機によっては接続ができないことがあります。p.80「FAXモデムを使う」をご覧ください。

❶ **付属のモジュラコードの一端をモデムコネクタにカチッと音がするまで差し込みます。**

❷ **モジュラコードのもう一端を電話回線に差し込みます。**



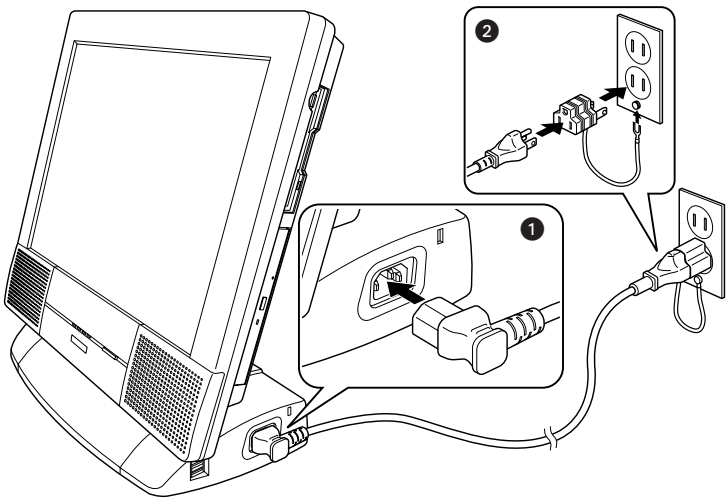
電源コードの接続

5 電源コードを接続します。

❶ **本機の電源コネクタに電源コードを接続します。**

❷ **家庭用電源コンセントに、添付の電源プラグ変換アダプタを接続してから、電源コードを接続します。**

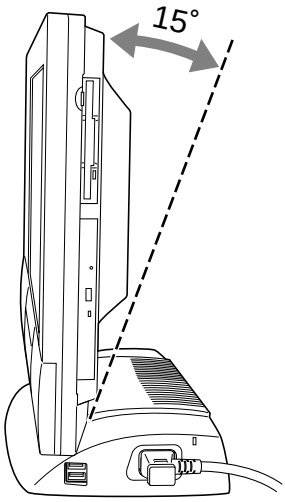
アース端子が付いているコンセントの場合、電源コードのアース線を接続します。



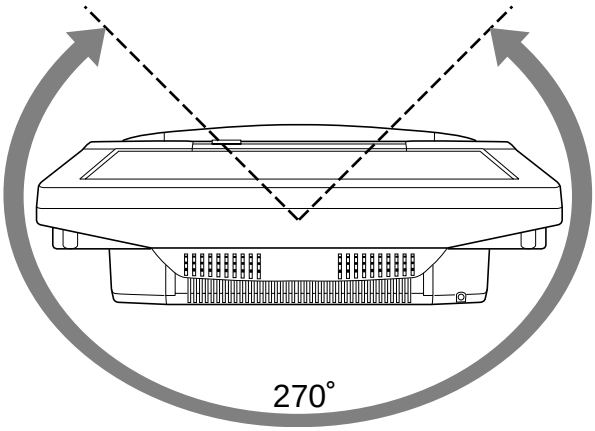
角度の調節

6 LCDユニットの角度と方向を調節します。

LCDユニットは、15°まで後ろに倒すことができます。



LCDユニットは、270°回転させることができます。



これでコンピュータの設置は終了です。
つづいてWindowsのセットアップを行います。

電源の入れ方とWindowsのセットアップ

本章では、電源の入れ方と購入後に初めて電源を入れたときに行うWindowsのセットアップについて説明します。

電源を入れる前に

Windowsのセットアップ

コンピュータが届いてから初めて電源を入れた場合には、Windowsが起動後、自動的に「**Windowsセットアップ**」が起動します。これは、初めて電源を入れたときに、1度だけ起動するソフトウェアです。お使いになるお客様の情報を記録したり、お使いのシステム環境に合わせて設定を行います。画面に表示されるメッセージに従って対話式で簡単に実行できます。

マウスの使い方

Windowsのセットアップは、マウスで行います。
セットアップで必要なマウスの基本操作を説明します。

1 **Windowsの画面では、次のようにマウスポインタが表示されます。マウスを机の上で前後左右に動かすと、動かした方向にマウスポインタが移動します。**

2 **画面に操作を選択するボタンなどが表示されています。**

これから行いたい操作のボタン上にマウスポインタの先端を合わせます。マウスポインタを合わせたら、マウスの左ボタンを1回「カチッ」と押して離します。これで、操作が選択され、実行します。以降このように左ボタンを1回押す操作を「クリック」といいます。

☞ p.48「マウスを使う」

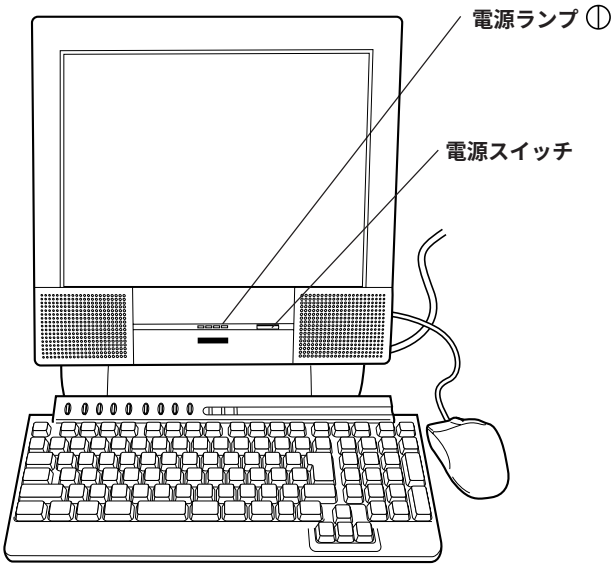
電源の入れ方とWindowsの起動

本体の電源の入れ方は次のとおりです。

初めて電源を入れる

1 **本体の電源スイッチを押します。電源ランプが点灯します。**

電源ランプが点灯しない場合は、電源コードが正しく接続されているか確認します。



2 **画面にコンピュータの仕様が表示され、しばらくするとWindowsが起動します。**

購入後初めて電源を入れたときはWindowsのセットアップを行います。

☞ p.23/p.26/p.30/p.35「Windowsのセットアップ」

次の調節をして画面を見やすくします。

- 角度　　：LCDパネルを前後に動かします。
- 画面の明るさ：輝度調整ダイヤルで調整します。

2回目以降に電源を入れる

セットアップが終了したコンピュータに電源を入れるときには、次の点に注意してください。

- **電源が切れていることを電源ランプで確認してから電源を入れる。**
  省電力機能が働き、動作中でも画面の表示が消えていることがあります。電源を入れるつもりで切ってしまわないように注意しましょう。
  ☞ p. 96「省電力機能」
- **電源を入れなおすときは、20秒程度の間隔を開けてから電源を入れる。**
  電気回路に与える電気的な負荷を減らして、HDDなどの動作を安定させます。
- **周辺機器を接続している場合は、周辺機器の電源を先に入れる。**
  コンピュータよりも先に電源を入れておかないと、コンピュータに認識されない機器があります。

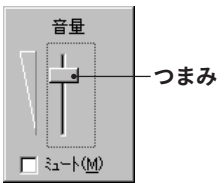
Windows使用時の確認事項

セットアップ作業が終了するとWindowsが使用できる状態になります。また、次回より電源を入れると起動後すぐにWindowsが使用できるようになります。Windowsの使用方法は、Windowsに添付の『ファーストステップガイド』(Windows98/WindowsNT4.0)または『クイックスタートガイド』(WindowsMe/Windows2000)や、ヘルプをご覧ください。
Windows使用時の確認事項や設定事項は次のとおりです。

音量の調節

Windows起動時に音が鳴らない、または大きすぎるといった場合には次のように音量を調節します。

- **ボリューム調節ダイヤル**
  下に回すと大きく、上に回すと小さくなります。
- **スピーカアイコン**
  画面右下のタスクバーに表示されているスピーカアイコンをクリックすると「ボリュームコントロール」が表示されます。つまみを上下にドラッグして調節します。



省電力機能

WindowsMe/Windows98/Windows2000インストールモデルでは、一定時間マウスやキーボードの操作をしないと、省電力機能が働いて画面表示が消えます。この場合キーボードやマウスの操作でもとに戻ります。

☞p.96「省電力機能」

電源ランプの表示

動作の状態は、電源ランプによって確認できます。

動作状態	電源ランプの表示
通常モード、HDD/ ディスプレイの電源を切る	緑点灯
スタンバイ	橙点滅
休止状態、電源切断時	消　灯

デバイスドライバをインストールするときは

デバイスドライバをインストールしたり、周辺機器を接続したりするときに「Windows CD-ROM」が要求されることがあります。このような場合は添付の「リカバリCD-ROM」をセットせずに、次のフォルダ名を指定してください。

WindowsMeインストールモデルの場合　：C:\WINDOWS\OPTIONS\CABS
Windows98インストールモデルの場合　：C:\WINDOWS\OPTIONS\CABS
Windows2000インストールモデルの場合：C:\I386（Iはアルファベット）
WindowsNT4.0インストールモデルの場合：C:\I386（Iはアルファベット）

上記フォルダは工場出荷時にCドライブに保存されています。
これらのフォルダはデバイスドライバのインストール時に必要なフォルダです。絶対に削除しないでください。

購入時のHDD領域の設定について

購入時のHDDは次のように設定されています。

インストールモデル	ドライブ	ファイルシステム
WindowsMe Windows98 Windows2000	すべての領域　(C ドライブ)	FAT 32
WindowsNT4.0	最初の 2GB　(C ドライブ)	FAT 16
	残りの領域	未設定

WindowsNT4.0の未設定領域

WindowsNT4.0インストールモデルでは、HDDの先頭の2GBに基本MS-DOS領域（Cドライブ）を作成しWindowsをインストールしてあります。この領域を2GB以上に拡張することはできません。

WindowsNT4.0の未設定領域はこのままでは使用できません。p.59「未設定領域の設定」を参照して、領域の作成を行ってください。その際、未設定領域は、必ず「拡張パーティション」に設定してください。

参考

Cドライブがデータでいっぱいになったら

WindowsNT4.0インストールモデルのCドライブ（2GB）がデータでいっぱいになり、容量不足になったときは、Cドライブの「I386」フォルダ(約450MB)をDドライブまたは、それ以降のドライブに移動すると、空き領域を作成できます。

コントロールパネルの表示（WindowsMeのみ）

購入後初めて「コントロールパネル」を開くと、下図の左側の画面が表示されます。この表示は、よく使うアイコンのみを表示しています。マニュアル中に記載されている各種設定を行うときに、必要なアイコンが表示されない場合は、画面左側の「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する」をクリックします。

WindowsMeインストールモデルのセットアップ

本章では、WindowsMeインストールモデルのセットアップ方法について説明します。

WindowsMeのセットアップ

WindowsMeインストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

1 **電源を入れた後、しばらくすると自動的に「WindowsMeセットアップ」が実行されます。セットアップの作業の流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。**

Microsoft Windowsへようこそ

↓ セットアップを続行するには、[次へ]をクリックします。

使用許諾契約に同意

↓ 画面に表示された契約内容に同意するかしないかを設定します。
※「同意しない」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

設定が完了しました

↓ Windowsが正常にインストールされました。[完了]をクリックし、セットアップを続けてください。

お知らせの確認

↓ 本機をお使いになる前に知っておいていただきたい内容が表示されます。必ずお読みください。すべて読み終わったら[OK]をクリックします。

バックアップディスクの作成

バックアップFD作成ユーティリティが起動します。
購入時のシステム構成によってバックアップFDの作成が必要な場合は、「ディスクセットの選択画面」が表示されます。必要がない場合は、「…作成する必要がありません。」と表示されます。

☞ p.41「バックアップディスクの作成」

2 **WindowsMeのデスクトップが表示されます。これでWindowsMeのセットアップは終了です。**
続けて「セットアップ終了後の作業」を行います。

セットアップ終了後の作業

WindowsMeセットアップ終了後に、次の作業が必要です。

WindowsMe起動ディスクの作成

WindowsMeが、HDDから起動しなくなった場合などに使用するディスクを作成します。必ず作成してください。
☞p.25「WindowsMe起動ディスクの作成」

ネットワークに接続する

ネットワーク機能を使用する場合は、ネットワークへの接続を行います。接続を行う際には、ネットワークに関する情報が必要です。ネットワーク管理者の指示に従ってください。

FAXモデムの設定

FAXモデム機能搭載モデルをお使いの場合は、インターネットへの接続が行えるようFAXモデムの設定を行います。
☞p.82「インターネットに接続するには」

赤外線通信の設定

赤外線通信機能を使用する場合は、機能を有効に設定する必要があります。
☞p.67「赤外線通信を使用可能にする」

VirusScan for Windowsのインストール

本機のHDDには、「VirusScan for Windows」がインストールされていません。「VirusScan for Windows」をインストールします。
☞『VirusScan for Windowsをご使用の前に』

「セットアップ終了後の作業」が終了すると、Windowsを使用することができます。p.20「Windows使用時の確認事項」をよくお読みになり、Windowsを使用してください。

WindowsMe起動ディスクの作成

WindowsMe起動ディスクは、WindowsMeがHDDから起動しなくなった場合などに使用します。

WindowsMe起動ディスクは、次の方法で作成します。あらかじめフォーマット済みのFDを1枚用意しておきます。

p.55「FDのフォーマット」

1 **「コントロールパネル」－「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリックします。**

2 **「起動ディスク」タブをクリックします。**

3 **FDDにFDをセットして、[ディスクの作成]をクリックします。**

4 **作成が完了したら「WindowsMe起動ディスク」と書いたラベルを貼り、ライトプロテクトをして保管します。**

p.57「ライトプロテクト（書き込み禁止）」

Windows98インストールモデルのセットアップ

本章では、Windows98インストールモデルのセットアップ方法について説明します。このセットアップでは、お使いになるお客様の情報収集などを行います。

Windows98のセットアップ

Windows98インストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

1 **電源を入れた後、しばらくすると自動的に「Windows98セットアップ」が実行されます。セットアップの作業の流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。**

ようこそ

↓ 日本語入力システムIMEの説明が表示されます。

Windows98へようこそ

↓ ユーザー情報として名前とふりがなを入力します。
※名前を入力後 Tab を押すとふりがなの欄にポインタが移動します。

Windowsユーザ使用許諾契約書

↓ 画面に表示された契約内容に同意するかしないかを設定します。
※「同意しない」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

セットアップの完了

↓ Windowsが正常にインストールされました。[完了]をクリックし、セットアップを続けてください。

日付と時刻の設定

↓ 「タイムゾーン」で地域を指定し、「日付と時刻」で現在の日時を設定します。設定したら[閉じる]をクリックします。設定を変更する場合は、日本語入力システムをオフにした状態で行ってください。

お知らせの確認

本機をお使いになる前に知っておいていただきたい内容が表示されます。必ずお読みください。すべて読み終わったら[OK]をクリックします。

バックアップディスクの作成

バックアップFD作成ユーティリティが起動します。
購入時のシステム構成によってバックアップFDの作成が必要な場合は、「ディスクセットの選択画面」が表示されます。必要がない場合は、「…作成する必要がありません。」と表示されます。

p.41「バックアップディスクの作成」

2 **Windows98のデスクトップが表示されます。これでWindows98のセットアップは終了です。**

続けて「セットアップ終了後の作業」を行います。

次ページ「セットアップ終了後の作業」

セットアップ終了後の作業

Windows98セットアップ終了後に、次の作業が必要です。

Windows98起動ディスクの作成

Windows98がHDDから起動しなくなった場合などに使用するディスクを作成します。必ず作成してください。

p.29「Windows98起動ディスクの作成」

ネットワークに接続する

ネットワーク機能を使用する場合は、ネットワークへの接続を行います。接続を行う際は、ネットワークに関する情報が必要です。ネットワーク管理者の指示に従ってください。

FAXモデムの設定

FAXモデム機能搭載モデルをお使いの場合は、インターネットへの接続が行えるようFAXモデムの設定を行います。

p.82「インターネットに接続するには」

STD領域の確保

休止状態を使用する場合は、休止状態を有効にするためのSTD(Save to Disk)領域を作成します。

p.97「休止状態を有効にする」

赤外線通信の設定

赤外線通信機能を使用する場合は、機能を有効に設定する必要があります。

p.67「赤外線通信を使用可能にする」

VirusScan for Windowsのインストール

本機のHDDには、「VirusScan for Windows」がインストールされていません。「VirusScan for Windows」をインストールします。

『VirusScan for Windowsをご使用の前に』

「セットアップ終了後の作業」が終了すると、Windowsを使用することができます。p.20「Windows使用時の確認事項」をよくお読みになり、Windowsを使用してください。

Windows98起動ディスクの作成

Windows98起動ディスクは、Windows98がHDDから起動しなくなった場合などに使用します。

Windows98起動ディスクは、次の方法で作成します。あらかじめフォーマット済みのFDを2枚用意しておきます。

p. 55「FDのフォーマット」

1 **「コントロールパネル」—「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリックします。**

2 **「起動ディスク」タブをクリックします。**

3 **FDDにFDをセットして、[ディスクの作成]をクリックします。**

4 **画面の指示に従って、2枚の起動ディスクを作成します。**

5 **「Windows98起動ディスク1、2」と書いたラベルを貼り、ライトプロテクトをして保管します。**

p.57「ライトプロテクト(書き込み禁止)」

Windows2000 インストールモデルのセットアップ

本章では、Windows2000インストールモデルのセットアップ方法について説明します。このセットアップでは、お使いになるお客様の情報収集などを行います。

Windows2000のセットアップ

Windows2000インストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

1 **電源を入れた後、しばらくすると自動的に「Windows2000 セットアップ」が実行されます。セットアップ作業の流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。**

Windows2000セットアップウィザードの開始

↓ セットアップを続行するには、[次へ]をクリックします。

ライセンス契約

↓ 画面に表示された契約内容に同意するかしないかを設定します。
※「同意しない」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

ソフトウェアの個人用設定

↓ ユーザー情報として名前と組織名を管理者の指示に従って入力します。
※ 名前を入力後 Tab を押すと組織名の欄にポインタが移動します。

コンピュータ名とAdministratorのパスワード

↓ 「コンピュータ名」、「Administratorのパスワード」を管理者の指示に従って入力します。

日付と時刻の設定

↓ 「日付と時刻」で現在の日付を設定し、「タイムゾーン」で地域を指定します。設定を変更する場合は、日本語入力システムをオフにした状態で行ってください。

Windows2000セットアップウィザードの完了

Windowsが正常にインストールされました。[完了]をクリックするとコンピュータが自動的に再起動します。

2 **Windows2000が再起動します。パスワードを入力すると、Windows2000のデスクトップが表示されます。**

3 **バックアップディスクを作成します。**

「バックアップFD作成ユーティリティ」を実行し、バックアップディスクを作成する必要があるかを確認します。作成する必要がある場合は、必ず作成してください。

p.41「バックアップディスクの作成」

これでWindows2000のセットアップは終了です。

続けて「セットアップ終了後の作業」を行います。

次ページ「セットアップ終了後の作業」

セットアップ終了後の作業

Windows2000セットアップ終了後に、次の作業が必要です。

セットアップブートディスクの作成

回復コンソールを実行する場合などに使用する「セットアップブートディスク」を作成します。必ず作成してください。

p.33「セットアップブートディスクの作成」

ネットワークに接続する

ネットワーク機能を使用する場合は、ネットワークへの接続を行います。接続を行う際には、ネットワークに関する情報が必要です。ネットワーク管理者の指示に従ってください。

FAXモデムの設定

FAXモデム機能搭載モデルをお使いの場合は、インターネットへの接続が行えるようFAXモデムの設定を行います。

p.82「インターネットに接続するには」

赤外線通信の設定

赤外線通信機能を使用する場合は、機能を有効に設定する必要があります。

p.67「赤外線通信を使用可能にする」

VirusScan for Windowsのインストール

本機のHDDには、「VirusScan for Windows」がインストールされていません。「VirusScan for Windows」をインストールします。

『VirusScan for Windowsをご使用の前に』

「セットアップ終了後の作業」が終了すると、Windowsを使用することができます。p.20「Windows使用時の確認事項」をよくお読みになり、Windowsを使用してください。

セットアップブートディスクの作成

「セットアップブートディスク」は、回復コンソール*を実行する場合などに使用します。必ず作成しておきましょう。

* 回復コンソールとは、システム修復時に使用する特別な管理コマンドを持つプログラムです。
このディスクはコンピュータに関する詳しい知識を持つ方、およびネットワーク管理者の指示に従って使用してください。

セットアップブートディスクの作成は、次の手順で行います。フォーマット済みのFDを4枚用意しておきます。

p. 50「FDのフォーマット」

制限

Windows2000のフォーマットユーティリティでは、未フォーマットFDを2枚以上連続してフォーマットできません。未フォーマットFDをフォーマットする場合はp.56「フォーマット方法」をご覧ください。

1 **[スタート]－「プログラム」－「アクセサリ」－「コマンドプロンプト」をクリックします。**

2 **「コマンドプロンプト」が「C:\>」と表示されたら、次のように入力して[↵]を押します。**

CD□\BOOTDISK （□は、スペースを意味します。）

「C:\>」以外のコマンドプロンプトが表示された場合は、次の方法でコマンドプロンプトを「C:\>」とします。

① **「C:」と入力して[↵]を押します。**

② **「CD□\」と入力して[↵]を押します。**

3 **コマンドプロンプトが「C:\BOOTDISK>」と表示されたら、次のように入力して[↵]を押します。**

MAKEBT32

4 **「コピー先のフロッピードライブを指定してください。」と表示されたら[A]を押します。**

5 **画面の指示に従い、ＦＤＤに１枚目のＦＤをセットし、どれかキーを押します。ディスクの作成が始まります。**

6 **１枚目のディスクの作成が終わったら、画面の指示に従い２～４枚目のディスクセットを作成します。作成したディスクは、ディスク名を明記したラベルを貼り、ライトプロテクトして大切に保管してください。**

p.57「ライトプロテクト（書き込み禁止）」

WindowsNT4.0インストールモデルのセットアップ

本章では、WindowsNT4.0インストールモデルのセットアップ方法について説明します。このセットアップでは、お使いになるお客様の情報収集などを行います。

WindowsNT4.0 のセットアップ

Windows NT4.0 インストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

1 **電源を入れた後、しばらくするとWindowsNT Workstationの画面が表示され、Windowsが起動します。**

2 **WindowsNT4.0が起動すると、自動的に「WindowsNTセットアップ」が実行されます。**

セットアップの流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。

ソフトウェア使用許諾契約への同意

↓

画面に表示された契約内容に同意するかしないかを設定します。
※「同意しない」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

情報の収集

↓

ユーザー情報として、次の項目を入力します。
① 名前・組織名
② コンピュータ名
※ Tab を押すと次の欄にポインタが移動します。

WindowsNT4.0のアップデート

↓

- 「Service Pack6aのセットアップ」が行われ、Windows NT4.0が更新されます。
- 「Windows NT4.00は正常にインストールされました。」と表示されたら、Windowsを再起動します。再起動時のオペレーティングシステムの選択では、[WindowsNT Workstation Version 4.00] を選択します。
- さらに「Windows Update:Internet Explorerとインターネットツール」画面で、Windowsが自動的に再起動します。

NTにログオンする

ここで Ctrl + Alt + Delete キーを押し、ログオン情報入力画面が表示されたら、ユーザー名、パスワードには、次のように入力して**[OK]**をクリックします。

ユーザー名：administrator

パスワード：（何も入力しません。）

これらの設定は、**[スタート]-「プログラム」-「管理ツール」-「ユーザーマネージャ」**または「WindowsNTのヘルプ」から変更できます。

3 **ログオンに成功すると、次の画面が表示されます。**

4 **バックアップディスクを作成します。**

「バックアップFD作成ユーティリティ」を実行し、バックアップディスクを作成する必要があるかを確認します。作成する必要がある場合は、必ず作成してください。

p.41「バックアップディスクの作成」

ネットワーク機能を使用しない場合は、これでWindowsNT4.0のセットアップは終了です。

続けて「セットアップ終了後の作業」を行います。

p.40「セットアップ終了後の作業」

ネットワーク機能を使用する場合は手順5に移ります。

5 **ネットワーク機能を使用する場合は、「ネットワークドライバ」と「Service Pack6a」のインストールが必要です。**

本機のHDDには、ネットワークドライバがインストールされていません。ネットワークドライバのインストール時には、ネットワークに関する情報が必要です。ネットワーク管理者の指示に従ってください。

☞p.38「ネットワークドライバのインストール」
☞p.39「Service Pack6aのインストール」

これでWindowsNT4.0のセットアップは終了です。

続けて「セットアップ終了後の作業」を行います。

☞p.40「セットアップ終了後の作業」

ネットワークドライバのインストール

ネットワークドライバのインストールは、次の手順で行います。

1 **「リカバリCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットします。**

2 **[スタート]－「設定」－「コントロールパネル」をクリックします。**

3 **「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。**

4 **「WindowsNTネットワークがインストールされていません。今すぐインストールしますか?」とメッセージが表示されたら、[はい]をクリックします。**

5 **「このコンピュータをネットワークに参加させる方法を指定してください。」と表示されたら、「ネットワークに接続」にチェックマークが付いている状態で[次へ]をクリックします。**

6 **[一覧から選択]をクリックして、続けて[ディスク使用]をクリックします。**

7 **「D:\LAN\NT40」と入力して[OK]をクリックします。**

8 **「OEMオプションの選択」画面で「SIS 900 Fast Ethernet Adapter」を選択して[OK]をクリックします。続けて[次へ]をクリックします。**

9 **以降は、ネットワーク管理者の指示に従って操作します。**
「いくつかのWindowsNTファイルをコピーする必要があります…。」と表示されたら、「C:\I386」と入力して[続行]をクリックします。

10 **「このコンピュータにネットワークがインストールされました。…」とメッセージが表示されたら、[完了]をクリックします。**

11 **「ネットワーク設定の変更」画面で「…今すぐコンピュータを再起動しますか?」と表示されたら[いいえ]をクリックし、「Service Pack6a」のインストールを行います。**
次ページ「Service Pack6aのインストール」

Service Pack6aのインストール

Service Pack6aのインストールは、次の手順で行います。

1 **［スタート］－「ファイル名を指定して実行」をクリックします。**

2 **「名前」に「C:\SP6\SP6I386」と入力して［OK］をクリックします。**
（\SP6I386のIは、アルファベット）

3 **画面の指示に従ってインストールを行います。**
「WindowsNT Service Packセットアップ」画面では、「同意する」にチェックマークを付け、「後でService Packをアンインストールできるように…。」のチェックを外します。

4 **「…インストールは完了しました」と表示されたら、［再起動］をクリックします。**
Windowsが再起動するとService Pack6aのインストールは終了です。

セットアップ終了後の作業

WindowsNT4.0セットアップ終了後に、次の作業が必要です。

FAXモデムの設定

FAXモデム機能搭載モデルをお使いの場合は、インターネットへの接続が行えるようFAXモデムの設定を行います。

☞p.82「インターネットに接続するには」

VirusScan for Windowsのインストール

本機のHDDには、「VirusScan for Windows」がインストールされていません。「VirusScan for Windows」をインストールします。

☞『VirusScan for Windowsをご使用の前に』

Option Packのインストール

必要に応じて「WindwosNT4.0 Option Pack」のインストールを行います。

HDDの領域設定

HDDの未設定領域を使用できるように設定します。

☞p.21「購入時のHDD領域の設定について」

「セットアップ終了後の作業」が終了すると、Windowsを使用することができます。p.20「Windows使用時の確認事項」をよくお読みになり、Windowsを使用してください。

バックアップディスクの作成

バックアップFD作成ユーティリティ

バックアップディスクはバックアップFD作成ユーティリティで作成します。本機で作成するバックアップディスクには、リカバリCD-ROMに登録されていないデバイスドライバや、最新のドライバなどが登録されます。
バックアップディスクは購入時の状態により、作成が必要な場合と、不要な場合があります。作成が必要な場合は、必ず作成してください。HDDを購入時の状態に戻すときに必要です。

作成必要/不要の確認

バックアップディスクの作成が必要かどうかを確認するには「バックアップFD作成ユーティリティ」を起動します。

不要な場合： 「…バックアップディスクを作成する必要はありません。」と表示されます。

必要な場合： 「作成するディスクセットの選択」画面が表示されます。

バックアップ作成ユーティリティの実行

起動方法

バックアップディスクFD作成ユーティリティは、次の方法で起動します。

WindowsMe/Windows98インストールモデル

Windowsのセットアップ時にバックアップFD作成ユーティリティが自動的に起動します。
Windowsのセットアップ中に作成しない場合は、[キャンセル]をクリックします。あとで作成する場合は、[スタート]—「プログラム」—「アクセサリ」—「システムツール」-「バックアップFD作成ユーティリティ」を実行します。

Windows2000/WindowsNT4.0インストールモデル

[スタート]—「プログラム」—「バックアップFD作成ユーティリティ」を実行します。

ディスクの作成

バックアップディスクは次の方法で作成します。画面に表示されたすべてのディスクセットのバックアップディスクを作成してください。フォーマット済みのFDを必要枚数用意してください。

制限

- バックアップディスクを作成する前に、HDDをフォーマットしたり、リカバリを実行したりすると、バックアップディスクが作成できません。
- バックアップディスクを作成しないと、リカバリ実行後に、最新ドライバをインストールできません。

1 「バックアップFD作成ユーティリティ」が実行されると「作成するディスクセットの選択」画面が表示されます。

2 画面に表示されているディスクセットの中から作成したいディスクセットを選択し、[次へ]をクリックします。

3 画面の指示に従ってバックアップディスクを作成します。

4 同様にして「作成するディスクセットの選択」画面に表示されるすべてのディスクセットを作成します。作成したディスクには、ディスク名を明記したラベルを貼り、ライトプロテクトをして大切に保管します。

p.57「ライトプロテクト（書き込み禁止）」

電源の切り方

本章では、電源の切り方について説明します。

制限

- **電源を切ってもう1度入れ直す場合には、電源を入れるときに電気回路に与える電気的な負荷を減らし、HDDなどの動作を安定させるために、20秒程度の間隔を開けてください。**
- **HDDやFDDなどのアクセスランプ点灯中にコンピュータの電源を切ると、登録されているデータが破壊されるおそれがあります。**
- **本機は、電源を切ってもコンセントに接続されていると、微少な電流が流れています。本機の電源を完全に切るには、電源コンセントから電源プラグを抜いてください。**

WindowsMeの終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindowsMeを終了させてから電源を切ります。

1. **[スタート]－「Windowsの終了」をクリックします。**
2. **「Windowsの終了」画面で「終了」を選択し、[OK]をクリックします。**
3. **WindowsMeが終了し、自動的にコンピュータの電源が切れます。**
4. **接続している周辺機器の電源を切ります。**

Windows98の終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindows98を終了させてから電源を切ります。

1. **[スタート]－「Windowsの終了」をクリックします。**
2. **「Windowsの終了」画面で「電源を切れる状態にする」にマークが付いている状態で[OK]をクリックします。**
3. **Windows98が終了し、自動的にコンピュータの電源が切れます。**
4. **接続している周辺機器の電源を切ります。**

Windows2000の終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindows2000を終了させてから電源を切ります。

1. **[スタート]－「シャットダウン」をクリックします。**
2. **「Windowsのシャットダウン」画面で「シャットダウン」を選択し、[OK]をクリックします。**
3. **Windows2000が終了し、自動的にコンピュータの電源が切れます。**
4. **接続している周辺機器の電源を切ります。**

WindowsNT4.0の終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindowsNT4.0を終了させてから電源を切ります。

1 **［スタート］－「シャットダウン」をクリックします。**

2 **「シャットダウン」画面で「コンピュータをシャットダウンする」にマークが付いている状態で［はい］をクリックします。**

3 **「電源を切断しても安全です。」というメッセージが表示されたら、コンピュータの電源を切ります。**

4 **接続している周辺機器の電源を切ります。**

リセット

コンピュータの電源が入っている状態で、コンピュータを再起動する場合には「**リセット**」を行います。リセットは、次のような場合に行います。

- 使用しているソフトウェアで指示があった場合
- プログラムがハングアップ(キーボードやマウスからの入力を受け付けず、何も反応しなくなった状態)した場合

リセットすると、保存されていないデータはすべて消失します。
ハードウェアを完全に初期化する場合には、コンピュータの電源を切ってください。

Windowsのリセット方法

「電源の切り方」を参照して、[スタート]からWindows上でリセット(再起動)します(プログラムハングアップ時は、使用できません)。

リセットできないときは

プログラムがハングアップしてしまい、上記の方法でリセットできなくなってしまった場合は、あわてず次のように対処します。

Ctrl+Alt+Delete を押してリセットする

↓ コンピュータがリセットできないときは

コンピュータの電源スイッチを押す

↓ コンピュータの電源が切れないときは

コンピュータの電源スイッチを5秒以上押し続ける

これでコンピュータの電源が切れます。

コンピュータの基本操作

キーボード、マウスやＦＤＤなど、コンピュータの基本的な操作方法について説明します。

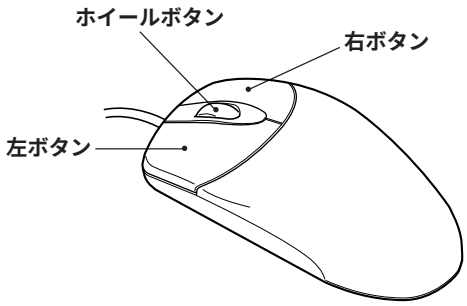
マウスを使う

本機に添付されているマウスには、左右のボタンのほかにホイールボタンがあります。ホイール機能を使用するには「マウスドライバ」のインストールが必要です。マウスドライバは購入時にインストールされています。

マウスの操作

制限

アプリケーションソフトによっては、ホイールボタンが使用できない場合があります。



マウスの基本的な操作は、次のとおりです。

- **クリック**：マウスカーソルを画面上の対象に合わせて左ボタンを1回カチッと押します。
- **ダブルクリック**：マウスカーソルを画面上の対象に合わせて左ボタンを2回続けてカチカチッと押します。
- **ドラッグアンドドロップ**：マウスカーソルを画面上の対象に合わせて左ボタンを押したままの状態でマウスを移動し、離します。
- **スクロール**：ホイールボタンを指先で回転させます。縦スクロール操作を行うことができます。

マウスの設定変更

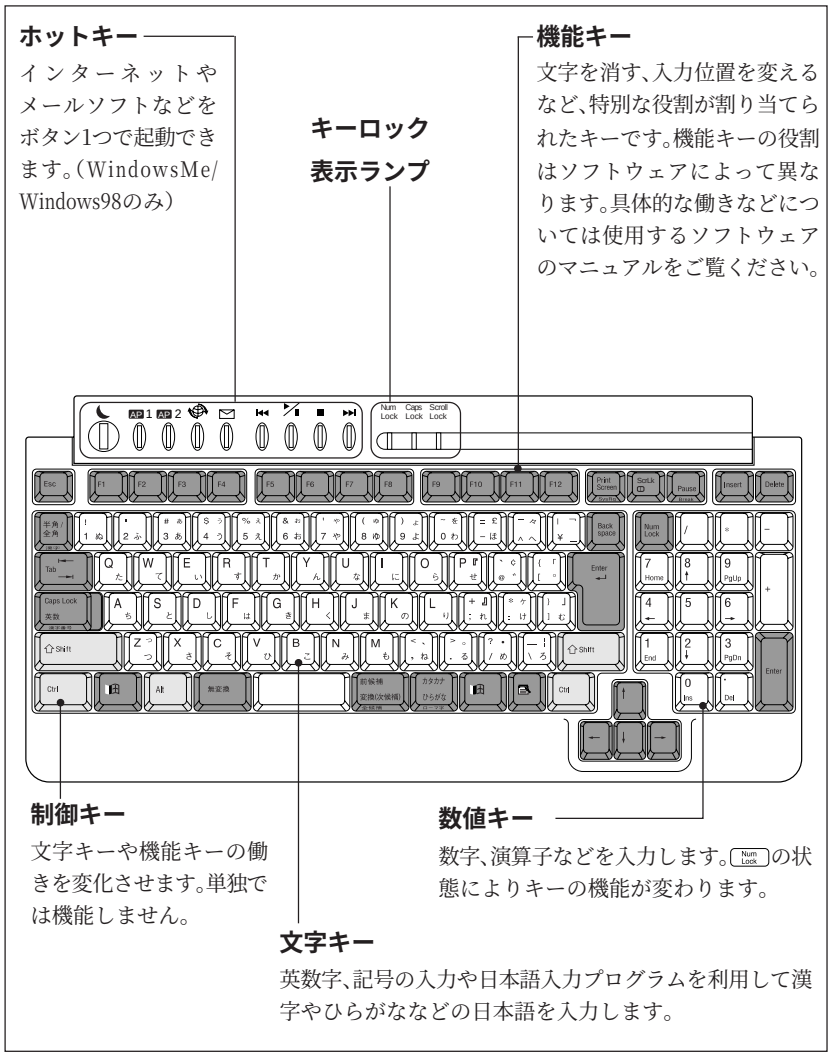
マウスボタンの設定や使用環境を変更するときは、「コントロールパネル」の「マウス」をダブルクリックし「マウスのプロパティ」で設定変更します。詳しくは、オンラインヘルプをご覧ください。

キーボードを使う

本機のキーボードは9個のホットキーを搭載した日本語対応104キーボードです。キーボードの接続方法はp.12「コンピュータの設置」をご覧ください。

キーの種類と役割

それぞれのキーには異なった機能が割り当てられていますが、大きく5つのグループに分けられます。



キートップに表示された文字と実際に入力される文字が異なる場合があります。

キーロック表示ランプ

キーボード上部には、次の3つのランプがあります。

● NumLock　：[Num Lock]の状態を示します。
[Num Lock]を押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。数値キーの役割を切り替えます。点灯状態では、数値キーを押すと、キーの上側に印刷された数字が入力されます。消灯状態では、数値キーの下側に印刷された矢印などの機能キーの役割になります。

● CapsLock　：[Caps Lock]の状態を示します。
[Shift]＋[Caps Lock]を押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。文字キーで入力される文字の種類を切り替えます。点灯状態では大文字が入力され、消灯状態では小文字が入力されます。

● ScrollLock　：[Scroll Lock]の状態を示します。
[Scroll Lock]を押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。このキーはソフトウェアによって機能が異なります。
詳しい内容は、ご使用のソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

日本語の入力

ひらがなや漢字などの日本語の入力や￡、¢、¬などの特殊記号の入力には、日本語入力プログラムを使用します。本機では、Windowsに添付のMS-IMEを使用しています。
日本語や特殊記号の詳しい入力方法は、『クイックスタートガイド』(WindowsMe/Windows2000)または『ファーストステップガイド』(Windows98/WindowsNT4.0)や、「MS-IMEのオンラインヘルプ」をご覧ください。

記号の入力

インターネットでURLやメールアドレスを入力する際に頻繁に使う記号は、次のキーを押して入力します。(日本語入力プログラムをオフにした状態)

入力記号	入力方法	入力記号	入力方法
:(コロン)	[* ケ : け]	@(アットマーク)	[` ¢ @ ^]
;(セミコロン)	[+ ｣ ; れ]	~(チルダ)	[↑Shift]＋[ー 々 ^ へ]
-(ハイフン)	[= £ - ほ]	_(アンダーバー)	[↑Shift]＋[\ ー ろ]
/(スラッシュ)	[? ・ / め]		

Windowsキーと組み合わせて使うキー

2つのWindowsキーは次の働きをします。

Windowsキー	機　能
[⊞]	画面左下の[スタート]をクリックするのと同じ働きをします。
[▤↖]	マウスの右クリックと同じ働きをします。

Windowsキーとほかのキーを組み合わせて使うことにより、Windowsをより効率的に使うことができます。

キーの組み合わせ	機　能
[⊞]+[F1]	Windowsのヘルプが表示されます。
[⊞]+[E]	エクスプローラを起動します。ファイルやフォルダの内容が表示されます。
[⊞]+[F]	「検索：条件＝すべてのファイル」ウィンドウが表示されます。
[⊞]+[Ctrl]+[F]	「検索：コンピュータ」ウィンドウが表示されます。
[⊞]+[M]	表示されているウィンドウをすべて最小化します。
[Shift]+[⊞]+[M]	最小化されているウィンドウをすべて元のサイズに戻します。
[⊞]+[R]	「ファイル名を指定して実行」ウィンドウが表示されます。
[⊞]+[Tab]	タスクバーに表示されているボタン（アプリケーションやファイル）の選択を切り替えます。

ホットキーを使用する(WindowsMe/Windows98のみ)

WindowsMe/Windows98ではホットキーを使用することができます。ホットキーには、音楽CDの再生、メールソフトの起動などの機能が割り付けられており、デスクトップ上で操作しなくても、キーを押すだけで実行することができます。インターネットキー、メールキーを使用する場合は、インターネットへの接続を完了させてからお使いください。

☞ p.82「インターネットに接続するには」

各ホットキーの機能は、次のとおりです。

ホットキー	機能
スリープキー	通常動作時に押すとスタンバイモードに入ります。 ☞ p.96「省電力機能」
アプリケーションキー 1 AP 1	初期設定では機能を割り付けられていません。お好みに合わせて設定できます。 ☞ p.53「ホットキーの設定」
アプリケーションキー 2 AP 2	
インターネットキー	Internet Explorer（インターネットエクスプローラ）を起動します。（設定変更可）
メールキー	Outlook Express（アウトルックエクスプレス）を起動します。（設定変更可）
CD プレーヤーキー	CD プレーヤーを起動します。音楽CDをセットした場合のみ有効です。 ⏮ 前のトラック ▶/⏸ 再生 / 一時停止 ■ 停止 ⏭ 次のトラック

タスクバーに「ホットキー」アイコンが表示されているときはホットキーの機能が有効です。

ホットキーアイコン

ホットキーの設定

ホットキーに機能を割り付ける

アプリケーションキー1, 2、インターネットキー、メールキーには機能を割り付けることができます。次の手順でアプリケーションキーに機能を割り付けます。

1 **タスクバーの「ホットキー」アイコンを右クリックします。**

2 **「セットアップ」から割り付けを行いたいキーを選択します。**

WindowsMeで「インターネットキー」または「メールキー」に割り付けを行う場合は、「セットアップ」―「ブラウザー(または電子メール)」―「アプリケーション」を選択します。割り付け後に再起動すると「デフォルト」にチェックマークが付きますが、実際の操作では、割り付けられたアプリケーションが実行されます。

3 **アプリケーションなどの「.EXEファイル」を指定して、[開く]をクリックします。**

例えば、ペイントブラシを割り付ける場合は
C:\WINDOWS\PBURUSH.EXEになります。
コマンドオプション(XXX.EXE /XXなど)は指定できません。

そのほかの設定

ホットキーユーティリティでは次の設定ができます。

メニュー	サブメニュー	意　味
セットアップ 各キーの設定をします。	ブラウザー *1	インターネットキーにブラウザソフトを割り付けます。
	電子メール *1	メールキーにメールソフトを割り付けます。
	アプリケーション1、2	アプリケーションキーに機能を割り付けます。
画面表示 各キーを押したときに表示されるファンクションを設定します。	フォント	画面表示のフォントを設定します。
	表示場所	表示する場所を設定します。
	表示する / しない	画面表示をします。
CD 再生 *2 CD プレーヤーの設定をします。	ループ	CD を繰り返し再生します。
	自動	自動再生をします。
	全画面(フルスクリーン)	サポートしていません。
	パネル表示	CDプレーヤーの表示をします。
終了		ホットキーを終了します。

*1 WindowsMeでは、サブメニューの下に「デフォルト」、「アプリケーション」が表示されます。

*2 WindowsMeでは、表示されません。

FDD(フロッピーディスクドライブ)を使う

本機の右側面にはFDDが内蔵されています。
FDDは、FDにデータを書き込んだり、FDからデータを読み出したりする装置です。FDには、記憶できる容量の違いによって2HD、2DDの種類があります。内蔵FDDでは、次のどちらのFDも使用可能です。

- 3.5型2HD　：1.44MBまたは1.25MBの記憶容量のメディアとして使用できます。
- 3.5型2DD　：720KBの記憶容量のメディアとして使用できます。

制限

FDは消耗品です。読み書きを繰り返すことで、磁性面が摩耗して読み取りエラーや書き込みエラーが発生する原因になります。このような場合には新しいFDと交換してください。

FDのセットと取り出し

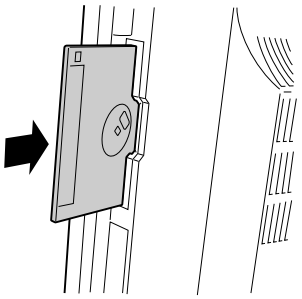
制限

- **FDアクセスランプ点灯中にFDを取り出したり、コンピュータをリセットしたりしないでください。データが破壊されるおそれがあります。**
- **コンピュータの電源を切る場合や、リセットする場合は、必ずFDを取り出してください。**

セット方法

1 **ラベル面を前にして、アクセスカバー側からFDDに「カチッ」と音がするまで押し込みます。**

2 **正しくセットされると、イジェクトボタンが飛び出します。**

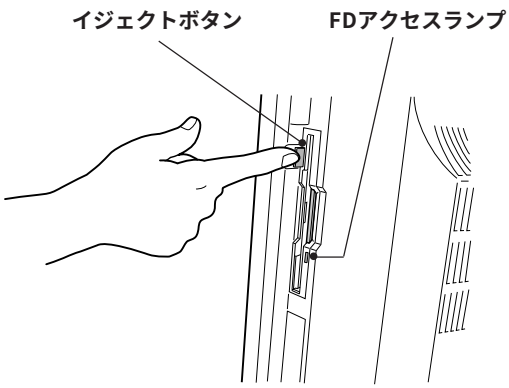


〈背面側から見た図〉

取り出し方法

1 **FDアクセスランプが点灯していないことを確認し、イジェクトボタンを押します。**

2 **FDが飛び出しますので、静かに引き抜きます。**



FDのフォーマット

フォーマットとは、データを書き込むための領域を作成することで、初期化ともいいます。新しいFDを使用する場合は、フォーマットが必要です。また登録されているデータをすべて消去する場合にもフォーマットします。
メディアの種類にあったフォーマットを行わないと、データの読み書きエラーが発生します。

制限

- **FDをフォーマットすると、登録されているデータはすべて消失します。フォーマットする前に、重要なデータが登録されていないことを確認してください。**
- **本機には1.25MBフォーマット用のユーティリティは添付されていません。**

フォーマット方法　Windowsのフォーマットユーティリティを使ったFDのフォーマットは次の方法で行います。

1 「マイコンピュータ」をダブルクリックします。

2 「3.5インチFD」を右クリックし「フォーマット」をクリックします。

3 フォーマットの種類などを設定して［開始］をクリックします。「警告」が表示された場合は［OK］をクリックします。

4 「フォーマットが完了しました」と表示されたら［OK］をクリックします。続けて別のFDをフォーマットする場合は、FDを入れかえて手順3〜4をくり返します。（Windows2000以外）

5 「閉じる」をクリックして、フォーマットユーティリティを閉じます。

制限

Windows2000ではWindowsのフォーマットユーティリティを起動したまま、未フォーマットFDを2枚以上連続してフォーマットできません。未フォーマットFDを連続して2枚以上フォーマットする場合は、上記手順2〜5を繰り返してください。

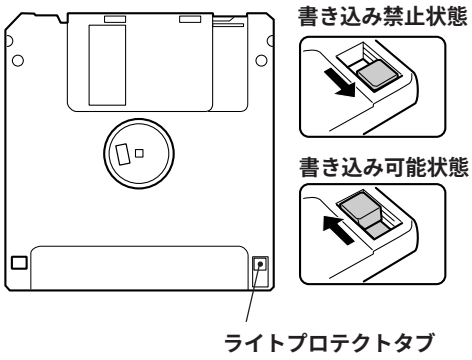
データのバックアップ

大切なデータは別のFDに登録して予備を作成（バックアップ）しておきます。万一データを消失してしまった場合でも、予備のディスクからデータを複写して使用できるので安心です。

ライトプロテクト（書き込み禁止）

ライトプロテクトは、データを書き込めなくすることです。ライトプロテクトをしたFDには、データの書き込み、削除、フォーマットができなくなります。重要なデータを登録したFDはライトプロテクトをしておくと安心です。

- **窓が開いているとライトプロテクト状態です。**
- **窓が閉じているとデータを書き込むことができます。**



1.25MBのFDを使用する

本機のWindowsには、あらかじめ専用の3モードFDDドライバがインストールされており、1.25MBフォーマットのFDを使用することができます。1.25MBフォーマットは、EPSON PCシリーズや日本電気(株)製 PC-9801シリーズのコンピュータで標準的に使用されていたフォーマットです。

3モードFDDドライバ

- 1.25MBフォーマットのFDは、1.44MBフォーマットのFD同様に、Aドライブで使用することができます。
- 3モードFDDドライバは1.25MBのFDの読み書きのみをサポートします。1.25MBのフォーマットやディスクコピーなどは行えません。
- 512バイト/セクタでフォーマットされた1.21MBフォーマットのFDの読み書きは行えません。これは、日本語MS-DOSのFORMATコマンドで/Eオプション(EQUITYフォー マット)でフォーマットされたディスクです。
- 1.25MBのフォーマットのFDで提供されているアプリケーションソフトをインストールすることはできません。

HDD(ハードディスクドライブ)を使う

HDDは、大容量のデータを高速に記録する記憶装置です。一般的には、FDのように交換して使用することはできません。

制限

- **誤った操作で重要なデータを破壊しないように次の点に注意してください。**
  - **・HDDを分解しないでください。**
  - **・HDDアクセスランプ点灯中に、電源を切ったり、リセットしないでください。アクセスランプ点灯中は、コンピュータがHDDに対してデータの読み書きを行っています。この処理を中断すると、HDD内部のデータが破壊されるおそれがあります。**
- **HDDが故障した場合、HDDのデータを修復することができない可能性があります。**
- **本機を落としたり、ぶつけたりしてショックを与えるとHDDが破壊される恐れがあります。**

データのバックアップ

HDDの重要なデータは、別のメディアに予備を作成(バックアップ)しておくことをおすすめします。万一HDDの故障などでデータが消失してしまった場合でも、バックアップを取ってあれば、被害を最低限に抑えることができます。
バックアップには、次のような方法があります。

- 重要なファイルを作成したら、必ずFDなど別のメディアにも登録しておく。
- 専用のバックアップソフトウェアを使用して複数のファイルを一度にバックアップする。

HDDのフォーマット

HDDを最初に使用する場合にはフォーマットが必要です。また、登録されているデータをすべて消去する場合にもフォーマットします。購入時に装着されている内蔵HDDにはソフトウェアがあらかじめインストールされていますので、フォーマットの必要はありません。

制限

すでにデータが登録されているHDDをフォーマットすると、そのHDDに登録されていたすべてのデータが消失します。フォーマットする前に、重要なデータが登録されていないことを確認してください。

購入時のHDD領域について

購入時のHDD領域は、次のように設定されています。

インストールモデル	ドライブ	ファイルシステム
WindowsMe/Windows98 Windows2000	すべての領域 (C ドライブ)	FAT 32
WindowsNT4.0	最初の 2GB(C ドライブ)	FAT 16
	残りの領域	未設定

WindowsNT4.0のHDD構成

WindowsNT4.0インストールモデルでは、HDDの先頭の2GBに基本MS-DOS領域を作成して、Windowsをインストールしてあります(Cドライブ)。この領域を2GB以上に拡張することはできません。
残りの領域は未設定です。このままでは使用できませんので、次の方法で領域作成とフォーマットをしてください。

未設定領域の設定

1 **[スタート]—「プログラム」—「管理ツール」—「ディスクアドミニストレータ」をクリックします。**

2 **未設定領域(空き領域)をクリックし、画面左上の、「パーティション」—「拡張パティションの作成」をクリックします。**

3 **作成した領域(空き領域)をクリックし、「パーティション」—「作成」をクリックします。**
論理ドライブの作成画面では、任意の論理ドライブサイズを入力して、複数の論理ドライブを作成することができます。

4 **「パティション」—「今すぐ変更を反映」をクリックします。**

5 **作成した論理ドライブ(不明)をクリックし、「ツール」—「フォーマット」をクリックします。**
4000MB以上の領域をフォーマットする場合は、「ファイルシステム」を「NTFS」にしてください。

制限

未設定領域は、必ず「拡張パーティション」に設定してください。「プライマリパーティション」に設定した場合、「リカバリCD-ROM」でHDDを購入時の状態に戻したときに、未設定領域から設定した「プライマリパーティション」が消滅してしまいます。

Cドライブがデータでいっぱいになり、容量不足になったときは、Cドライブの「I386」フォルダ(約450MB)を、新しく作成したDドライブ、または以降のドライブに移動すると、空き領域を確保できます。

CD-ROMドライブを使う

本機の右側面にはCD-ROMドライブが内蔵されています。CD-ROMドライブはデータの入ったデータCDのほかに音楽CD、ビデオCDフォトCDなどを使用するための装置です。これらのCD-ROMの中には別途専用ソフトウェアが必要なものもあります。

制限

- **本機に装着されているCD-ROMドライブは、メディアの認識に時間がかかることがありますが、不具合ではありません。**
- **CD-ROMの種類によっては、再生中に振動することがありますが、故障ではありません。**

本機にはCD-ROMドライブの代わりに、CD-R/RWまたはDVD-ROMドライブが装着されているモデルがあります。メディアのセットや取り出しなどの基本的な操作方法はCD-ROMドライブと同じです。詳しい使用方法は、各ドライブに添付のマニュアルをご覧ください。

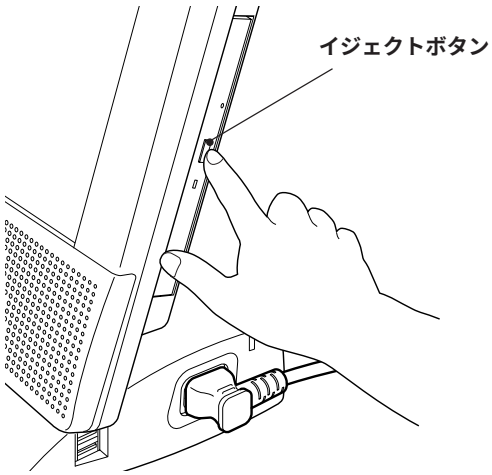
CD-ROMのセットと取り出し

制限

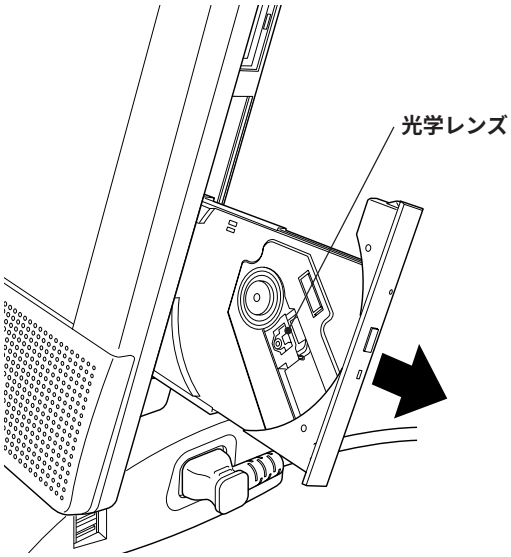
- **CD-ROMアクセスランプ点灯中にCD-ROMを取り出したり、コンピュータをリセットしないでください。**
- **ディスクトレイ上の光学レンズに触れたり、傷つけたりしないでください。CD-ROMのデータが読めなくなります。必要な場合以外は、ディスクトレイは閉じておいてください。**

セット方法

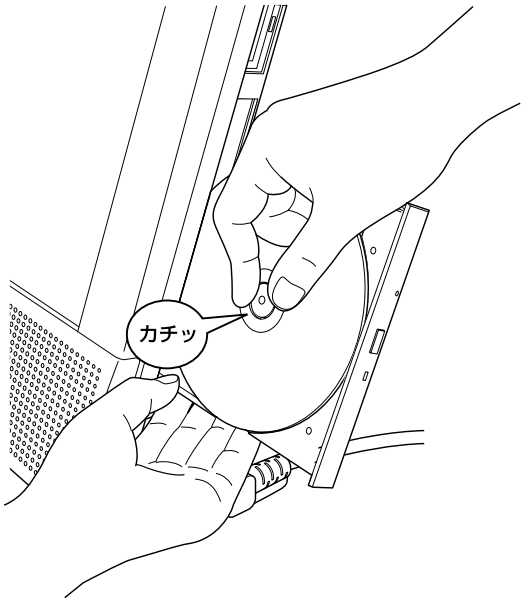
1 **イジェクトボタンを押すと、ディスクトレイが少し飛び出します。**



2 ディスクトレイを静かに引き出します。



3 印刷面を表にしてCD-ROMをディスクトレイに載せ、カチッと音がするまで押し込みます。押し込むときは、片方の手でディスクトレイの裏側を支えます。



4 ディスクトレイを手で押して静かに閉じます。

取り出し方法

1 **イジェクトボタンを押すと、ディスクトレイが少し飛び出します。**

2 **CD-ROMをディスクトレイから取り出します。**

3 **ディスクトレイを手で押して静かに閉じます。**

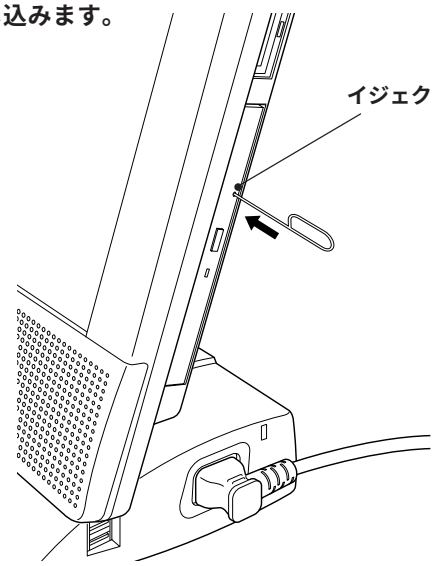
強制的なCD-ROMの取り出し

CD-ROMドライブが故障して、CD-ROMが取り出せなくなった場合や、CD-ROMをセットしたまま電源を切ってしまった場合は強制的にディスクトレイを引き出すことができます。

1 **コンピュータの電源が入っている場合は、コンピュータの電源を切ります。**

p.43「電源の切り方」

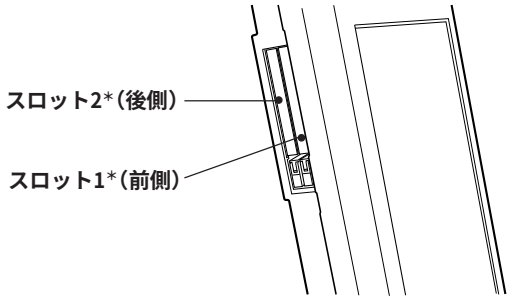
2 **イジェクトホールに丈夫な先の細いもの(ゼムクリップを引きのばしたようなもの)を差し込みます。**



3 **ディスクトレイが少し飛び出します。そのまま手でまっすぐ引き出します。**

PCカードを使う

本機の左側面には、PCカードスロットが、2スロット装備されています。本機では、PC Card Standardに準拠したType IIおよびIIIのPCカードを装着することができます。同時に装着可能なPCカードは、TypeII ×2枚またはType III ×1枚です。各スロットの仕様は次のとおりです。



<左側面から見た図>

スロット		装着可能なサイズ	仕様
前側	スロット1*	タイプII	CardBus対応
後側	スロット2*	タイプIIまたはタイプIII	CardBus対応

*WindowsNT4.0上ではスロット0（前側）、スロット1（後側）と表示されます。

PCカード使用時の制限

- Windows使用時に、CardBus対応のPCカードと赤外線通信機能やECP対応のデバイスを同時に使用できません。赤外線通信機能またはECP対応のデバイスを使用する場合には、CardBus対応のPCカードを取り外してください。
- 赤外線通信機能を「FIR」に設定した場合、CardBusに対応していないPCカードは同時に2枚使用できません。
- FAXモデムカードや、ネットワークカードなどは、使用途中に、電源の供給が停止されると、不具合が発生する可能性があります。これらのカードを使用するときは、省電力機能を使用しないでください。☞ p.96「省電力機能」
- PCカードスロットにFAXモデムカードを取り付けて使用する場合には、回線の呼び出し音が鳴りません。これは、CardBusの仕様によるもので故障ではありません。
- PCカードによっては専用のデバイスドライバが必要です。詳しくはPCカードに添付のマニュアルをご覧ください。
- Windows NT4.0では、Card Bus対応のPCカードは使用できません。
- Windows NT4.0では、PCカードを同時に2枚使用できません。
- Windows NT4.0でPCカードが正常に動作しない場合はPCカードのIRQを10に設定してみてください。☞ PCカードに添付のマニュアル

PCカードのセットと取り外し

制限

PCカードを取り扱うときは、あらかじめ金属製のものに触れて、静電気を逃がしてください。PCカードやコネクタ部に静電気が流れると、壊れることがあります。

PCカードは次の状態で抜き差しすることができます。

■ **WindowsMe/Windows98/Windows2000**

・電源を切った状態。

・電源が入った状態。
ただし、省電力モード時は、カードの抜き差しを行わないでください。システムが正常に動作しなくなる可能性があります。

■ **WindowsNT4.0**

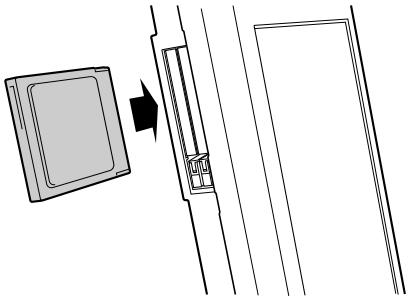
・電源を切った状態のみ。

セット方法

1 **使用するPCカードがどのスロットで使用可能か確認します。**

FAXモデムカードを「スロット1(前側)」にセットする場合はカードのモジュラジャックにコードを接続した状態でセットしてください。

2 **PCカードをPCカードスロットに挿入します。**
PCカードの表面を前にして奥までしっかりと押し込みます。



3 **コンピュータの電源が切れている場合は、電源を入れます。**

4 **認識されるとPCカードが使用できます。**
WindowsMe/Windows98/Windows2000では正しくセットされると「ピポッ」という認識音が鳴り、タスクバーにPCカードアイコンが表示されます。

＜WindowsMe/Windows2000＞

＜Windows98＞

PCカードによっては「デバイスドライバウィザード」が起動します。メッセージに従ってデバイスドライバを選択、またはインストールしてください。インストール中にWindowsのCDを要求された場合は、次のフォルダを指定してください。

WindowsMe/Windows98　「C:\WINDOWS\OPTIONS\CABS」
Windows2000/WindowsNT4.0　「C:\I386」
いずれも、上記フォルダがCドライブに登録されている場合

ＰＣカードの内容を確認するには

「PCカードのプロパティ」画面で確認します。
WindowsMe/Windows98/Windows2000ではタスクバーの「PCカード」アイコンをダブルクリックします。
WindowsNT4.0では「コントロールパネル」―「PCカード（PCMCIA）」をダブルクリックします。

＜Windows98の場合＞

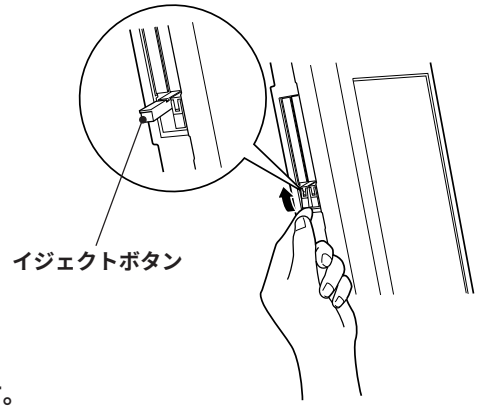
取り外し方法　PCカードは、次の手順で取り外します。

本機にセットされていたPCカードは、高温になっている可能性があります。火傷に注意して取り外してください。

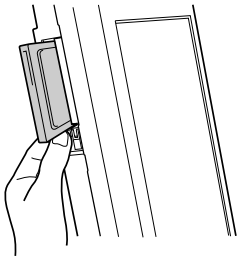
1 **WindowsNT4.0では、コンピュータの電源を切ります。**
WindowsMe/Windows98/Windows2000では、「PCカード終了処理」を行うか、または電源を切ります。
<PCカード終了処理>

❶ タスクバーの**「PCカード」**アイコンをダブルクリックします。
❷ 取り外すPCカードを選択して**[停止]**をクリックします。
❸ 確認画面で**[OK]**をクリックします。
❹ **「このデバイスは安全に取り外せます。」**と表示されたら、**[OK]**をクリックします。

2 **取り外すPCカードスロットのイジェクトボタンを起こします。**



3 **イジェクトボタンを押します。**
WindowsMe/Windows98/Windows2000の動作中は、「ピポ」と認識音が鳴ります。
カードが飛び出すことがあるので落とさないように注意してください。



4 **PCカードが出てきたら、まっすぐに引き抜きます。**
取り外したPCカードは、専用のケースなどに入れて大切に保管してください。

赤外線通信を使う

本機の正面中央には赤外線通信ポートが装備されています。本機の赤外線通信ポートと、赤外線通信機能を持つ機器の間で、データをやり取りできます。赤外線通信はケーブルを接続せずに簡単にデータの通信を行うことができます。
赤外線通信を行うためには、通信用のソフトウェアが必要です。本機には購入時に「ワイヤレスリンク（WindowsMe/Windows2000）」または「Windows98の赤外線通信機能」がインストールされています。通信は、コンピュータ同士で同じソフトウェアを使用する必要があります。

制限

WindowsNT4.0では、赤外線通信は使用できません。

本機の赤外線通信機能は、次の仕様に対応しています。

仕様（通信モード）	特長	使用するソフトウェア例
FIR (Fast InfraRed)	通信速度4Mbps IrDA1.1規格	WindowsMe/Windows2000のワイヤレスリンク Windows98の赤外線通信機能
SIR (Serial InfraRed)	通信速度115.2Kbps IrDA1.0規格	

赤外線通信を使用可能にする

赤外線通信は購入時は使用不可に設定されています。
赤外線通信を行うときは、「SCU」の設定を次のとおり変更します。
☞ p.122「Components」

SCUの項目		購入時の設定	SIRで使用	FIRで使用
COM Ports	COM B I/O Settings	Disabled	COM2, 2F8, IRQ3	
	Mode Settings For COM B	—	IrDA	FAST IR
	DMA Setting For Fast IR	—	—	DMA1

制限

赤外線通信を使用可能にすると、CardBusに対応していないPCカードを2枚同時に使用することができません。使用状態に合わせて赤外線通信の設定をしてください。

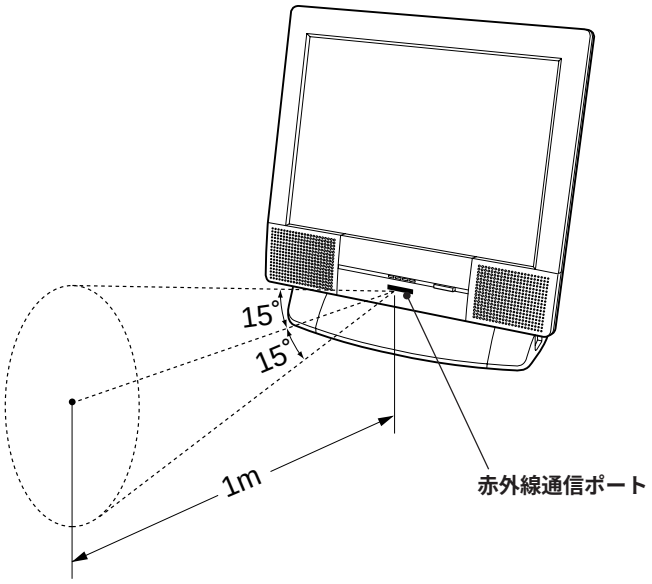
赤外線通信の実行

通信時の注意

- 赤外線通信機器の間に障害物を置かないでください。
- 赤外線通信中は、赤外線通信機器を動かさないでください。通信が切断されることがあります。
- 直射日光や蛍光灯などの強い光が赤外線通信ポートに当たらないようにしてください。誤動作をすることがあります。
- オーディオ機器のリモコンやワイヤレスヘッドホンなどを赤外線通信ポートに向けないでください。誤動作をすることがあります。

通信可能な距離

赤外線通信を行うときは、お互いの赤外線通信ポートが真正面に向い合うように設置して、通信してください。2つの赤外線通信ポートの位置は1m以内で、角度は垂直水平共に15度以内に設置します。



赤外線通信の実行(WindowsMe/Windows2000)

WindowsMe/Windows2000の「ワイヤレスリンク」を使った赤外線通信は、次のとおり行います。

1 **2台の赤外線通信ポートを通信可能範囲に設置します。**

2 **赤外線ポートを検出すると、デスクトップに「ワイヤレスリンク」が表示されます。**

3 **送信側の「ワイヤレスリンク」をダブルクリックします。**

4 **送信するファイルを指定して[送信]をクリックします。**

5 **受信側に、「このファイルを受信しますか?」と表示されたら[はい]をクリックします。**

6 **「正常に受信されました。」と表示されたら[はい]をクリックします。**
受信されたファイルはデスクトップ上に保存されます。

赤外線通信の実行(Windows98)

Windows98の赤外線通信機能を使った赤外線通信は、次のとおり行います。

1 **通信を行う2台のコンピュータの「コントロールパネル」―「赤外線モニタ」―「オプション」タブで「赤外線通信を可能にする」にチェックを付けます。**

2 **2台の赤外線通信ポートを通信可能な位置に設置すると、お互いのポートを検出します。**

3 **送信側のコンピュータの「マイコンピュータ」―「赤外線の受信側」で[赤外線転送]をクリックします。**

4 **送信するファイルを指定して送信します。**
送信されたファイルは、受信側のコンピュータの「赤外線の受信側」の[受信したファイル]に登録されます。

表示装置を使う

本章では、使用可能な表示装置とその切り替え方法について説明します。
本機で表示可能な表示装置は、次のとおりです。

- LCD画面（本体）
- CRTディスプレイ（外付けディスプレイ）

LCDユニット

本機は15型TFT XGAカラーLCD（液晶ディスプレイ）を搭載しています。

LCDの表示中に、次の現象が起きることがあります。これは、カラーLCDの特性によって起きるもので、故障ではありません。

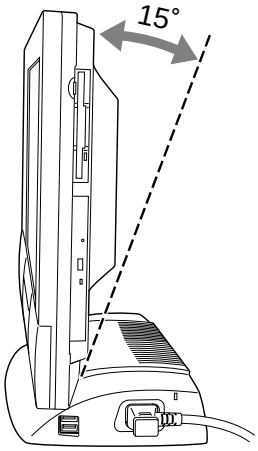
- **液晶ディスプレイは、高精度な技術を駆使して230万以上の画素から作られていますが、画面の一部に常時点灯あるいは常時消灯する画素が存在することがあります。**
- **色の境界線上に筋のようなものが現れることがあります。**
- **Windowsの背景の模様や色、壁紙などによってちらついてみえることがあります。この現象は市松模様や横縞模様といった特殊なパターンで、背景が中間色の場合に発生しやすくなります。**

明るさの調整

画面の明るさの調節は輝度調節ダイヤルで行います。

角度の調節

LCDユニットは約15度までうしろに傾けることができます。角度を調節する際には無理な力を加えないでください。
LCDユニットは左右にも約270度回転できます。

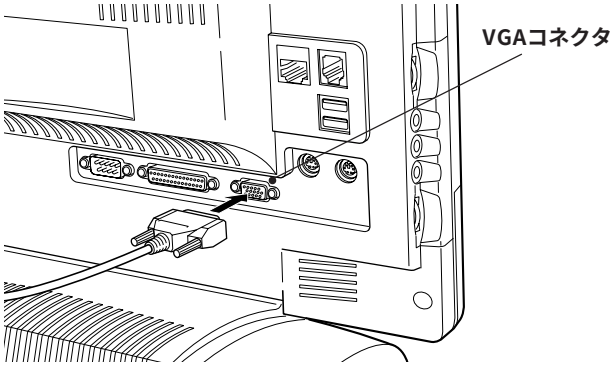


CRTディスプレイ

ディスプレイの接続

本機背面のVGAコネクタにCRTディスプレイを接続することができます。

コンピュータとディスプレイの電源が切れている状態で、本機背面のVGAコネクタにCRTディスプレイを接続します。



表示装置の切り替え方法

本機ではCRTディスプレイが接続されているときに次のドライバーモードで表示ができます。

ドライバーモード	表示
シングルモード	LCD または CRT のどちらか一方に表示します。
ミラーモード	LCD と CRT に同じ画面を表示します。
マルチモニターモード（WindowsMe/Windows98 のみ）	大きなひとつの画面を LCD と CRT で分割して並べた表示ができます。 2つのアプリケーションを別々の画面で表示できます。p. 73「マルチモニタモードの設定」

表示できる解像度と色数については次章をご覧ください。

切り替え方法

次の画面で、ドライバーモードの選択と設定を行います。

WindowsMe/Windows98

「画面のプロパティ」－「設定」タブ－［詳細］－「ディスプレイモード」タブ

WindowsNT4.0

「画面のプロパティ」－「ユーティリティマネージャ」タブ－［ドライバーモードの設定］

Windows2000

「画面のプロパティ」－「設定」タブ－［詳細］－「ユーティリティマネージャ」タブ－［ドライバーモードの設定］

モードの選択をします。

サポートしていません。初期設定値のまま使用してください。

表示するディスプレイを設定します。

解像度、色数を設定します。

＜Windows98の場合＞

チェックが付いていると、接続状態を自動的に認識します。そのためＣＲＴが接続されていない場合のドライバーモードは「シングルモード」のみになります。

■マルチモニターモードの設定

WindowsMe/Windows98の「ドライバーモード」で、「マルチモニターモード」を選択して、再起動後に「画面のプロパティ」ー「設定」タブを開くと、次の画面が表示されます。

ディスプレイの位置関係を示しています。「1」がLCD、「2」がCRTです。この設定ではLCDの右側をCRTが表示します。「2」をドラッグして位置を変更します。

解像度を変更するときに、変更したいディスプレイを選択します。

チェックマークがついているとマルチモニターモードが有効です。「ディスプレイ2」を選択するとチェックがつきます。設定後は[適用]をクリックします。

切り替え時の制限

- CRTディスプレイを接続した状態で、ドライバーモードをミラーモードから、LCDのシングルモードに変更する場合、色数が256色に設定されていると、LCDだけでなく、CRTにも表示されてしまいます。LCDの色数を256色以外に設定してください。
- ドライバーモードを変更すると、次の画面が表示される場合があります。この場合は、「コンピュータを再起動せずに、設定を変更する。」を選択して、その後[スタート]から再起動を行ってください。「新しい設定で、コンピュータを再起動する」を選択しても、設定が有効になりません。

解像度や表示色を変更する

本機の画面の解像度や表示色数の変更方法と表示できる解像度について説明します。変更時には、Windowsのヘルプも参照してください。

SafeモードまたはVGAモードでの起動

本機のビデオ機能で表示できない解像度を選択すると、Windowsを再起動したときに、画面が乱れる、何も表示されないなどの現象が起こることがあります。このような場合は、Safeモード(WindowsMe/Windows98使用時)またはVGAモード(Windows2000/WindowsNT4.0使用時)で起動して再設定を行ってください。

p.133「LCDの不具合」

解像度や表示色を変更するには

WindowsMe/Windows98の場合

1 「コントロールパネル」―「画面」をダブルクリックします。

2 「設定」タブをクリックします。

3 「画面の領域」、「色」の項目を設定したい内容に変更します。

4 項目を変更したら、[適用]をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。

Windows2000の場合

1 「コントロールパネル」－「画面」をダブルクリックします。

2 「設定」タブをクリックします。

3 「画面領域」や「画面の色」の項目を設定したい内容に変更します。

4 項目を変更したら、[適用]をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。

WindowsNT4.0の場合

1 「コントロールパネル」―「画面」をダブルクリックします。

2 「ディスプレイの設定」タブをクリックします。

3 「デスクトップ領域」や「カラーパレット」などの項目を設定したい内容に変更します。

4 項目を変更したら、[テスト]をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。

表示できる解像度と表示色

本機で表示可能な解像度と表示色は次のとおりです。
ミラーモードではLCDとCRTは同じ設定でのみ表示できます。
マルチモニターモード(WindowsMe/Windows98のみ)ではLCDとCRTで別の解像度で表示できます。

制限

- **本機では、次ページの表以外の設定を選択することも可能ですが、それらの設定に関しては動作保証をしていません。**
- **CRTの解像度と表示色は、使用するディスプレイによって表示できない場合があります。**

LCDの表示

シングルモードの場合

表示色＊ / 解像度	256色	High Color（16ビット）	True Color（32ビット）
	256色	65536色	True Color
640×480ドット	○	○	○
800×600ドット	○	○	○
1024×768ドット	○	○	○

ミラーモード、マルチモニターモードの場合

表示色＊ / 解像度	256色	High Color（16ビット）	True Color（32ビット）
	256色	65536色	True Color
640×480ドット	○	○	○
800×600ドット	○	○	○
1024×768ドット	○	○	×

＊表示色の1段目はWindowsMe/Windows98/Windows2000、2段目はWindowsNT4.0での表示です。

CRTの表示

シングルモード、マルチモニターモードの場合

表示色＊ / 解像度	256色	High Color（16ビット）	True Color（32ビット）
	256色	65536色	True Color
640×480ドット	○	○	○
800×600ドット	○	○	○
1024×768ドット	○	○	○
1280×1024ドット	○	○	○

ミラーモードの場合

表示色＊ / 解像度	256色	High Color（16ビット）	True Color（32ビット）
	256色	65536色	True Color
640×480ドット	○	○	○
800×600ドット	○	○	○
1024×768ドット	○	○	×

＊表示色の1段目はWindowsMe/Windows98/Windows2000、2段目はWindowsNT4.0での表示です。

サウンド機能を使う

本機には、Sound Blaster互換のサウンド機能(内蔵ステレオスピーカおよび音声を入出力するためのコネクタなど)が搭載されています。

ヘッドフォンや外付けスピーカは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。
ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量が聴覚障害の原因となります。

内蔵スピーカ

本機の前面には、ステレオスピーカが内蔵されています。この内蔵ステレオスピーカから音声を出力します。スピーカの音量の調節は、次の方法で行います。

●ボリューム調節ダイヤル

上に回すと小さく、下に回すと大きくなります。

●スピーカアイコン

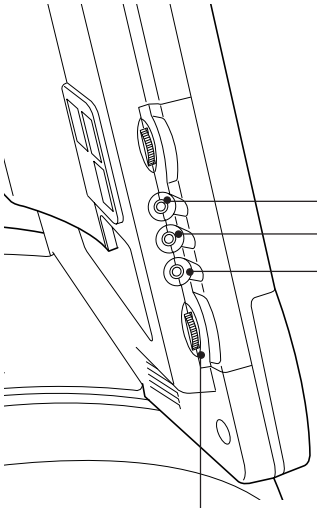
画面右下のタスクバーに表示されているスピーカアイコンをクリックすると「ボリュームコントロール」が表示されます。

音量調節

使用するPCカード(FAXモデムカードなど)やアプリケーションによっては、別の方法で音量調節ができるようになっている場合があります。お使いになるPCカードやアプリケーションに添付のマニュアルをご覧ください。

外部オーディオ機器などの接続

本機の左側面には、カセットデッキなどのオーディオ機器、外部スピーカやマイクなどを接続するためのコネクタが標準で装備されています。各コネクタの位置と機能は、次のとおりです。



マイク入力コネクタ
マイクと接続して、音声を本機に入力します。

ライン入力コネクタ
カセットデッキなどのオーディオ機器の音声出力端子と接続して、音声を本機に入力します。

ヘッドフォン出力コネクタ
スピーカやヘッドフォンなどと接続して音声を外部に出力します。

ボリューム調整ダイヤル

参考

スピーカの接続

スピーカを接続すると内蔵ステレオスピーカの機能は自動的に無効になります。

音を鳴らしたり、録音したりするには

Windows標準のサウンドユーティリティを使用します。音楽CD、WAVEファイル、MIDIファイルの再生や、WAVEファイルの作成なども可能です。
サウンドユーティリティは、「プログラム」—「アクセサリ」—「エンターテイメント」(WindowsNT4.0の場合は「マルチメディア」)フォルダに登録されています。
サウンドユーティリティの使い方はWindowsのヘルプをご覧ください。

FAXモデムを使う(FAXモデム機能搭載モデル)

FAXモデム機能搭載モデルには56Kbps(V.90対応)の通信速度に対応したFAXモデムカードが搭載され、高速の通信が可能です。

お使いになる前に

使用回線について

本機は、ダイヤル回線でも、プッシュ回線でも使用できます。使用している回線がどちらかわからないときは、NTTへお問い合わせください。
ダイヤル回線、プッシュ回線の選択は、添付されている通信ソフトや、Windows上で設定することができます。

- ダイヤル回線（パルス）：回転式ダイヤル電話のように、ダイヤルの戻る時間によりダイヤルパルス信号を送り、相手につなげる方式の電話回線のことです。
- プッシュ回線（トーン）：押しボタン電話機のように、「ピ・ポ・パ・・」とトーンによる信号を送り、相手につなげる方式の電話回線のことです。

特殊な電話機・回線での使用

● PBXへの接続

本機をPBX（構内交換機）に接続した場合、NTT回線とPBXの回線（内線）の電気的特性などが異なると、本機が正常に動作しないことがあります。
PBXの管理者または保守業者などに、電気的特性などがNTT仕様と一致するかどうかを確認した上で、接続を行ってください。

● 2線式でない電話装置(ホームテレホンなど)での使用

ホームテレホン、ビジネスホンなどの2線式でない電話装置は、内線の仕様がNTTの加入電話回線と異なります。このため、内線側に（子機として）本機をそのまま接続することはできません。
このような場合、NTTの回線と電話装置の主装置（親機）の間に切換機を設けたり、内線側に特別な処置をすることによって、本機の使用が可能になります。詳しくは、電話装置の販売業者や保守業者にご相談ください。

● キャッチホンサービスについて

NTTのキャッチホンサービスや他社の類似サービスを利用している場合、キャッチホンの呼び出し音によって通信中の回線が切断されます。モデムを接続する回線では、キャッチホンサービスの利用は避けてください。
なお、この現象を回避できるサービスについては、NTTまたは、類似サービスの供給元へお問い合わせください。

通信速度の制限

本機のモデム機能は、V.90*の通信方式により、最大受信速度（プロバイダなどの相手側から本機側への方向）は56000bps、最大送信速度（本機からプロバイダなどの相手側への方向）は、33600bpsになります。
ただし、この最大送受信速度は、接続先のプロバイダやアクセスポイントなどの電話回線状況、モデムの性能や送出レベルなどにより変化します。また、接続先のプロバイダなどが同じ規格に対応しており、お客様の電話回線がつながる電話局の交換機とプロバイダまでの通信経路がデジタル化されている必要があります。
*V.90　　：ITU-T 国際電気通信連合が制定した通信規格

通信を行う

モデム機能を使って、データ通信やファックス機能を使用するには、別途通信ソフトウェアが必要です。通信ソフトウェアのインストール方法や使い方については、通信ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

ATコマンドについて

本モデムでは、モデム制御コマンドとして、「ATコマンド」を採用しています。ATコマンドの詳細については、添付の「リカバリCD-ROM（Windows2000ではDisc2）」の「MODEM」－「ATコマンドリファレンス.pdf」（英文）をご覧ください。

国モードの設定について

本機の国モード（Country）は「Modem Country Selection」で日本国（Japan）に設定されています。この設定は変更せずに使用してください。

Wake on Ring機能

本機は着信音で省電力モードから復帰する機能（Wake on Ring）をサポートしていません。Windows2000には「モデムのプロパティ」－「電源管理」タブに、着信音で省電力モードから復帰する項目がありますが、この項目で設定を行っても機能しません。

インターネットに接続するには

インターネットのホームページを見たり、メールを交換するには、インターネットへの接続が必要です。FAXモデムを使用してインターネットに接続する作業の流れは、次のとおりです。

電話回線の接続

本機のFAXモデムコネクタと電話回線を接続します。

☞ p.16「電話回線への接続」

⬇

ダイヤルするための準備

- ダイヤル情報(「国」や「市外局番」など)を設定します。
  ☞p.85「ダイヤル情報の設定」
- ダイヤルアップネットワークのインストールを行います。(WindowsNT4.0のみ)
  ☞p.85「ダイヤルアップネットワークのインストール」

⬇

プロバイダとの契約とアカウントの登録

個人でインターネットを利用するには、インターネット・サービス・プロバイダ(以降プロバイダ)と契約して、接続のための各種設定を行います。
契約方法には、大きく分けて次の2つの方法があります。

❶オンラインで契約する。

電話回線を使用してプロバイダと契約します。インターネットに接続している状態で契約を行うため、画面の指示に従って情報を入力していくと、電話番号の登録やネームサーバーアドレスなどの設定が自動的に行われます。その場で契約してすぐにインターネットを使えます。支払いについては、クレジットカード決裁になります。
Windowsデスクトップ上の「インターネット接続ウィザード」や雑誌などで入手できるサインアップのためのCD-ROMが利用できます。

☞ p.86「オンラインでプロバイダと契約する」

❷ハガキや電話で申し込み、契約する。

プロバイダにハガキや電話で申し込みをすると、インターネットに接続するための資料が送付されます。資料の内容をもとにインターネット接続のための設定を各自で行います(ダイヤルアップ接続の設定)。支払いについては、銀行振込などが利用できます。

☞ p.88「手動でダイヤルアップ接続の設定をする」

⬇

接続

インターネットに接続します。ブラウジング(インターネット閲覧)や、メール交換が可能になります。

本書では、ブラウジングソフトウェアとして「Internet Explorer(インターネットエクスプローラ)」、電子メールソフトウェアとして「Outlook Express(アウトルックエクスプレス)」を使用することを前提に記載しています。

p.92「Internet ExplorerとOutlook Expressの使い方」

参考

モデムを使わずにインターネットに接続する

FAXモデムを使わずに、次の方法でインターネットに接続することができます。

- **ISDN回線を利用する**

  FAXモデムの代わりにTA(ターミナルアダプタ)を使用します。接続方法は、TAの取扱説明書をご覧ください。

- **ネットワークを利用する**

  インターネットに接続されたLANなどに接続します。ネットワーク管理者の指示に従ってください。

- **ケーブルテレビの回線を利用する**

  詳しくは、CATV会社にお問い合わせください。

プロバイダの選択

プロバイダは、サービスや料金体系、使用頻度やアクセスポイントなどを考慮して、使い方に合わせて選びます。不明点などについては、プロバイダにご確認ください。

インターネットにかかる費用

インターネットを利用する場合に発生する費用は、以下のとおりです。

- **初期費用：**プロバイダへ契約時に支払います。
  入会費、登録料のようなものです。無料の場合もあります。
- **基本料金：**月または年ごとにプロバイダへ支払います。
  通信の有無に関わらず請求される一定の料金です。基本料金だけで数時間は無料で使用できます。使用時間別や通話料金込み、使い放題などのコースがあります。
- **追加課金：**基本料金での対応時間を超えた分だけプロバイダへ支払います。
  基本料金で使用できる時間を超えると、分あたりいくらという追加料金が加算されます。
- **通話料金：**プロバイダのアクセスポイントまでの通話料金です。NTT へ支払います。
  アクセスポイントとは、プロバイダが用意している接続地点です。プロバイダへ支払う料金が割安でも、アクセスポイントが市内通話エリアにないと通話料金が割高になります。料金無料のプロバイダもありますが、アクセスポイントが遠いときは、別のプロバイダを選んだ方が良い場合があります。市内通話エリア内にプロバイダのアクセスポイントがあるかどうかを確認しておきましょう。

インターネットを使う上での注意

インターネットや、電子メールを利用すると簡単に情報が得られたり、メッセージを手軽に送ったりすることができますが、注意しなければならないこともあります。次の点に気を付けてインターネットや電子メール使用してください。

- 電子メールは、途中経路の障害などにより、必ずしも届くとは限りません。
- 電子メールは、世界中の多くのコンピュータを経由して届けられるため、セキュリティが確保されません。第三者が内容を見る可能性があります。
- インターネット上の情報は、正しくない可能性があります。正しい情報であることを充分に見極めて、有効に活用する必要があります。

ダイヤルするための準備

ダイヤル情報の設定

モデムの設定をしていない場合は市外局番やダイヤル方法などの設定を行います。

1 **[スタート]－「設定」－「コントロールパネル」をクリックし、「モデム」アイコン(Windows2000は、「電話とモデムのオプション」アイコン)をダブルクリックします。**

2 **[ダイヤルのプロパティ](Windows2000は、[編集])をクリックします。**

3 **「登録名」、「国名/地域」、「市外局番」、「外線発信番号」や「ダイヤル方法」などを設定します。**

ダイヤルアップネットワークのインストール(WindowsNT4.0のみ)

WindowsNT4.0では、インターネット接続をするために「ダイヤルアップネットワーク」のインストールを行う必要があります。「ダイヤルアップネットワーク」のインストールは、次の手順で行います。

1 **[スタート]－「プログラム」－「アクセサリ」－「ダイヤルアップネットワーク」をクリックします。**

2 **「ダイヤルアップネットワーク」画面で[インストール]をクリックします。**
「ファイルが必要」画面が表示された場合は「コピー元」に「C:\I386」(「I386」フォルダがCドライブにある場合)と入力して[OK]をクリックします。

3 **「RASデバイスの追加」画面で、「RAS対応デバイス」項目に「COM3…」と表示されている状態で、[OK]をクリックします。**

4 **「リモートアクセスセットアップ」画面で[構成]をクリックします。**

5 **「ポート使用の構成」画面で「ダイヤルアウトのみ」にチェックマークを付けて[OK]をクリックします。**

6 **[続行]をクリックします。**

7 **「RASに対してネットワークプロトコルが選択されていません。…」と表示された場合は、[OK]をクリックして次の設定を行います。**

（この画面は、ネットワーク設定がされている場合は表示されません。）

❶ **「ネットワークの構成」画面で、「TCP/IP」をチェックし、[OK]をクリックします。**

❷ **再び「リモートアクセスセットアップ」画面が表示されたら、[続行]をクリックします。ファイルのコピーが始まります。**

8 **「ダイヤルアップネットワーク」画面が表示されたら、[再起動しない]をクリックします。**

9 **「WindowsNT4.0 Service Pack6a」をインストールします。**

p.39「Service Pack6aのインストール」

オンラインでプロバイダと契約する

ここでは「インターネット接続ウィザード」から、マイクロソフト社が用意したインターネット参照サーバに接続して契約する方法を説明します。参照サーバの一覧から契約したいプロバイダを選択して契約できます。電話番号や、IDなどの各種登録や設定が自動で行われ、契約完了後にインターネットがすぐ使えます。

オンラインでプロバイダと契約する手順は次のとおりです。契約時にクレジットカードのナンバーや有効期限などの情報が必要です。事前に用意しておきます。

1 **[スタート]－「プログラム」－「アクセサリ」－「通信（Windows98では、「インターネットツール」）」－「インターネット接続ウィザード」をクリックします。**

2 **「インターネット接続ウィザード」画面が表示されたら、「新しいインターネットアカウント…」オプションを選択して、[次へ]をクリックします。**

3 **インターネット参照サーバの電話番号が表示されます。地元の電話番号または「Nationwide(120)345349」を選択し、[次へ]をクリックします。ダイヤルが開始され、必要な情報がダウンロードされます。**

4 **ダウンロードされた情報が開きます。契約したいプロバイダを選んで、[次へ]をクリックします。**

5 **情報を入力して、契約します。以降は、各プロバイダの画面の指示に従ってください。**

プロバイダから提示されるユーザーIDやパスワードなどの情報を忘れずに書きとめておいてください。

参考

「オンラインサービス」でプロバイダ契約

WindowsMe/Windows 98/Windows2000 では、「オンラインサービス」というフォルダがデスクトップに表示されています。「オンラインサービス」フォルダ内のプログラムは、国内の代表的なプロバイダと契約できるサービスです。

「オンラインサービス」フォルダを開くと、プロバイダ名のアイコンがいくつか表示されます。このアイコンをダブルクリックすると、契約のための画面が表示されます。画面の指示に従って操作してください。

手動でダイヤルアップ接続の設定をする

はがきや電話で加入申し込みをした場合の、ダイヤルアップ接続の設定方法を説明します。
プロバイダから提示された資料に基づいて各種設定を行い、インターネットに接続できるようにします。
本章の手順は、設定方法の一例です。プロバイダより設定方法の資料が提供されている場合は、そちらを参照してください。

参考

接続に関する用語一覧

プロバイダによって設定項目の呼びかたが異なる場合があります。本書での記述とプロバイダが使用する類似名称の一例です。

本書での記述	類似名称
ユーザー名	：コネクションID、PPP ログイン名、アカウント名、アカウント、ID、接続ID、ID 番号、接続アカウント、ダイアルアップログイン名
パスワード	：PPP パスワード、パスワード、接続パスワード、ダイヤルアップパスワード、初期パスワード、コネクションパスワード
メールアカウント	：Mail アカウント名、メールボックス名、メールボックス、メールアカウント名、Mail アカウント
メールパスワード	：Mail パスワード、パスワード、初期パスワード
メールサーバ	：メールサーバ、POP メールサーバ

ダイヤルアップ接続の設定をする

手動でダイヤルアップ接続の設定を行う手順は、次のとおりです。

1 ［スタート］－「プログラム」－「アクセサリ」－「通信（Windows98では、「インターネットツール」）」－「インターネット接続ウィザード」をクリックします。

2 「インターネット接続ウィザード」画面が表示されたら、「インターネット接続を手動で設定するか、・・・」にチェックを付けて［次へ］をクリックします。

3 「インターネット接続の設定」が表示されたら、「電話回線とモデムを使ってインターネットに接続します」にチェックを付けて、［次へ］をクリックします。

4 「ステップ1：インターネットアカウントの接続情報」が表示されたら、接続先の電話番号を入力します。

5 プロバイダからDNS（ドメイン・ネーム・サーバー）のIPアドレスを指定されている場合は［詳細設定］をクリックします。
IPアドレスの指定がない場合は手順10へ進みます。

6 「詳細接続プロパティ」画面が表示されたら、「アドレス」タブをクリックします。

7 「ISPによるDNS（ドメイン ネーム サービス）アドレスの自動項目割り当て」項目の「常に使用する設定」にチェックを付けます。

8 「プライマリDNSサーバー」、「別のDNSサーバー」に、プロバイダから指定されているDNS（ドメイン・ネーム・サーバー）のIPアドレスを入力し、［OK］をクリックします。

9 「ステップ1：…」画面に戻ったら［次へ］をクリックします。

10 「ステップ2：インターネットアカウントのログオン情報」が表示されたら、プロバイダから指定されている「ユーザー名」、「パスワード」を入力し、［次へ］をクリックします。

11 「ステップ3：コンピュータの設定」が表示されたら、任意の「接続名」を入力し、［次へ］をクリックします。

12 **「インターネットメールアカウントの設定」が表示されたら、「はい」にチェックを付けて[次へ]をクリックします。**

13 **プロバイダからの資料をもとに次の設定を行います。**

❶ **「表示名」にコンピュータ上の任意の名前を入力して、[次へ]をクリックします。**

❷ **「電子メールアドレス」を入力して[次へ]をクリックします。**

❸ **「受信メールサーバー」と「送信メールサーバー」を入力して[次へ]をクリックします。**

❹ **「アカウント名」と「パスワード」を入力して[次へ]をクリックします。**

14 **「インターネット接続ウィザードを終了します」と表示されたら[完了]をクリックします。**

「今すぐインターネットに…」にチェックが付いているとInternet Explorerが起動します。

「インターネットへの接続と切断」に進みます。

インターネットへの接続と切断

接続を開始する

インターネットへの接続は、次の方法で行います。

1 **「Internet Explorer」または「Outlook Express」を起動します。**

2 **「ダイヤルアップの接続」画面(WindowsMeは、「接続」画面)が表示されます。「接続先」、「ユーザー名」、「パスワード」などを入力します。**

自動的に入力されている項目もあります。

3 **入力内容を確認して[接続]をクリックします。**

4 **接続するとユーザー名や、パスワードの確認が行われます。**
接続が完了すると、タスクバーに次の接続アイコンが表示されます。

(WindowsNT4.0では表示されません。)

<WindowsMe/Windows2000>

<Windows98>

参考

- **別の方法でインターネットに接続する**

  接続の開始は、「ダイヤルアップネットワーク」からも行えます。この場合は、接続完了後に「Internet Explorer」、または「Outlook Express」を起動します。

  - **WindowsMeの場合**

    「マイコンピュータ」―「コントロールパネル」―「ダイヤルアップネットワーク」の接続したいアイコンをダブルクリックし、[接続]をクリックします。

  - **Windows98の場合**

    「マイコンピュータ」―「ダイヤルアップネットワーク」の接続したいアイコンをダブルクリックし、[接続]をクリックします。

  - **Windows2000の場合**

    「マイコンピュータ」―「コントロールパネル」―「ネットワークとダイヤルアップ接続」の接続したいアイコンをダブルクリックし、[ダイヤル]をクリックします。

  - **WindowsNT4.0の場合**

    「マイコンピュータ」の「ダイヤルアップネットワーク」アイコンをダブルクリックします。「ダイヤルアップネットワーク」画面で[ダイヤル]をクリックします。

- **電子メール作成時のインターネット接続**

  電子メールの送受信は、インターネットに接続されていないと行えませんが、メールを作成しているときや受信メールを読むときは、インターネットに接続されている必要はありません。

接続を終了する(切断)

インターネットの切断は、次の方法で行います。

タスクバーに表示されている接続アイコンを右クリックし、「切断」をクリックします。
WindowsNT4.0では、ソフトウェアを起動してから接続した場合は、タスクバーにアイコンは表示されません。ソフトウェア終了時の確認画面で［今すぐ切断する］を選択します。

Internet ExplorerとOutlook Expressの使い方

この章では、インターネットを利用するためのソフトウェアの使い方について簡単に説明しています。詳しい使い方は、各ソフトウェアのオンラインヘルプをご覧ください。

- **Internet Explorer(インターネットエクスプローラ)**
  インターネットのホームページを閲覧するためのソフトウェアです。
- **Outlook Express(アウトルックエクスプレス)**
  メールを書いたり、送受信するためのソフトウェアです。

Internet Explorerの使い方

起動

1 デスクトップ上の「Internet Explorer」アイコンをダブルクリックします。

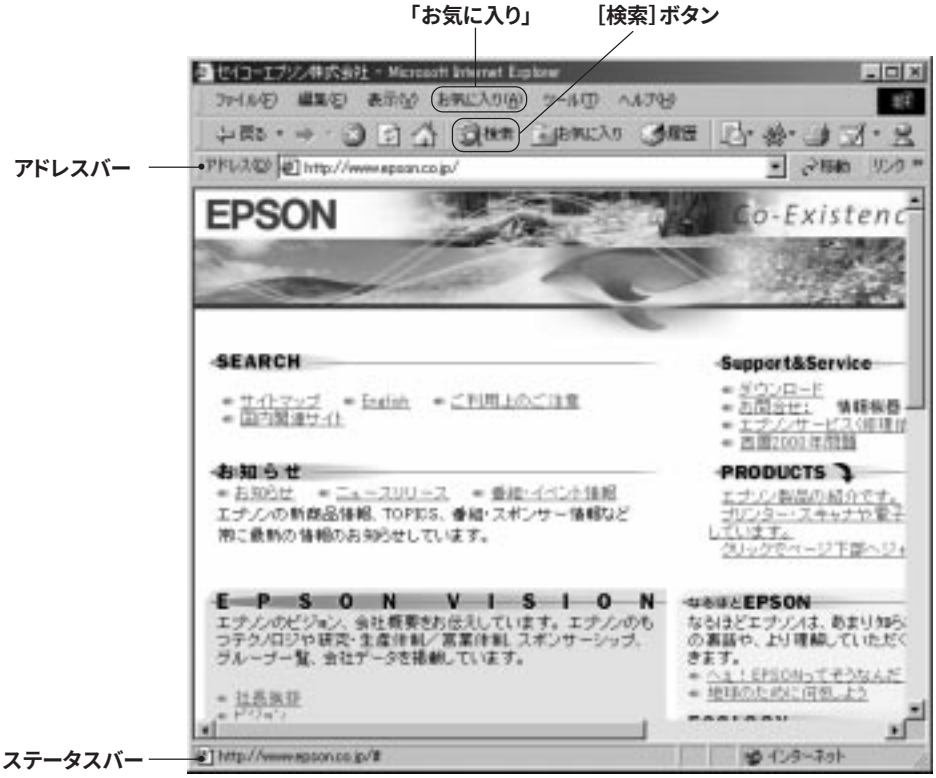
2 「ダイヤルアップの接続」画面(Windows Meは、「接続」画面)で[接続]をクリックします。接続が完了するとホームページが表示されます。

終了

1 画面右上の☒をクリックして、「Internet Explorer」を終了します。

2 「自動切断」画面が表示されます。[今すぐ切断する]をクリックします。これでインターネットが切断されます。

使い方



※画面の内容は予告なく変更する場合があります。

- **見たいホームページを開くには**

  ・アドレスバーにURLアドレスを入力して [↵] を押します。

  ・キーワードを使って検索します。

  [検索]ボタンを押して、検索画面でキーワードを入力します。

- **「お気に入り」にページを登録する**

  頻繁にアクセスするページは、「お気に入り」に登録しておくと、「お気に入り」をクリックするだけで一覧が表示され、すぐにアクセスすることができます。

  登録方法：「お気に入り」ー「お気に入りに追加」をクリックします。

- **リンクしているページにジャンプする**

  ホームページの画面上でポインタが ↖ から ☝ に変わる場所があります。☝ に変わる場所をクリックすると、リンク先のページ(ステータスバーに表示されているアドレス)にアクセスできます。

Outlook Expressの使い方

起動

1 **[スタート]－「プログラム」－「Outlook Express」をクリックします。**

2 **インターネットに接続する場合は、「ダイヤルアップの接続」画面（Windows Meは、「接続」画面）で[接続]をクリックします。接続が完了すると自動的にメールの送受信ができます。**

終了

1 **画面右上の☒をクリックして、「Outlook Express」を終了します。**

2 **インターネットに接続している場合は、「自動切断」画面で、[今すぐ切断]をクリックします。**

使い方

参考

メールの作成とインターネット接続

インターネット接続されていないとメールの送受信はできませんが、メールの作成時や受信メールを読むときは、インターネットに接続されている必要はありません。Outlook Express使用時にインターネットを切断するには、「ファイル」－「オフライン作業」をクリックします。

ボタン

フォルダ
メールが保存されます。

アドレス帳に登録されたアドレスの一覧です。

接続の状態を表示します。
オンライン：インターネットに接続しています。
オフライン：インターネットに接続していません。

メールを送信する（オンラインの場合）

1. [新しいメール]ボタンをクリックしてメール作成画面を表示します。
2. 必要事項　「宛先」「件名」「本文」を入力してメールを作成します。
3. [送受信]ボタンをクリックします。

メールを送信する(オフラインの場合)

1. オンラインの場合の手順1.2を参照して、メールを作成します。
2. [送信] ボタンをクリックすると、[送信トレイ] フォルダにメールが一時保存されます。
複数のメールを作成し、1度に送信することができます。
3. [送受信] ボタンをクリックして、「接続」画面で、[接続] をクリックします。
接続が完了すると、[送信トレイ]に保存されていたメールが送信されます。

メールを受信する

1. 「Outlook Express」を起動してインターネットに接続すると自動的に受信します。
インターネットに接続されていない場合は、[送受信] ボタンをクリックすると接続作業が行われます。
2. 受信したメールはフォルダの「受信トレイ」に格納されます。
「受信トレイ」をクリックすると、画面右側に、受信メールの一覧と内容が表示されます。

アドレス帳を作る

アドレス帳にメールアドレスを登録しておくと、メールを送信するときに宛先をアドレス帳から選択できます。

1. [アドレス]ボタンをクリックします。
2. [新規作成]ボタンをクリックして、[新しい連絡先]をクリックします。
3. 情報を登録します。「表示名」と「電子メールアドレス」は必ず入力します。

省電力機能

省電力機能を利用すれば、コンピュータを使用していない間、ディスプレイの電源を切ったり、省電力モードに移行して、消費電力を抑えることができます。

制限

- **WindowsNT4.0では省電力機能は使用できません。**
- **NetWareサーバを利用している場合や NetBEUIを使用してネットワークに接続している場合に、省電力モードに入ると、省電力モードからの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。**
  このような場合は次のいずれかの方法をとってください。
  - **切断後に再度ログオンする。(NetWareのみ)**
  - **再起動する。**
  - **省電力モードを無効にする。**
- **ネットワーク上のファイルなどを開いたままだと、省電力モードに移行できないことや、通常モードに復帰できないことがあります。**
- **FAXモデムやネットワークなどのPCカード使用時や赤外線通信を実行中は、省電力モードに入らないでください。省電力モードに入ると通信が切断されることがあります。**
- **サウンド機能を使って録音・再生している場合は、省電力モードに入らないでください。誤動作する可能性があります。**
- **省電力モード時にPCカードを抜き差しすると、正常に復帰できない場合があります。**

省電力機能の種類

省電力機能には、次の3つのモードがあり、状況に応じて使い分けることができます。

- **HDD/ディスプレイの電源を切る**
  HDDやディスプレイの電源を切ります。省電力の効果は、スタンバイより低いですが、通常モードにすぐに復帰できます。
- **スタンバイ**
  作業内容をメモリに保持した状態でコンピュータの動作を中断します。電力消費を通常モードの約半分に抑えます。ディスプレイの電源が切れ、電源ランプが橙色に点滅します。通常モードへは数十秒で復帰できます。

● **休止状態**

作業内容をHDDに保存してコンピュータの電源を切ります。電源スイッチを切った状態と同様に電力を消費しません。通常モードへの復帰には多少時間がかかります。PCカードや周辺機器によっては、復帰後に正常に使用できなくなるものがあるので、注意が必要です。

休止状態を有効にする

休止状態を有効にするには次の設定が必要です。

● **STD領域の確保(Windows98)**

Windows98では、中断時の作業内容を保存しておく特別の領域(Save to Disk領域)をHDDに作成する必要があります。購入時にはSTD領域は確保されていません。また、STD領域はメモリを増設した場合に、容量に合わせて作成しなおす必要があります。

☞ p.172「STD領域の作成」

● **休止状態の設定**

「休止状態」タブの「休止状態をサポートする」にチェックを付けると休止状態が有効になります。購入時にはチェックが付いていません。

Windows98では、上記のSTD領域が確保されていないと、休止状態タブが表示されません。

休止状態の設定は次の画面で行います。

WindowsMe/Windows98 :「コントロールパネル」-「電源の管理」-「休止状態」タブ

Windows2000 :「コントロールパネル」-「電源オプション」-「休止状態」タブ

＜Windows2000の場合＞

電源ランプの表示　省電力モードの状態は、電源ランプによって確認できます。

動作状態	電源ランプの表示
通常モード	緑点灯
HDD/ ディスプレイの電源を切る	緑点灯
スタンバイ	橙点滅
休止状態	消　灯
電源切断時	消　灯

実行方法

省電力機能を実行するには、大きく分けて2つの方法があります。

① **時間経過で実行**

設定した時間を超えてコンピュータを使用しないとディスプレイの電源を切ったり、省電力モードに移行したりします。

② **直ちに実行**

席を外すときなどに、強制的に省電力モードに移行します。

省電力機能に関する各種設定は次の画面の各タブで行います。

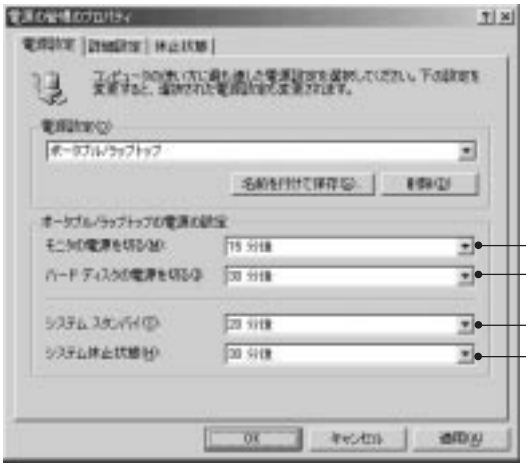
WindowsMe/Windows98　：「コントロールパネル」-「電源の管理」

Windows2000　　：「コントロールパネル」-「電源オプション」

省電力モードを実行する場合は、万一正常に復帰できない場合に備え、使用中のデータ（作成中の文書など）を保存しておくことをおすすめします。

時間経過で実行

省電力モードに入る時間の設定は、「電源設定」タブで行います。



設定した時間を超えて何も操作しないと、ディスプレイ、またはHDDの電源が切れます。

設定した時間を超えて何も操作しないと、スタンバイまたは休止状態に移行します。
「システム休止状態」は休止状態が有効に設定されている場合に表示されます。

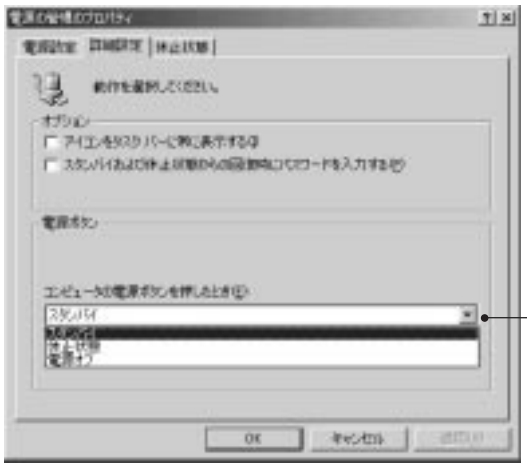
〈WindowsMeの場合〉

WindowsMeで設定を変更する場合は、「システムスタンバイ」と「システム休止状態」のどちらか一方だけに時間を設定して、もう一方を「なし」に設定してください。2つとも時間を設定すると、はじめに入ったモードから、次のモードに移ることができなかったり、復帰が正常に行われなかったりすることがあります。

直ちに実行

次の方法で、スタンバイ、または休止状態に入ります。

- スリープキー[☾]を押します。
  スタンバイモードに入ります。
- ［スタート］から選択します。
  ［スタート］－「Windowsの終了」画面でモードを選択します。
- 電源スイッチを押します。
  電源スイッチを押したときにどのモードに入るかを「詳細設定」タブ（Windows98/Windows2000では「詳細」タブ）で設定します。



〈WindowsMeの場合〉

復帰方法

省電力モードから復帰して通常モードに戻る方法は、次のとおりです。
復帰にかかる時間は使用環境により異なります。

省電力モード	電源ランプ	復帰方法
HDD、モニタの電源が切れている状態	緑点灯	● マウス、キーボードを操作する。 誤って電源スイッチを押さないでください。
スタンバイ	橙点滅	● 電源スイッチを押す。
休止状態	消　灯	

そのほかの機能

ネットワーク機能を使う

本機のメインボードにはネットワーク機能が搭載されています。
ネットワーク機能を使用して、ネットワークを構築するには、ほかのコンピュータと接続するためにネットワークケーブルや、ハブ(サーバ)などが必要です。そのほかに、Windows上で、ネットワーク接続に必要なプロトコルの設定なども必要になります。
ネットワークの構築は、ネットワーク管理者の指示に従って行ってください。

制限

- **NetWareサーバを利用している場合や NetBEUIを使用してネットワークに接続している場合に、省電力モードに入ると、省電力モードからの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。**
  このような場合は次のいずれかの方法をとってください。
  ・切断後に再度ログオンする。(NetWareのみ)
  ・再起動する。
  ・省電力モードを無効にする。
- **ネットワーク上のファイルなどを開いたままだと、省電力モードに移行できないことや通常モードに復帰できないことがあります。**

パラレルコネクタを使う

本機背面のパラレルコネクタには、プリンタなどを接続します。本機ではパラレルポートの機能や使用するアドレスを変更することができます。通常はパラレルポートの設定を変更する必要はありません。ただし、使用する周辺機器で指定がある場合には、SCU(システム環境設定ユーティリティ)で変更してください。
☞ p.122「Components」

シリアルコネクタを使う

本機背面のシリアルコネクタには、シリアルマウスや外付けのFAXモデム、TA(ターミナルアダプタ)などを接続します。本機ではシリアルポートで使用するアドレスや割込み信号を変更することができます。通常はシリアルポートの設定を変更する必要はありません。ただし、使用する周辺機器で指定がある場合には、SCU(システム環境設定ユーティリティ)で変更してください。
☞ p.122「Components」

USB コネクタを使う

本機背面と右側面にUSBコネクタが2個づつ用意されています。USBコネクタには、USB対応機器を接続します。接続するUSB対応機器によっては、使用時にデバイスドライバが必要な場合があります。詳しくは、接続する機器のマニュアルをご覧ください。

制限

USBコネクタは、WindowsNT4.0では使用できません。

コンピュータウィルスの検索・駆除

本機には、コンピュータウィルスを検出し、駆除するためのソフトウェア「VirusScan for Windows」が添付されています。

データファイルのアップデート

次々に出現する新しいコンピュータウィルスに対応するためには、ウィルス情報のデータファイルの定期的な更新（アップデート）が必要です。詳しくは、VirusScanオンラインヘルプまたは『VirusScan for Windowsユーザーズガイド』をご覧ください。『VirusScan for Windowsユーザーズガイド』は添付の「ユーティリティCD」に登録されています。

システムの拡張

メモリの増設やコンピュータに接続できる機器について説明します。

DIMMの増設

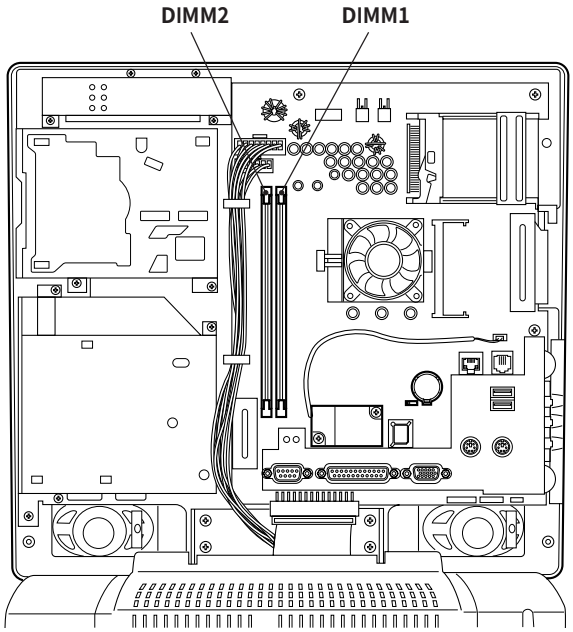
本機はDIMM(メモリ)を増設・交換することができます。本章では本機で使用可能なDIMMの仕様とDIMMの取り付け方法について説明します。

制限

- **本機ではメインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。メインメモリ容量の表示は、ビデオメモリ容量を差し引いて表示されます。ビデオメモリの初期値は8MBです。この値はSCUで設定します。**
  ☞ p.120「Memory」
- **Windows98で休止状態を使用する場合はメモリ増設後、メモリ容量に合わせてSTD領域を作成し直す必要があります。**
  ☞ p.172「STD領域の作成」

DIMMの仕様

本機には、2つのDIMMソケットが用意されており、DIMMを増やすことにより最大512MBまで拡張できます。DIMMソケットはDIMM1とDIMM2の2本あります。2本のソケットに取り付けの優先順位はありません。



本機で使用可能なDIMMの仕様は次のとおりです。

- 168ピンDIMM(Dual Inline Memory Module)
- 3.3V SDRAM (Unbufferd SynchronousDRAM)
- メモリ容量　64MB、128MB、256MB
- ECC機能非対応

上記仕様と一致するDIMMを当社のオプションリストより選択してください。

作業時の注意

DIMMを増設、交換する場合は、次の点に注意してください。

- **電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。感電・火傷の原因となります。**
- **マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや感電・火災の原因となります。**

DIMMの増設・交換は本製品の内部が高温時には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。

本機は電源を切ってもコンピュータ内部に微少な電源が流れています。必ず電源コンセントから電源プラグを外してください。

- 作業を行う前に金属製のものに触れて静電気を逃がしてください。DIMMやコンピュータに静電気が流れると、基板上の部品が壊れるおそれがあります。
- DIMMを持つときは、DIMMの端子部や素子に触れないでください。DIMMの破損や接触不良による誤動作の原因になるおそれがあります。
- 装着する方向を間違えないでください。DIMMが抜けなくなるなど故障の原因になります。
- DIMMを落とさないように注意してください。強い衝撃が、破損の原因になります。
- DIMMの着脱は、頻繁に行わないでください。必要以上に着脱を繰り返すと、端子部などに負担がかかり、故障の原因になります。

背面カバーの取り付け・取り外し

DIMMの増設・交換を行うには背面カバーを取り外す必要があります。

場所の確保と布の用意

背面カバーを取り外す場合は、LCDユニットを倒して、ユニットの背面を上にして置く必要があります。作業ができる十分な場所を確保してください。また、LCD画面を傷つけないようにユニットの下に敷く厚手の布を用意してください。ただし、毛布などは静電気が発生しやすく、ほこりも立ちやすいので使用しないでください。

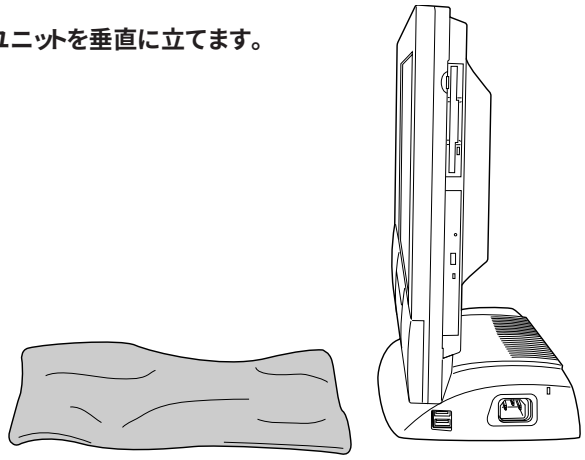
取り外し

1 **コンピュータ本体の電源を切ります。**

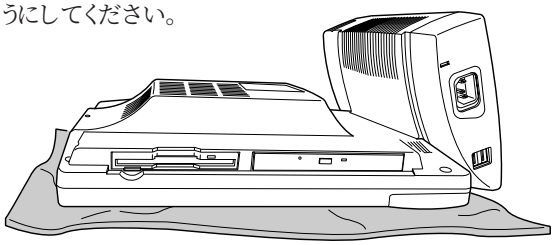
2 **接続されているすべてのケーブルを外します。**
必ず電源コードも外します。

3 **厚手の布をLCDユニットの前面に敷きます。**

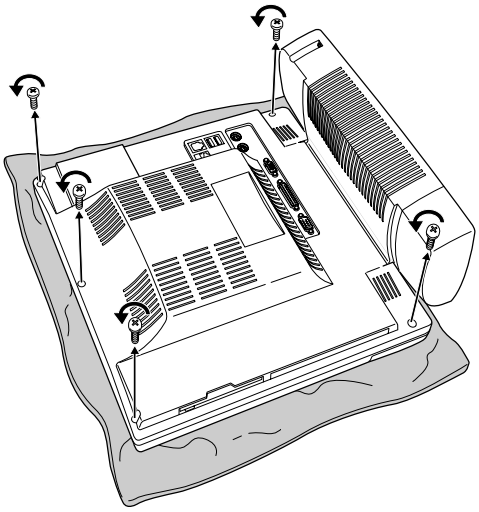
4 **LCDユニットを垂直に立てます。**



5 **LCDユニットを前面に倒します。**
倒すときにはユニットの下側を持つなどして、ユニット上側には余分な力を加えないようにしてください。

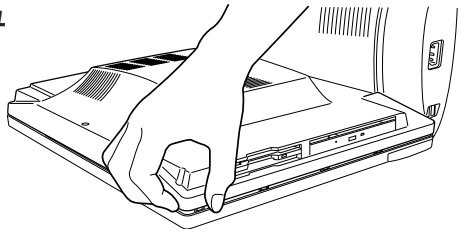


6 LCDユニット背面のネジ(5個)を外します。

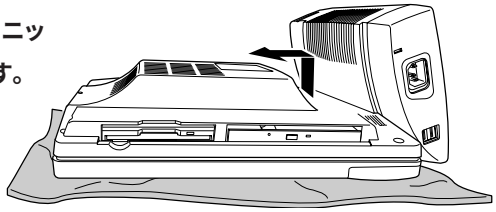


7 背面カバーを外します。

❶ 背面カバーの四隅をLCDユニットから浮かせます。



❷ カバーを矢印のようにユニット上側に動かして外します。



取り付け

1 背面カバーをLCDユニットに合わせてはめ込みます。
下側を合わせてから上側を合わせます。

2 ネジ(5本)で背面カバーを固定します。

3 LCDユニットを起こします。
LCDユニット上側と電源ユニットを持って起こします。

4 ケーブル類をもとどおり接続します。

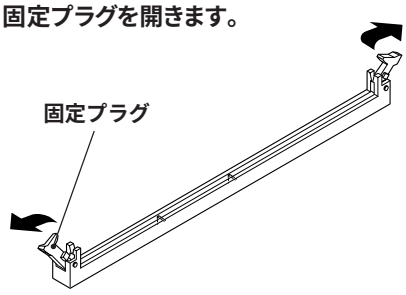
DIMMの取り付け

DIMMの取り付け

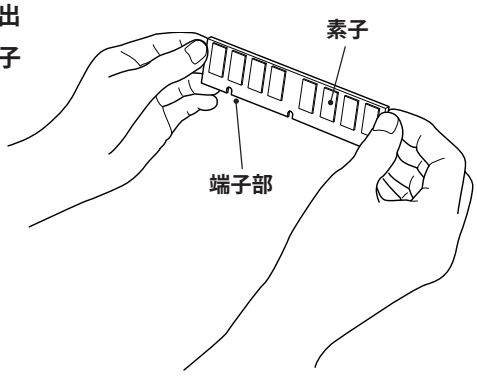
1 **背面カバーを外します。**

☞p.106「背面カバーの取り外し」

2 **DIMMソケットの固定プラグを開きます。**



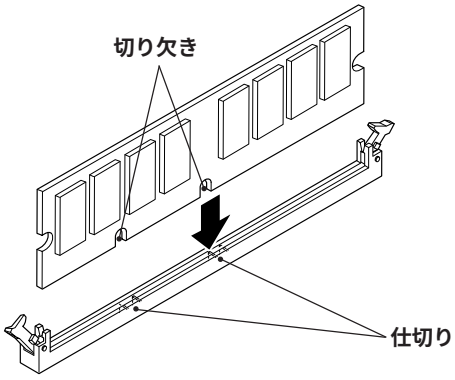
3 **DIMMを静電防止袋から取り出します。DIMMの端子部や素子に触れないように注意します。**



4 **DIMMソケットにDIMMを差し込みます。**

❶ **DIMMの2つの切り欠きをDIMMソケット内の2つの仕切りに合わせます。**

❷ **さらに押し込むと、固定プラグが閉じて、DIMMが固定されます。**



5 **背面カバーを取り付けます。**

☞p.107「背面カバーの取り付け」

6 **コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類を接続します。**

7 **電源を入れて、F2 を押してＳＣＵを起動します。**

☞p.113「SCUの起動」

8 **初期画面に表示される総メモリ容量を確認します。**

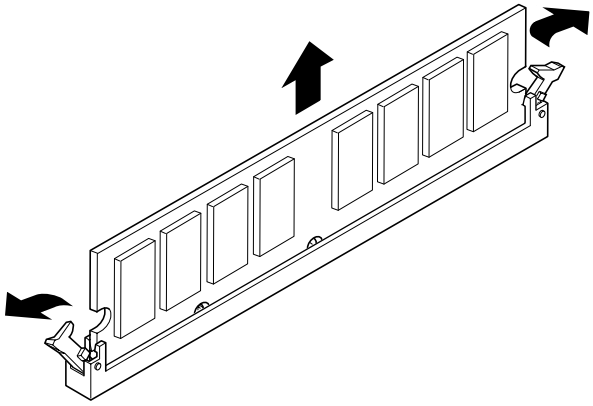
装着したDIMMの容量だけメモリ容量が増えていればDIMMは正しく取り付けられています。SCUを終了します。

増えていない場合は、正しく取り付けられていないことが考えられます。すぐに電源を切り、正しく取り付け直してください。

DIMMの外し方

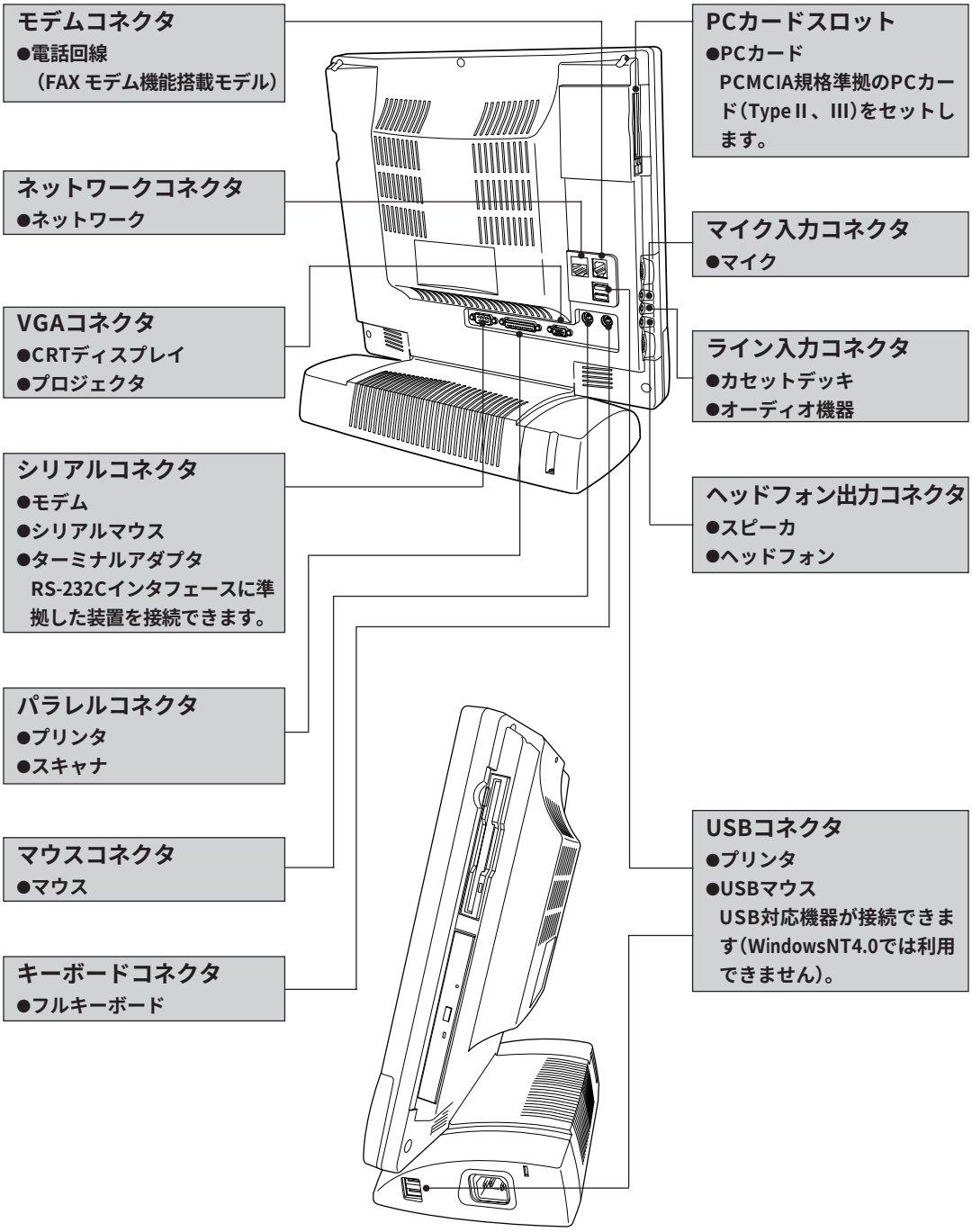
DIMMの両端を固定している固定プラグを開きます。

取り外したDIMMは静電防止袋に入れて保管してください。



外付け可能な周辺機器

本機には、次のような周辺機器を取り付けることができます。各コネクタへの接続方法は、本書または接続する周辺機器のマニュアルをご覧ください。



ＳＣＵの設定

ＳＣＵ（システム環境設定ユーティリティ）を使用し、システム環境の設定を変更する方法について説明します。

システム環境の設定

本章ではシステム環境設定ユーティリティ(以降SCUと記載)を使用し、システム環境の設定を変更する方法について説明します。
SCUはコンピュータの動作状態を設定するためのユーティリティです。購入時はコンピュータのシステム構成に合わせて最適に設定されているため、変更する必要はありません。次のような場合にはSCUを起動し、設定を変更してください。

- 周辺機器のマニュアルで指示があったとき
- 本書で指示のあったとき
- パスワードを設定したいとき

SCUで変更した内容はCMOS RAMと呼ばれる特別なメモリ領域に保存されます。このメモリはリチウム電池によってバックアップされているためコンピュータの電源を切ったり、リセットしたりしても消去されることはありません。

制限

SCUで設定した内容は、リチウム電池が保持します。リチウム電池の寿命は数年です。日付や、時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合はリチウム電池の寿命が考えられます。リチウム電池を交換してください。

☞ p.152「リチウム電池の交換」

設定変更をする前に

システム環境の設定を変更する場合は次の点に注意してください。

- 設定値を変更して動作が不安定になったり、リチウム電池の寿命で内容を保持できなくなったりした場合に備えて、必ず購入時の設定値を「SCUの設定値」に記録してください。
  ☞ p.124「SCUの設定値」
- 設定を変更後に、万一、動作が不安定になった場合は「Default Settings(初期設定値)」または「Restore Settings(前回設定値)」を実行することでもとの値に戻すことができます。
  ☞ p.115「設定をもとに戻すには」

SCUの操作

SCUの起動

1 **本機の電源を入れます。すでに電源が入っている場合はリセットします。**

2 **しばらくすると次のメッセージが表示されます。**
このメッセージが表示されている間に F2 を押します。

Press F2 to enter System Configuration Utility

3 **SCUが起動すると、次の画面が表示されます。初期画面では、現在のシステムの状態を表示しています。**

前回と仕様が異なるとき

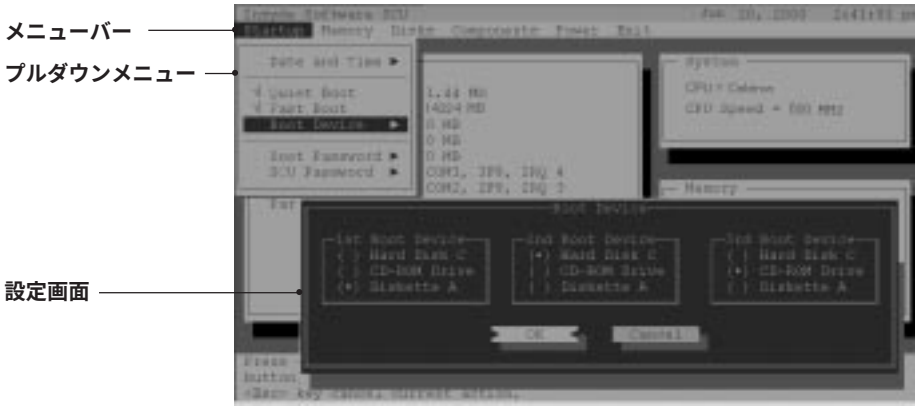
コンピュータの状態が、前回使用していたときと異なる場合には、電源を入れたあとに次のメッセージが表示されます。

Press F1 to continue

このメッセージが表示されたら、F2 を押してSCUを起動します。項目の設定を確認、変更してから保存終了してください。
F1 を押すとシステムが起動しますが、動作中に問題が発生する可能性があります。

SCUの操作

SCUの画面は次のように構成されています。操作には、キーボードとPS/2マウスの両方が使えます。



「メニューバー」から設定変更を行う項目を選択すると「プルダウンメニュー」が開きます。「プルダウンメニュー」の右端に▼マークがある場合はさらに設定画面が開きます。

キーボードでの操作 次のキーで操作します。

Alt ：カーソルをアクティブにする。

メニューバー

→ ← ：メニューバー間を移動。

プルダウンメニュー

↑ ↓ ：プルダウンメニュー間を移動。

↵ ：メニュー左側に__が表示されている場合は√または__を選択。

↵ ：メニュー右側に▼が表示されている場合は、設定画面に移る。

設定画面

Tab ：設定画面の「グループ」「OK」「Cancel」間の移動。

↑ ↓ ：グループ内の項目の移動、数値の変更。

スペース ：グループ内の項目を選択。

[OK]を選択して ↵ ：設定を実行してメニューバーに戻る。

[Cancel]を選択して ↵ ：設定をキャンセルしてプルダウンメニューに戻る。

マウスでの操作

- 変更したい項目や、実行したい項目の上にカーソルを置いて、クリックします。反転表示されている項目に、カーソルが置かれていないと、クリックしても実行されません。
- 右クリックは Esc と同じです。現在の作業が取り消されます。
- 数値の変更、入力はマウスではできません。反転表示後に、↑、↓で入力します。

設定値をもとに戻すには

SCUの設定を間違えてしまい、万一コンピュータの動作が不安定になった場合などには、SCUの設定を戻すことができます。ただし、パスワードの設定は変更されません。

初期値に戻す（Default Settings）

1 設定画面が開いている場合は閉じます。

2 メニューバーの[Exit]から「Default Settings」を選択します。

3 次のメッセージが表示されたら、[OK]を選択します。
Do you wish to change the current setup to the system default values?

制限

WindowsNT4.0の工場出荷値
WindowsNT4.0では一部の項目の初期値と工場出荷値が異なります。「Default Settings」を実行した場合は、次の項目の設定を変更（工場出荷時に戻す）してください。このまま使用すると正常に動作しません。
- [Start up]－「USB Setting」－「USB Legacy O.S. Support」：Disabled

前回保存した内容に戻す（Restore Settings）

1 設定画面が開いている場合は閉じます。

2 メニューバーの[Exit]から「Restore Settings」を選択します。

3 次のメッセージが表示されたら、[OK]を選択します。
Do you wish to restore the current setup to the original custom values?

SCUの終了

SCUを終了するには次の方法があります。

変更した内容を保存し、終了する(Save and Exit)

1 **設定画面が開いている場合は閉じます。**

2 **メニューバーの[Exit]から「Save and Exit」を選択します。**

3 **次のメッセージが表示されたら、[OK]を選択します。**
Press <OK> to Save the current setup parameters to CMOS RAM
The computer will be rebooted !!!

設定を変更せずに終了する(Exit(No Save))

今回の設定は保存せずに、前回に設定した値のまま終了します。

1 **設定画面が開いている場合は閉じます。**

2 **メニューバーの[Exit]から「Exit(No Save)」を選択します。**

3 **次のメッセージが表示されたら、[OK]を選択します。**
Press <OK> to Exit the SCU. The current settings will not be saved!!!

パスワードの設定と解除

パスワード機能は、コンピュータを使用するユーザーを限定するための機能です。パスワードを設定しておくと、他人に無断でコンピュータを使用されたり、SCU環境の設定を変更されたりするのを防ぐことができます。パスワードの設定はSCUで行います。

パスワードの種類

パスワードには次の2種類があります。それぞれのタイミングでパスワードチェックを行います。

- **Boot Password**：Windows起動時にパスワードの入力を要求します。
  正しいパスワードを入力しないとWindowsが起動できません。
- **SCU Password**：SCUの保存終了時にパスワードの入力を要求します。
  正しいパスワードを入力しないとSCUの変更を保存して終了できません。

パスワードの設定

制限

登録したパスワードは忘れないように書き写して保管しておくことをおすすめします。万一、パスワードを忘れてしまった場合にはp.155「CMOS RAMの初期化」を実行します。

ここでは「Boot Password」の設定方法を説明します。「SCU Password」の設定方法も基本的に同じです。

パスワードの設定

1 **SCUの初期画面でメニューバーの［Start up］から「Boot Password」を選択します。**

2 **「Enter new Power-On Password」に設定したいパスワードを8文字以内で入力して［↵］を押します。**
「SCU Password」の場合は「Enter new setup Password」と表示されます。
入力された文字は伏字（＊）で表示されます。（＊）が表示されない文字記号はパスワードとして使用できません。入力する文字は大文字/小文字を区別します。

3 「Verify new Power-On Password」に確認のため同じパスワードを入力して[↵]を押します。

4 「Enable Password to Power On」のチェックボックスにチェックを付けます。

5 [OK]を選択します。

パスワードの変更

1 SCUの初期画面でメニューバーの[Start up]から「Boot Password」を選択します。

2 「Enter old Power-On Password」に設定してあるパスワードを入力して[↵]を押します。

3 「Enter new Power-On Password」に設定したいパスワードを8文字以内で入力して[↵]を押します。

4 「Verify new Power-On Password」に確認のため同じパスワードを入力して[↵]を押します。

5 「Enable Password to Power On」のチェックボックスにチェックを付けます。

6 [OK]を選択します。

パスワードの解除

1 SCUの初期画面でメニューバーの「Start up」から「Boot Password」を選択します。

2 「Enter old Power-On Password」に設定してあるパスワードを入力して[↵]を押します。

3 「Enter new Power-On Password」に何も入力せずに[↵]を押します。

4 「Verify new Power-On Password」に何も入力せずに[↵]を押します。

5 「Enable Password to Power On」のチェックボックスのチェックを外します。

6 [OK]を選択します。

SCUの設定項目

Start upに関する設定

表中の■は初期設定値を示しています。

BIOS項目		説明
Date and time		現在の日時の設定をします。
Fast Boot		システム起動時にメモリチェックを省略して、起動時間を短くします。 √: 高速起動します。 __:高速起動しません。
Boot Device		システムを起動するドライブを選択します。1st Boot Deviceから順番にシステムを検出してシステムが見つかったドライブから起動します。 初期設定は1st:Diskette A　2nd:HardDisk C　3rd:CD-ROM Driveです。
	1st Boot Device 2nd Boot Device 3rd Boot Device	Hard Disk C:HDDから起動します。 CD-ROM Drive:CD-ROMドライブから起動します。 Diskette A:FDDから起動します。
USB Setting	USB Legacy O.S. Support	USBの機能を有効にするかどうかを指定します。WindowsNT4.0の工場出荷値は「Disabled」です。 Enabled: 有効にします。 Disable : 無効にします。
Boot Password		システム起動時にパスワードチェックを行うかを設定します。 ☞ p.117「パスワードの設定と解除」
SCU Password		SCU終了時にパスワードチェックを行うかを設定します。 ☞ p.117「パスワードの設定と解除」

Memoryに関する設定

BIOS項目		説明
Shared Memory	Shared Memory Size	拡張メモリのビデオメモリとして使用するサイズを設定します。 8M/16M/32M

Disksに関する設定

BIOS項目		説明
Internal FDC		FDDの機能を有効にするかどうかを設定します。 √:有効にします。 __:無効にします。
Diskette Drivers	Drive A	接続しているFDDのタイプを設定します。 None:FDD未接続 1.44Mb:1.44MB対応FDD 2.88Mb:2.88MB対応FDD
Internal HDC		内蔵HDDの機能を有効にするかどうかを設定します。 √:有効にします。 __:無効にします。
IDE Settings	HDD Timing	HDDのタイプを設定します。通常は自動的に検出されるので設定の必要はありません。 Standard:PIOモード0 Fast PIO:PIOモード1、2、3、4 Multiword DMA:DMAモードの0、1、2 Ultra DMA-33:Ultra DMAモード2 Ultra DMA-66:Ultra DMAモード4
	I/O 32 Bit transfer	32ビットデータ転送の有効、無効を設定します。 Enabled:有効 Disabled:無効
	HDD Block transfer	ブロック転送の有効、無効を設定します。 Enabled:有効 Disabled:無効
Virus Alert		ウィルスチェックを行うかどうかを設定します。Virus Scan for Windowsなどのウィルス検出ソフトを使用する場合は無効に設定します。 √:有効にします。 __:無効にします。

Componentsに関する設定

BIOS項目		説明
COM Ports	COM A I/O Settings	シリアルポートで使用するリソースの設定を行います。 Disabled：使用しません COM1,3F8,IRQ4/COM2,2F8,IRQ3/COM3,3E8,IRQ4/COM4,2E8,IRQ3
	COM B I/O Settings	赤外線ポートの設定を行います。 Disabled：使用しません COM2,2F8,IRQ3/COM1,3F8,IRQ4/COM3,3E8,IRQ4/COM4,2E8,IRQ3
	Mode Settings For COM B	赤外線ポートのモードを設定します。（COMBを「Disabled」以外に設定した場合） IrDA(HPSIR)：SIRモード FAST IR：FIRモード
	DMA Setting For Fast IR	FAST IRで使用するDMAを設定します。（赤外線ポートのモードをFAST IRに設定した場合） DMA 0/DMA1/DMA3
LPT Port	Port Address	パラレルポートで使用するリソースの設定を行います。 LPT1,378,IRQ7/LPT3,3BC,IRQ7
	Port Definition	パラレルポートの動作モードを設定します。 Standard AT(Centronics)：Centronicsモード Bidirectional(PS-2)：PS-2モード Enhance Parallel(EPP)：EPPモード Extended Capabilities (ECP)：ECPモード
	DMA Setting For ECP Mode	ECPモード時に使用するDMAを設定します。(パラレルポートの動作モードをECPに設定した場合） DMA1/ DMA3
	EPP Type	EPPモードのタイプを設定します。（パラレルポートの動作モードをEPPに設定した場合） EPP1.7 / EPP1.9
PS/2 Mouse Port		PS/2マウスを使用するかどうかを設定します。 √：使用します。 __：使用しません。
Keyboard Numlock		起動時のNumLockの状態を設定します。 √：NumLock点灯。 __：NumLock消灯。
Keyboard Repeat	Key Repeat Rate	1秒間のキーリピート回数を選択します。 2,6,10, 15,20,30cps
	Key Delay	最初のキー入力から次のキー入力を受け付けるまでの時間を選択します。 1/4, 1/2, 3/4, 1sec

Powerに関する設定

BIOS項目	説明
Wakeup on LAN	省電力モードや電源切断時にネットワークから復帰するかどうかを設定します。AC電源が切れていると無効になります。 √:復帰します。 □:復帰しません。

Exitに関する設定

BIOS項目	説明
Save and Exit	変更を保存し、終了します。
Exit (No Save)	変更を破棄し、終了します。
Default Settings	終了せずに初期設定値に戻します。パスワードは変更されません。
Restore Settings	終了せずに前回保存した値に戻ります。パスワードは変更されません。
Version Info	バージョン情報を表示します。

SCUの設定値

Start up

項目		購入時の設定	変更内容
Fast Boot		√ ＿	√ ＿
Boot Device	1st Boot Device	Hard Disk C CD-ROM Drive Diskette A	Hard Disk C CD-ROM Drive Diskette A
	2nd Boot Device	Hard Disk C CD-ROM Drive Diskette A	Hard Disk C CD-ROM Drive Diskette A
	3rd Boot Device	Hard Disk C CD-ROM Drive Diskette A	Hard Disk C CD-ROM Drive Diskette A
USB Setting	USB Legacy O.S. Support	Enable Disable	Enable Disable

Memory

項目		購入時の設定	変更内容
Shared Memory	Shared Memory Size	8M 16M 32M	8M 16M 32M

Disks

項目		購入時の設定	変更内容
Internal FDC		√ ＿	√ ＿
Diskette Drivers	Drive A	1.44Mb 2.88Mb	1.44Mb 2.88Mb
Internal HDC		√ ＿	√ ＿
IDE Settings	HDD Timing	Standard Fast PIO Multiword DMA Ultra DMA-33 Ultra DMA-66	Standard Fast PIO Multiword DMA Ultra DMA-33 Ultra DMA-66
	I/O 32 Bit transfer	Enabled Disabled	Enabled Disabled
	HDD Block transfer	Enabled Disabled	Enabled Disabled
Virus Alert		√ ＿	√ ＿

Components

項目		購入時の設定	変更内容
COM Ports	COM A I/O Settings	Disabled COM1,3F8,IRQ4 COM2,2F8,IRQ3 COM3, 3E8, IRQ4 COM4, 2F8, IRQ3	Disabled COM1,3F8,IRQ4 COM2,2F8,IRQ3 COM3, 3E8, IRQ4 COM4, 2F8, IRQ3
	COM B I/O Settings	Disabled COM2,2F8,IRQ3 COM1,3F8,IRQ4 COM3, 3E8, IRQ4 COM4, 2F8, IRQ3	Disabled COM2,2F8,IRQ3 COM1,3F8,IRQ4 COM3, 3E8, IRQ4 COM4, 2F8, IRQ3
	Mode Setting For COM B	IrDA(HPSIR) FAST IR	IrDA(HPSIR) FAST IR
	DMA Setting For Fast IR	DMA 0 DMA1 DMA3	DMA 0 DMA1 DMA3
LPT Port	Port Address	LPT1,378,IRQ7 LPT3,3BC,IRQ7	LPT1,378,IRQ7 LPT3,3BC,IRQ7
	Port Definition	ECP Centronics PS-2 EPP	ECP Centronics PS-2 EPP
	DMA Setting For ECP Mode	DMA1 DMA3	DMA1 DMA3
	EPP Type	EPP1.7 EPP1.9	EPP1.7 EPP1.9
PS/2 Mouse Port		√ ＿	√ ＿
Keyboard Numlock		√ ＿	√ ＿
Keyboard Repeat	Key Repeat Rate	2 6 10 15 20 30	2 6 10 15 20 30
	Key Delay	1/4 2/1 3/4 1	1/4 2/1 3/4 1

Power

項目	購入時の設定	変更内容
Wakeup on LAN	√ ＿	√ ＿

こんなときは

困ったときに
警告メッセージが表示されたら

困ったときに

困ったときの確認事項と対処方法を説明します。不具合が発生した場合に参考にしてください。

コンピュータの不具合

制限

電源を切ってから入れなおす場合には、入れなおすまでに20秒程度の間隔を開けてください。本機には電源電圧などを管理するシステム管理機能が搭載されています。このため20秒以内に電源を入れると、電源が異常と判断され、正常にシステムが起動しなくなることがあります。

現象　**起動時に電源ランプが点灯しない。**

確認と対処

- 電源コードが正しく接続されているか確認します。
  p.12「コンピュータの設置」
- 電源コンセントに電源が供給されているか確認します。ほかの電気製品を接続して確認してください。
- 電源コード、電源コンセントに問題がない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

現象　**起動時に画面に警告メッセージが表示される、または起動しない。**

確認と対処

- コンピュータの電源を切ってから20秒以内に電源を入れると、システム管理機能が電源を異常と判断する場合があります。一度電源を切って、20秒以上待ってから電源を入れてみてください。
- 現象が発生する前に周辺機器の増設やアプリケーションのインストールを行なった場合には、それらが原因となっている可能性があります。周辺機器の取り外しやアプリケーションの削除をして、現象の発生する前の状態に戻してください。
- 起動時の自己診断テスト終了後(OSの起動中)に警告メッセージが表示されている場合には、OSが正常に動作していない可能性があります。警告メッセージの内容をメモして、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。
- 起動時に警告メッセージが表示される場合には、起動時の自己診断テストの結果、ハードウェアに問題が発生している可能性があります。
  p.145「警告メッセージ」

- 起動時に警告メッセージが表示される場合には、警告メッセージを確認してください。問題点が解決できない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。
- SCU(システム環境設定ユーティリティ)の設定が正常でない可能性があります。SCUで設定値を初期設定値に戻してください。
  ☞ p.115「設定値をもとに戻すには」
- SCUを初期設定値に戻しても問題が解消されない場合は、CMOS RAMを初期化してみてください。
  ☞ p.155「CMOS RAMの初期化」
- ビープ音が鳴って起動中に止まってしまう場合は、起動時の自己診断テストにて異常が発見されています。音の種類、音の長さなどをメモして、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

現象

起動時に次のようにパスワードの入力が要求される。また、パスワードを入力しても起動しない。

```
Enter Password:
```

確認と対処

- 「SCU(システム環境設定ユーティリティ)」でパスワードが設定されています。正しいパスワードを入力してください。
  ☞ p.117「パスワードの設定と解除」
- パスワードを正しく入力しているか確認します。
  [Num Lock]の状態により数値キーは使用できません。
  ☞ p.49「キーボードを使う」
- パスワードを忘れてしまった場合には、強制的に解除することができます。
  ☞ p.155「CMOS RAMの初期化」

現象

起動時に次のようなメッセージが表示されてWindowsなどのOSが起動しない。

```
DISK BOOT FAILURE,INSERT SYSTEM DISK AND PRESS ENTER
```

確認と対処

- システムが登録されたFDをセットして、HDDが正常に認識されているか確認してください。
  ☞ p.137「HDDの不具合」

現象　**ハングアップしてしまい何も反応しない。**

確認と対処

- Ctrl + Alt + Delete を押してリセットします。
- リセットしても反応がない場合には、電源スイッチを押して電源を切ってから再起動してください。
- 電源スイッチを押しても電源が切れない場合は、5秒以上電源スイッチを押してください。これで電源が切れます。
  p.46「リセット」

現象　**SCU(システム環境設定ユーティリティ)の情報、日付、時間などの設定が変わってしまう。**

確認と対処

- 本体内部のリチウム電池の残量が少なくなり、データを保持できなくなっている可能性があります。リチウム電池を交換してください。
  p.152「リチウム電池の交換」

省電力機能に関する不具合

現象　**正しく省電力モードに移行できない。または省電力モードから復帰できない**

確認と対処

- 使用しているアプリケーションや常駐ソフト、増設している周辺機器の影響により省電力機能が正常に働かない可能性があります。アプリケーションの削除や常駐ソフトの解除、周辺機器の一時的な取り外しを行い、省電力機能が正常に働くか確認してください。
- 省電力モードから復帰できない場合は、Ctrl + Alt + Delete を押してコンピュータを再起動してください。ただし、省電力モード移行前のデータはすべて消失します。

キーボードの不具合

現象 **数値キーを押しても数値が入力されない。**

確認と対処

- 数値キーは Num Lock の状態により機能が変わります。Num Lock キーを押してオンの状態にします。
  ☞ p.49「キーボードを使う」

現象 **どのキーを押しても応答がない。**

確認と対処

- キーボードが正しく接続されているか確認します。キーボードの接続は電源を入れる前に行ってください。
  ☞ p.14「キーボードとマウスの接続」
- マウスを操作してください。マウスで操作できる場合もあります。
- アプリケーションソフトが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。アプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。
- プログラムがハングアップしている可能性もあります。しばらく待っても反応がない場合は、リセットしてください。
  ☞ p.46「リセット」

現象 **キートップにある文字や記号が入力できない。**

確認と対処

- 日本語キーボード用ドライバの特性により刻印されている文字の中で固有の文字は入力できません。
  ☞ p.49「キーボードを使う」
- OS上でキーボードが正常に設定されていない可能性があります。Windows上で次のキーボードが選択されていることを「コントロールパネル」―「システム」アイコン（WindowsNT4.0/Windows2000は、「キーボード」アイコン）をダブルクリックして確認します。

  WindowsMe/Windows98 ：106日本語（A01）キーボード（Ctrl+英数）
  Windows2000 ：101/102英語キーボードまたはMicrosoft Natural PS/2キーボード
  WindowsNT4.0 ：PC/AT106日本語（A01）キーボード

マウスの不具合

現象 **マウスを動かしても、マウスポインタが動かない。**

確認と対処

- マウスが正しく接続されているか確認します。マウスの接続は、電源を入れる前に行ってください。
  p.14「キーボードとマウスの接続」
- キーボードを操作してみてください。キーボードで操作できる場合もあります。
- アプリケーションソフトが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。アプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。
- プログラムがハングアップしている可能性もあります。しばらく待っても反応がない場合は、リセットしてください。
  p.46「リセット」

現象 **OSやアプリケーションソフトでマウスカーソルが表示されない。**

確認と対処

- マウスが正しく接続されているか確認します。
  p.14「キーボードとマウスの接続」
- MS-DOSアプリケーションでマウスを使用する場合は、専用のマウスドライバをインストールする必要があります。本機にはMS-DOS用のマウスドライバは添付されていません。

現象 **マウスカーソルの動きが悪い。**

確認と対処 マウスのクリーニングを行ってみてください。
p.150「マウスのお手入れ」

LCDの不具合

現象 **LCD画面が真っ暗で何も表示されない。**

確認と対処

- 表示装置の設定がLCD画面を表示する設定になっていない(外付けディスプレイのみに表示)可能性があります。表示装置の設定を変更してください。
  ☞ p.72「表示装置の切り替え方法」
- コンピュータの電源を切ってから20秒以内に電源を入れると、システム管理機能が電源を異常と判断する場合があります。一度電源を切って、20秒以上待ってから電源を入れてみてください。
- 起動時の自己診断テストにて異常が発見されました。ビープ音が鳴った場合は、音の種類、音の長さなどを確認した上で、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

現象 **しばらく放置しておくと表示が消えてしまう。**

確認と対処

- 省電力モードになっている可能性があります。キーボードまたはマウスを操作してみてください。
  ☞ p.96「省電力機能」

現象 **画面の解像度などを変更したあと、画面が乱れたり何も表示しなくなった。**

確認と対処

- 使用中のディスプレイでは、表示できない解像度を選択した可能性があります。WindowsMe/Windows98の場合はSafeモードで、Windows NT4.0/Windows2000の場合はVGAモードで起動し直してみてください。

Safeモードでの起動（Windows Meの場合）

WindowsMeをSafeモードで起動する方法は、次のとおりです。Safeモードは、WindowsMeを基本的な設定で起動するモードです。

1 **コンピュータの電源を切り、20秒程放置したあと、電源を入れます。**

2 **電源を入れた直後に Ctrl を押し、そのまま離さずにしばらく押し続けます。**

3 **「Microsoft Windows Millennium Startup Menu」が表示されたら、「Safe mode」を選択し、↵ を押します。**

Safeモードでの起動（Windows 98の場合）

Windows98をSafeモードで起動する方法は、次のとおりです。Safeモードは、Windows98を基本的な設定で起動するモードです。

1 **コンピュータの電源を切り、20秒程放置したあと、電源を入れます。**

2 **電源を入れた直後に、Ctrl を押し、そのまま離さずにしばらく押し続けます。**

3 **「Microsoft Windows 98 Startup Menu」が表示されたら、「3.Safe mode」を選択し、↵ を押します。**

VGAモードでの起動（Windows 2000の場合）

Windows2000をVGAモードで起動する方法は、次のとおりです。

1 **コンピュータの電源を切り、約20秒間放置したあとに電源を入れます。**

2 **画面下に、次のメッセージが表示されます。このメッセージが表示されている間に F8 を押します。押さない場合は通常モードでWindowsが起動します。**

Windows2000の問題解決と拡張オプションについてはF8を押してください。

3 **「Windows2000拡張オプションメニュー」が表示されたら、「VGAモードを有効にする」を選択し、↵ を押します。**

VGAモードでの起動（Windows NT4.0の場合）

Windows NT4.0をVGAモードで起動する方法は、次のとおりです。

1 **コンピュータの電源を切り、20秒程放置したあと、電源を入れます。**

2 **「オペレーティングシステムの起動」が表示されたら「Windows NT･･･[VGA mode]」を選択します。**

現象　**画面がちらつく。**

確認と対処

- LCD画面が明るくなったり、暗くなったりしてちらつく場合には、SCUを起動して、SCUの画面でも同様の現象が発生するか確認してみてください。SCU画面でも同様の現象が発生する場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

FDDの不具合

現象　**FDに正常にアクセスできない。**

確認と対処

- 次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FDが正しくセットされていない可能性があります。正しくセットし直してください。

```
A:\
デバイスの準備ができていません。
                    [OK]
```

```
A:\にアクセスできません。
デバイスの準備ができていません。
  [再試行]          [キャンセル]
```

- 次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FDがフォーマットされていないか、DOS/V機以外のコンピュータで使用しているFDの可能性があります。

```
ドライブAのディスクはフォーマットされていません。
今すぐフォーマットしますか?
      [はい]                [いいえ]
```

- 使用しているFDが、本機で使用できるフォーマット形式でフォーマットされているか確認してください。
  ☞p.54「FDDを使う」
- 別のFDで読み書きを行ってください。正常に読み書きできる場合は、前のFDに異常があることが考えられます。
- 別のFDでも読み書きできない場合には、「SCU(システム環境設定ユーティリティ)」―「Disks」のFDDに関する項目がすべて初期設定値となっているか確認してください。
  ☞p.121「Disks」
- 起動ディスクなどのシステムが組み込まれているFDから起動できるか確認してください。起動できない場合、FDDが故障している可能性があります。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターにご連絡ください。

現象　**FDに書き込みできない。**

確認と対処

- ライトプロテクトされていないか確認します。
  ☞p.57「ライトプロテクト」

現象　**FDDから異常な音がする。**

確認と対処

- 販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターにご連絡ください。

HDDの不具合

現象　**それまで問題なく使用していたHDDが認識されなくなった。**

確認と対処

- HDDに問題が発生している可能性があります。「SCU（システム環境設定ユーティリティ）」―「Disks」のHDDの設定を確認してください。
  ☞p.121「Disks」

現象　**特定のファイルのみ読み書きできなくなった。**

確認と対処

- ファイルのデータが壊れているおそれがあります。HDDのメンテナンスユーティリティなどを実行してください。
- 上記の処置を行ってもこの現象が頻繁に発生する場合は、必要なファイルのバックアップを取ってから、HDDをフォーマットし直してください。HDDをフォーマットしても改善されない場合には販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターにご連絡ください。

CD-ROMドライブの不具合

現象 **セットしたCDにアクセスできない。**

確認と対処

- CD-ROMなどのメディアを挿入した直後、アクセスランプの点灯中は読み込みの準備のためアクセスできません。この場合はアクセスランプの消灯を待って、もう一度アクセスしてください。
- CD-ROMなどのメディアの表面に傷などがないか確認してください。
- コンピュータに添付されていたCD-ROM(「ユーティリティCD」など)にアクセスできるか確認してください。問題がない場合は、アクセスできないCD-ROMメディアに問題がある可能性があります。
- 特殊なフォーマット形式のCD-ROMメディアの場合、アクセスできない可能性があります。本機で扱えるフォーマット形式を確認してください。
- セットしたCDが書き込み済みのCD-RメディアまたはCD-RWメディアの場合、CD-ROMドライブとCD-R/CD-RWメディアとの相性によりアクセスできない可能性があります。

現象 **セットしたCDが読み込めない。**

確認と対処

- CDには、CD-ROM、音楽CD、ビデオCD、フォトCDなどがあります。コンピュータの記録メディアとしてそのまま利用可能なのはCD-ROMだけです。そのほかのCDをアクセスするためには専用のソフトウェアが必要になります。Windows には音楽CDを再生するソフトウェアとして「CDプレーヤー」が標準で添付されています。

現象 **音楽用CDの音が聞こえない。**

確認と対処

- スピーカの音量が小さくなっている可能性があります。ボリューム調節ダイヤルで音量を調節してみてください。

アプリケーションソフトの不具合

現象　**アプリケーションソフトの使用中に突然停止(ハングアップ)した。**

確認と対処

- 過度の電源ノイズ、瞬時電圧低下などが発生した可能性があります。電源ノイズによる現象には、ディスプレイのノイズ、システムの再起動、停止(ハングアップ)などが含まれます。アプリケーションソフトを再度実行してみてください。
- ケーブルの接続不良や、キーボード内のごみやほこり、電源の出力不安定、もしくはその他の部品の不良によって不具合が発生する場合があります。点検を行ってみてください。
- HDDに対するデータの読み書きの最中に振動が加わると、システムがハングアップする場合があります。

現象　**アプリケーションソフトが起動しない。**

確認と対処

- アプリケーションソフトの起動に必要とされるシステムリソース(メモリ容量やHDDの使用可能な容量など)が整っているか確認してください。エラーメッセージなどが表示される場合は、アプリケーションソフトのマニュアルを参照して必要な対処を行ってから、再度起動してみてください。
- アプリケーションソフトを正しい方法でインストールしたか、アプリケーションソフトの起動手順を正しく実行しているか確認してください。
- 実行しようとしているディレクトリが正しいか確認してください。FDやCD-ROMなどから起動しようとしている場合は、ドライブおよびディレクトリの指定が正しく行われているか確認してください。
- アプリケーションソフトの使用許諾を受けていない場合(違法コピーなど)、アプリケーションソフトが動作しないことがあります。アプリケーションソフトの正式版を使用してください。
- アプリケーションソフトの使用方法をもう一度確認してください。それでもアプリケーションソフトの不具合が解決できないときは、アプリケーションソフトの販売元にお問い合わせください。

メモリの不具合

現象　**メモリチェックで表示されるメモリ容量が実際の容量と違っている。**

確認と対処

- 本機はメモリの一部をビデオメモリとして使用します。メモリ容量からビデオメモリ分が差し引かれて表示されます。
- メモリを増設した場合は、メモリのタイプが合っているか、ソケットの奥までしっかりと差し込まれているか確認してください。
- 購入時から不具合がある場合は、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

PCカードの不具合

現象　**PCカードを装着しても、使用できない。**

確認と対処

- PCカードが、対応するPCカードスロットに正しく装着され、認識されているか確認してください。
- PCカードを使用するために必要なドライバやアプリケーションソフトがインストールされているか確認してください。詳しくは、PCカードのマニュアルをご覧ください。
- 外部装置を追加するためにPCカードを装着した場合、外部装置とPCカードの接続が正しいか、正しいケーブルを使用しているかを確認してください。詳しくは、PCカードのマニュアルをご覧ください。
- PCカード使用時の制限(p.63)をご覧になり、本機で使用可能かどうか確認ください。

プリンタの不具合

現象　**印刷できない。**

確認と対処

- プリンタの電源および印刷するための準備が完了していることを確認してください。
- プリンタのディップスイッチまたはコントロールパネルの設定が正しいかどうか、プリンタのマニュアルで確認してください。
- Windowsではプリンタドライバをインストールする必要があります。プリンタドライバのインストール方法についてはプリンタに添付のマニュアルをご覧ください。

スピーカの不具合

現象　**システムは正常に動作しているのにブザーの音がしない。**

確認と対処

- スピーカの音量が小さくなっている可能性があります。ボリューム調節ダイヤルで音量を調節してみてください。
- スピーカの不良が考えられます。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

FAXモデムの不具合（FAXモデム機能搭載モデル）

現象　**「モデムが検出されませんでした。」とエラーメッセージが表示され、インターネットに接続できない。**

確認と対処

- WindowsMe/Windows98/Windows2000では、「モデムのプロパティ」で［詳細情報］または［モデムの照会］を実行してみてください。モデムに問題がある場合はエラーメッセージが表示されます。

  - **WindowsMeの場合**

    「モデム」－「検出結果」タブのモデム（COM3）を選択して、[詳細]をクリックします。

  - **Windows98の場合**
    「モデム」－「検出結果」タブのモデム（COM3）を選択して、[詳細情報]をクリックします。

  - **Windows2000の場合**
    「電話とモデムのオプション」-「モデム」タブ-[プロパティ]-「診断」タブの[モデムの照会]をクリックします。

現象　**インターネットへ接続できない**

確認と対処

- モジュラケーブルが、モデムコネクタに接続されているかを確認します。
- 「ダイヤルアップネットワーク」－「ダイヤルのプロパティ」で電話番号や、設定を再確認します。また、国番号、市外局番、トーンやパルスの設定も確認します。
- 「モデムのプロパティ」で「トーンを待ってからダイヤルする」のチェックを外してみてください。

  - **WindowsMe/Windows98/WindowsNT4.0の場合**
    「モデム」－[プロパティ]－「接続」タブの「接続オプション」で、「トーンを待ってからダイヤルする」のチェックを外します。

  - **Windows2000の場合**
    「電話とモデムのオプション」－「モデム」タブ-[プロパティ]－「ダイヤルの管理」で、「発信音を待ってからダイヤルする」のチェックを外します。

- ユーザー名や、パスワードが間違っている可能性があります。次の点を確認して入力してください。
  - ・全角の文字を使用していないか。全角文字は使用できません。
  - ・大文字と小文字をきちんと区別しているか。
  - ・数字とアルファベットを間違えていないか。たとえば、数字の0 とアルファベットのO 。
  - ・ユーザー名とメールアドレスを混同していないか。
  - ・パスワードとメールパスワードを混同していないか。
- ネームサーバのIPアドレスを入力した場合は設定が正しいか確認します。正しくない場合は修正します。

  次の手順でネームサーバのIPアドレスを確認します。

  ・WindowsMeの場合

  ❶「ダイヤルアップネットワーク」－「接続（任意の名前）」アイコンを右クリックして「プロパティ」を選択します。

  ❷「ネットワーク」タブ－[TCP/IP設定]をクリックしてネームサーバアドレスを確認します。

  ・Windows98の場合

  ❶「ダイヤルアップネットワーク」－「接続（任意の名前）」アイコンを右クリックして、「プロパティ」を選択します。

  ❷「サーバーの種類」タブ－[TCP/IP設定]をクリックして、「ネームサーバアドレス」を確認します。

  ・WindowsNT4.0の場合

  ❶「ダイヤルアップネットワーク」－[その他]を右クリックして、「エントリとモデムのプロパティの編集」を選択します。

  ❷「サーバー」タブ－[TCP/IPの設定]でネームサーバアドレスを確認します。

  ・Windows2000の場合

  ❶「ネットワークとダイヤルアップ」-「接続(任意の名前)」アイコンを右クリックして「プロパティ」を選択します。

  ❷「ネットワーク」タブ－「インターネットプロトコル」－[プロパティ]でDNSサーバアドレスを確認します。

- 原因不明で接続できない場合は、インターネット接続ウィザードを再実行してみます。これで接続できることもあります。
- 同じ市内に複数のアクセスポイントがある場合は、プロバイダの電話番号を変更してみます。接続してもすぐに切れたり、プロトコルが確立できないときはこの方法で接続できる場合もあります。
- 次の理由で、接続できないことがあります。時間をおいて接続してみてください。
  - ・極端に混雑していると、アクセスを拒否されることがある。
  - ・極端に混雑していると、接続はするがタイムアウトしてしまう。
  - ・プロバイダのサーバが停止している。

現象　**V.90通信方式で通信できない。**

確認と対処

- 回線状況によって、V.90通信方式で接続できない場合があります。V.90通信方式のほかにはx2 方式がありますが、x2 方式のモデムとは、V.34 通信方式（33600bps ）以下で接続します。またお使いになっている、最寄りの電話局の交換機からプロバイダなどの相手側までの電話回線の通信経路が、すべてデジタル化されている必要があります。デジタルからアナログへの交換機切り替えが、この通信経路で1 度だけ行われる場合にのみ、V.90通信方式で接続することができます。

  PBX 回線では、V.90 通信方式では接続できません。V.34 通信方式（33600bps）以下で接続します。

現象　**V.90、V.34 通信方式で通信中に、通信速度が下がる。**

確認と対処

- V.90、V.34 通信方式では、安定して確実な通信を行うために、モデム機能が回線状況によって自動的に調整を行い、通信速度を下げて接続する場合があります。

警告メッセージ

本機は電源スイッチを入れたときに、ハードウェアを検査するための自己診断テストを行います。テストの結果に問題があった場合は、次のいずれかの方法で、問題を知らせます。

- Warnig(警告)メッセージを表示する。
- Fatal(致命的)メッセージを表示し、断続的にブザーを鳴らす。
- 断続的にブザーを鳴らす。

以降の説明を参照して、必要な処置を取ってください。

警告メッセージ

’Warning"の文字に続いて次のメッセージが表示されます。各警告メッセージの処置を行っても直らない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

メッセージ	説明
CLOCK NOT TICKING CORRECTRY	内蔵時計が止まっています。 本機の電源を入れなおして、再起動します。
CMOS CHECKSUM INVALID-RUN SCU	CMOS RAM情報が壊れています。 SCUを起動し、「Exit」メニューで「Default Settings」「Save and Exit」を選択します。
CMOS FAILURE -RUN SCU	サブ電池が放電したため、CMOSRAMの内容を保持できません。 SCUを起動し、「Exit」メニューで「Default Settings」「Save and Exit」を選択します。
FLOPPY CONTROLLER FAILD	フロッピーコントローラがリセットコマンドに応答しません。 電源を切ってフロッピーディスクが正しくセットされているか確認します。 SCUを起動し、「Exit」メニューで「Default Settings」「Save and Exit」を選択します。
FLOPPY DISK TRACK 0 FAILD	フロッピーディスクのトラック0を読み取れません。 フロッピーディスクを交換して、問題が解決されればフロッピーティスクに問題があります。
FLOPPY INFORMATION INVALID -RUN SCU	CMOSに登録してあるドライブのパラメータがシステムに装着されているFDDと一致しません。 SCUを起動し、「Disks」メニューの「Drive A」の設定を「1.44MB」にします。

メッセージ	説明
HARDWARE INFO DOES NOT MATCH VIDEO CARD -RUN SCU	CMOSRAMに設定してあるビデオアダプタの種類が実際に装着されているものと一致しません。 システムがビデオシステムを正しく判断していません。本機の電源を入れなおして再起動します。
KEYBOARD CONTROLLER FAILURE	キーボードの自己診断テストコマンドに失敗しました。 本機の電源を入れなおして再起動します。
KEYBORD FAILURE	キーボードがRESETIDコマンドに応答しませんでした。 本機の電源を入れなおして再起動します。
NO INTERRUPTS FROM TIMER 0	周期タイマーが働きません。 本機の電源を入れなおして再起動します。
RAM PARITY ERROR AT LOCATION xxx	RAMのパリティエラーがxxxアドレス(16進表記)で発生しました。 再起動してもエラーになる場合は、DIMMを正しく装着しているか、また、異物が挟まっていないかを調べます。
ROM AT xx(LENGTH yyy) WITH NONZERO CHECKSUM (zz)	アドレス(16進表記)にあるアダプタのROMが規格外です。 本機の電源を入れなおして再起動します。
TIME/DATE CORRUPT -RUN SCU	SCUの「Date and Time」の情報が不正です。 SCUを起動して「Startup」メニューの「Date and Time」を設定しなおします。突然電源が切れたときなどに起こることがあります。
UNEXPECTED AMOUNT OF MEMORY -RUN SCU	POSTで診断したRAMの容量が、CMOSRAMの指定と一致しません。 SCUを起動し、そのまま設定を保存して終了すれば正しいRAMの容量がCMOSに設定されます。突然電源が切れたときなどにこの現象は起こります。

致命的メッセージ　"Fatal"の文字に続いて次のメッセージが表示された場合、またはメッセージなしで断続的なブザーが鳴った場合は、本機の電源を入れなおして再起動してください。正常に再起動できない場合は、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでお問い合わせください。
お問い合わせいただくときには表示されたメッセージ、およびブザーをメモに取っておいてください。

■：プッ　■■：プー

メッセージ	ブザー
CMOS RAM TEST FAILED	■-■-■-休止-■■-■-■-休止
DMA CONTROLLER FAULTY	■-■-■-休止-■■-■-■■-休止
FAULTY DMA PAGE REGISTERS	■-■-■-休止-■-■-■■-休止
FAULTY REFRESH CIRCUIT	■-■-■-休止-■-■■-■-休止
INTERRUPT CONTROLLER FAILED	■-■-■-休止-■■-■■-■-休止
ROM CHECKSUM INCORRECT	■-■-■-休止-■-■■-■■-休止
なし	■-■-■-休止-■-■-■■-休止
なし	■-■-■-休止-■-■■-■-休止
なし	■-■-■-休止-■-■■-■■-休止
なし	■-■-■-休止-■■-■-■-休止
なし	■-■-■-休止-■■-■-■■-休止
なし	■-■-■-休止-■■-■■-■-休止
なし	■-■-■-休止-■■-■■-■■-休止
なし	■-■-■■-休止-■-■-■-休止
なし	■-■-■■-休止-■-■-■■-休止

付　録

お手入れ方法、HDD領域の変更方法
および仕様などについて説明して
います。

お手入れ

本機のお手入れ

コンピュータ本体の外装の汚れを拭き取るときは、柔らかい布に中性洗剤を滴らない程度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。

制限

ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。

LCDパネルのお手入れ

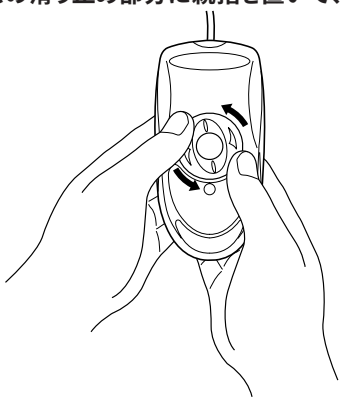
LCDパネルは乾いた布やティッシュペーパーなどで拭いてください。水や洗剤などは使わないでください。

マウスのお手入れ

マウスを長い間使っていると、マウスボールにホコリやゴミが付着します。マウスボールの汚れをそのままにして使い続けると、誤操作や故障の原因となります。マウスボールが汚れてきたらクリーニングを行ってください。
クリーニングはコンピュータ本体の電源を切ったあと、マウスをコンピュータから取り外した状態で行ってください。
クリーニングの手順は、次のとおりです。

1 **マウス底面のボールフレームをはずします。**

ボールフレームの滑り止め部分に親指を置いて、左回りに回します。



2 **マウスボールを取り出します。**

マウス底面を静かに下に向けると、ボールフレームとマウスボールが外れます。

3 マウスボールの汚れを乾いた布で拭き取ります。

- マウスボールの汚れがひどい場合は、中性洗剤をうすめた溶液で洗い、水でよくすすぎます。水洗い後は、マウスボールを乾いた布で拭き、十分乾燥させてから装着します。
- クリーニング中は、マウス本体内部にゴミなどが入らないように注意してください。

4 マウスボールをマウス底面の穴に入れます。

5 ボールフレームをもとどおりに取り付けます。
右回りに回してマウス本体に装着します。

制限

マウスボールの着脱を必要以上に繰り返さないでください。故障の原因となります。

リチウム電池の交換

SCU(システム環境ユーティリティ)で設定した情報は、本体内部のリチウム電池により保持されます。
本機のリチウム電池の寿命は数年です。リチウム電池の残量が少なくなると情報を保持できなくなり、設定した値が何もしないのに変わってしまいます。このような場合、リチウム電池を交換してください。
本機で使用するリチウム電池は次のとおりです。

- CR2032(または同等品)

警告

- **小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。飲み込むと化学物質による被害の原因となります。**
  万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。
- **電源コンセントに電源プラグを接続したままで分解しないでください。感電・火傷の原因となります。**
- **マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。**

注意

分解作業は本製品の内部が高温時には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。

制限

本機は電源を切ってもコンピュータ内部に微少な電気が流れています。必ず電源コンセントから電源プラグを外してください。

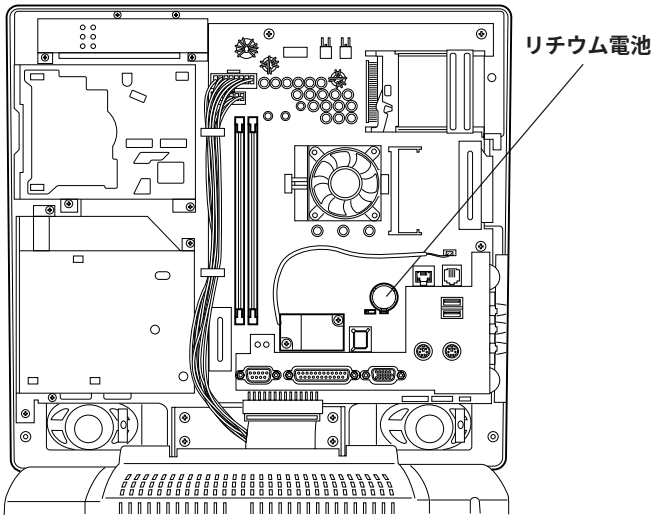
リチウム電池の交換は次の手順で行います。

1 **背面カバーを外します。必ず電源のコードも外します。**

☞ p.106「背面カバーの取り付け・取り外し」

2 **リチウム電池の位置を確認します。**

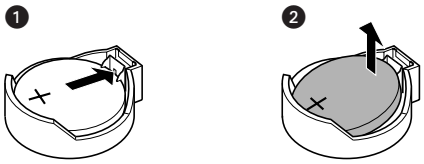
リチウム電池は、メインボード上の次の位置にあります。



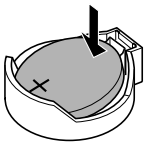
3 **リチウム電池を抜きます。**

❶ **電池ホルダの留め金を押します。**
（電池ホルダの形状は機種により違う場合があります。）

❷ **リチウム電池が浮き上がったら、電池を抜きます。**



4 **新しいリチウム電池を取り付けます。**
刻印面（＋側）が上側にくるようにして、新しいリチウム電池を取り付けます。
取り付けるときには、「カチッ」と音が鳴ります。



5 **背面カバーを装着します。**

☞ p.106「背面カバーの取り付け・取り外し」

6 **外したケーブル類をもとどおりに接続します。**

7 **コンピュータの電源を入れます。[F2] を押して、SCUを実行します。**

☞ p.113「SCUの起動」

8 **メニューバーの[Exit]から「Default Settings」を選択して実行します。**

9 **日付、時刻やそのほか変更の必要のある項目の再設定を行います。**

10 **メニューバーの[Exit]から「Save and Exit」を選択してSCUを終了します。**

CMOS RAMの初期化

CMOS RAMには、SCU(システム環境設定ユーティリティ)で設定した各種情報などが保存されています。SCUで設定したパスワードを忘れたり、設定を誤ったりして、コンピュータが起動しなくなった場合にはCMOS RAMを初期化することで動作可能にすることができます。

警告

- **電源コンセントに電源プラグを接続したままで分解しないでください。感電・火傷の原因となります。**
- **マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。**

注意

分解作業は本製品の内部が高温時には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。

制限

- **CMOS RAMを初期化すると現在のSCUの設定情報がクリアされます。**
- **本機は電源を切ってもコンピュータ内部に微少な電気が流れています。必ず電源コンセントから電源プラグを外してください。**

CMOS RAMの初期化の手順は以下のとおりです。

1 **背面カバーを外します。このとき、必ず電源コードも外します。**

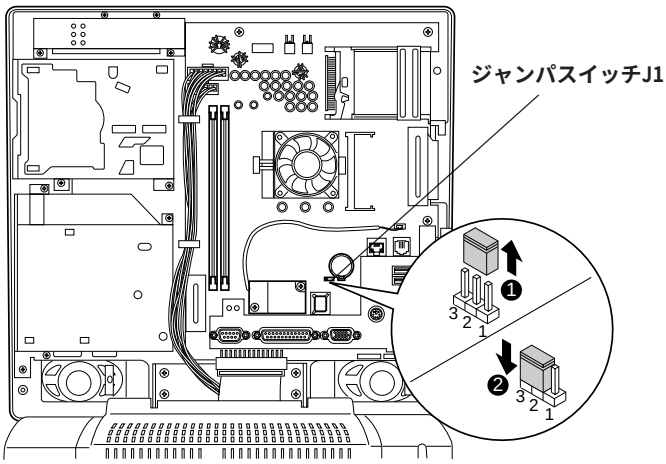
☞ p.106「背面カバーの取り付け・取り外し」

2 **メインボード上のジャンパスイッチＪ1を次のとおり変更します。**

ジャンパクリップは、ピンセットなどを使って抜き差ししてください。先の鋭いものを使用する場合には、メインボードに傷を付けないように注意してください。

❶ **ジャンパクリップが右側２本のピンに差し込まれています(1-2ショート状態)。このジャンパクリップを抜き取ります。**

❷ **ジャンパクリップを左側２本のピンに差し込みます(2-3ショート状態)。**



3 **このまま5秒程度、放置します。**

4 **ジャンパスイッチＪ1の設定をもとに戻します。**

ジャンパクリップを1-2ショート状態に設定します。

5 **背面カバーを装着します。**

☞ p.106「背面カバーの取り付け取り外し」

6 **外したケーブル類をもとどおりに接続します。**

7 **コンピュータの電源を入れます。F2 を押して、SCUを実行します。**

☞ p.113「SCUの起動」

8 **メニューバーの[Exit]から「Default Settings」を選択して実行します。**

9 **日付、時刻やそのほか変更の必要のある項目の再設定を行います。**

10 **メニューバーの[Exit]から「Save and Exit」を選択してSCUを終了します。**

ATコマンドの使用
（FAXモデム機能搭載モデル）

ATコマンドについて

コンピュータからFAXモデム機能に対してさまざまなコマンドを送り、モデムの動作を制御することができます。本モデムにはモデム制御コマンドに「ATコマンド」を採用しています。
本機で使えるATコマンドの一覧（ATコマンドリファレンス）は添付の「リカバリCD-ROM」の「MODEM」フォルダに登録されています。(英文)

ATコマンドの使用

通信ソフトウェアでモデムを動作させる場合は、通常コマンドを使用する必要はありません。しかし、「モデムのプロパティ」画面の「追加設定」にATコマンドを入力することで、不具合を解消したり、初期的な設定を行うことができます。次のような現象の場合は、「追加設定」の欄にコマンドを入力してみてください。

「追加設定」は次の場所にあります。

- **WindowsMeの場合**
  「モデム」―［プロパティ］―「接続」タブ「詳細設定」―「追加設定」
- **Windows98/WindowsNT4.0の場合**
  「モデム」―［プロパティ］―「接続」タブの「追加設定」
- **Windows2000の場合**
  「電話とモデムのオプション」―「モデム」タブ―［プロパティ］―「詳細」タブの「追加設定」

現　象	ATコマンド
ダイヤル音やネゴシエーション音を消したい。	「ATM0」
ダイヤル音やネゴシエーション音を小さくしたい。	「ATL0」
「トーンが検出できません」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。	「ATX3」
モデムの設定を工場出荷時の状態にする。	「AT&F」
ダイヤル回線(パルスダイヤル)でダイヤルする。	「ATP」
プッシュ回線(トーンダイヤル)でダイヤルする。	「ATT」
「互換性のあるネットワークプロトコルを処理できない」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。	「AT+MS=34」（V.34）または「AT+MS=90」（V.90）使用したい通信方式に応じて設定。
接続が不安定(10回に3回しかつながらない/途中で切断されてしまう)	
パスワード認証のあと、「接続が確立できませんでした。」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。	

複数のコマンドを入力したいときは2番目以降のコマンドのATは付けずに連続して入力します。「例：ATM0X3」

FAXモデムカードを取り外すには

（FAXモデム機能搭載モデル）

本機には内蔵FAXモデムカードが搭載されています。内蔵FAXモデムカードを取り外したい場合は次の方法で取り外すことができます。

警告

- **電源コンセントに電源プラグを接続したままで分解しないでください。感電・火傷の原因となります。**
- **マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。**

注意

分解作業は本製品の内部が高温時には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。

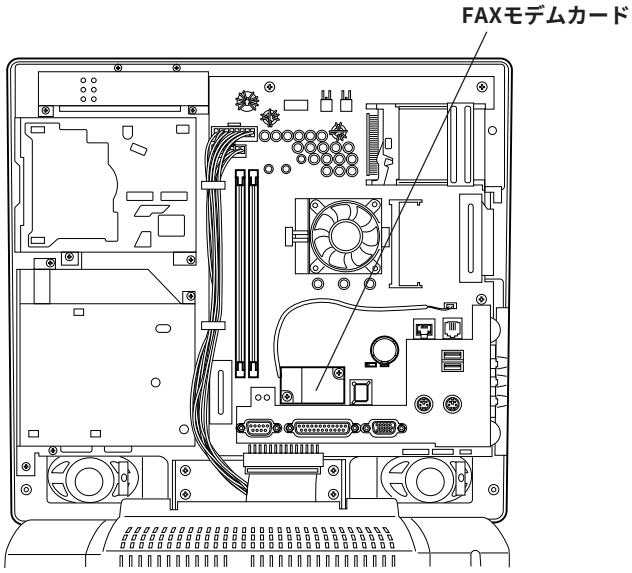
制限

本機は電源を切ってもコンピュータ内部に微少な電気が流れています。必ず電源コンセントから電源プラグを外してください。

1 **背面カバーを取り外します。このとき必ず電源コードも外します。**

☞ p.106「背面カバーの取り付け・取り外し」

2 **FAXモデムカードの位置を確認します。**

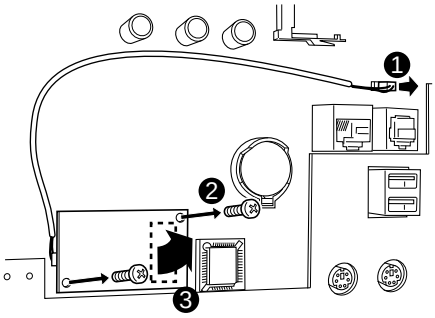


3 **FAXモデムカードを取り外します。**

❶ **モデムケーブルをコネクタから外します。**

❷ **ネジ(2本)を外します。**

❸ **カードを外します。カード右側がコネクタと接続されています。**



4 **背面カバーを取り付けます。**

☞ p.106「背面カバーの取り付け・取り外し」

5 **外したケーブル類をもとどおりに接続します。**

HDDを購入時の状態に戻す

本機は、HDDを購入時の状態に戻すことができます。何らかの原因でWindowsが起動しなくなったり、正常に動作しなくなった場合などにHDDを購入時の状態に戻してみてください。

必要なメディア

HDDを購入時の状態に戻すには、次のCD-ROMなどが必要です。

- **リカバリCD-ROM**
  Windowsと各種デバイスドライバが登録されているリカバリCD-ROMです。Windows2000はDisc1とDisc2の2枚組です。
- **マウスドライバCD**
  マウスドライバが登録されているCD-ROMです。
- **ユーティリティCD**
  「VirusScan for Windows」と「Adobe Acrobat Reader」が登録されているCD-ROMです。
- **使用するオプション類に必要な各種ドライバディスク**
  必要なドライバディスクは、お使いになるOSおよびシステム構成によって異なります。

HDDを購入時の状態に戻す順番

次の順番でHDDを購入時の状態に戻します。

リカバリの実行（☞ p.165）

↓

「リカバリCD-ROM」を使用して、HDDのフォーマット作業およびWindowsと一部のデバイスドライバのインストール作業を自動で行います。

Windowsのセットアップ

↓

購入時に行った「Windowsのセットアップ」をもう一度行います。お客様の情報を記録したり、お使いのシステム環境に合わせて設定を行います。

WindowsMeインストールモデル ☞ p.23
Windows98インストールモデル ☞ p.26
Windows2000インストールモデル ☞ p.30
WindowsNT4.0インストールモデル ☞ p.35

マウスドライバのインストール（☞p.166）

↓

「マウスドライバCD」を使用して、マウスドライバのインストールを行います。

FAXモデムドライバのインストール（☞p.167）

↓

FAXモデム機能搭載モデルでは「リカバリCD-ROM」を使用して、FAXモデムドライバのインストールを行います。

キーボードドライバのインストール（☞p.171）

↓

WindowsMe/Windows98インストールモデルでは、ホットキーを使用するためのキーボードドライバをインストールします。

セットアップ終了後の作業

↓

セットアップ終了後の各種設定などを行います。

WindowsMeインストールモデル ☞p.24
Windows98インストールモデル ☞p.28
Windows2000インストールモデル ☞p.32
WindowsNT4.0インストールモデル ☞p.40

各種ドライバのインストール（☞p.171）

↓

プリンタやUSB機器などを接続している場合は、デバイスドライバのインストールを行います。

STD領域の作成（☞p.172）

Windows98インストールモデルでSave to Diskモードを使用する場合に作成します。

HDDを購入時の状態に戻す場合の注意

HDDを購入時の状態に戻す場合は、必ず次の事項を確認してから作業を始めてください。

ドライブ名

本章の説明では、ドライブ構成がつぎのようになっているものとします。CD-ROMドライブのドライブ名は、HDD領域の数によって異なります。

Aドライブ　：FDD
Cドライブ　：HDD（基本MS-DOS領域）
Dドライブ　：CD-ROMドライブ

リカバリの実行

- リカバリを実行すると、HDDがフォーマットされ、Cドライブのデータはすべて消去されます。HDD上の重要なデータは、FDなどにバックアップしておいてください。
- 1つのHDDにCドライブのほかにDドライブ以降の領域を作成してある場合は、リカバリを実行する前にDドライブ以降の重要なデータもFDなどにバックアップしておいてください。リカバリ実行中にトラブルが発生した場合、Dドライブ以降の領域が消滅する可能性があります。
- リカバリを実行すると、「バックアップディスクの作成」はできなくなります。バックアップディスクをまだ作成していない場合は、リカバリ実行前に、バックアップディスクを作成してください。
- 「リカバリCD-ROM」は、本機以外のコンピュータでは使用できません。
- 「リカバリCD-ROM」で、Windowsのみをインストールすることはできません。
- リカバリ実行中は、「リカバリCD-ROM」を抜かないでください。
- 本章の手順は、購入時のシステム構成を前提に記載しています。本機購入後に周辺機器を取り付けた場合は、手順が異なる場合があります。正常にHDDを購入時の状態に戻せない場合は、購入時のシステム構成に戻してみてください。
- 本機の購入時のHDDは、次のファイルシステムを使用してWindowsをインストールしています。ファイルシステムを変更してもリカバリを実行すると同じファイルシステムでWindowsがインストールされます。

  WindowsMe　：FAT32ファイルシステム
  Windows98　：FAT32ファイルシステム
  Windows2000　：FAT32ファイルシステム
  WindowsNT4.0　：FAT16ファイルシステム

モデムと各種ドライバのインストール

- FAXモデム（FAXモデム機能搭載モデル）や、接続している周辺機器が次の場所で検出されます。「新しいハードウェアの追加ウィザード」が表示された場合は、**[キャンセル]**をクリックします。

  WindowsMe/Windows98/WindowsNT4.0
  　　：「リカバリの実行手順8」のあと
  Windows2000 ：「Windowsのセットアップ手順2」のあと

  これらのドライバのインストールは前ページの「HDDを購入時の状態に戻す順番」に従って行ってください。

- デバイスドライバのインストール時に「WindowsCD-ROM」を要求されることがあります。このような場合には、「リカバリCD-ROM」をセットせずに、次のフォルダ名を指定してください。

  WindowsMe　　：C:\WINDOWS\OPTIONS\CABS
  Windows98　　：C:\WINDOWS\OPTIONS\CABS
  Windows2000　　：C:\I386
  WindowsNT4.0　　：C:\I386

Windowsのセットアップ

「Windowsのセットアップ」の手順に記載されている作業のうち、次の作業は、再セットアップ時には表示されません。

WindowsMe　：「お知らせ」、「バックアップディスクの作成」
Windows98　：「日時と時刻の設定」、「お知らせ」、「バックアップディスクの作成」
WindowsNT4.0　：「WindowsNT4.0のアップデート」

セットアップ終了後の作業

「セットアップ終了後の作業」の次の作業は、必要に応じて行ってください。これらの作業は、購入後電源を初めて入れたときに行う「Windowsのセットアップ」後に一度行っているため、通常は必要ありません。

WindowsMe　：WindowsMe起動ディスクの作成
Windows98　：Windows98起動ディスクの作成
Windows2000　：セットアップブートディスクの作成
WindowsNT4.0　：HDD領域の作成

制限

弊社製以外のBIOSを使用すると、HDDを購入時の状態に戻すことができなくなります。

リカバリの実行

次の手順でHDDを購入時の状態に戻します。

1 **コンピュータの電源を入れて F2 を押し、「SCU」を起動します。**

p.113「SCUの操作」

2 **CD-ROMドライブの起動優先順位を1番に変更します。**

「Start up」－「Boot Device」－「1st Boot Device」を「CD-ROM Drive」に変更します

3 **「リカバリCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットします。**

Windows2000の場合は「リカバリCD-ROM Disc1」

4 **「Save & Exit Setup」で「Yes」を選択し、「SCU」を終了します。コンピュータが起動します。**

5 **「EasyRestore」画面が表示されたら、[続ける]をクリックします。**

6 **「警告」画面が表示されます。[はい]をクリックします。**

7 **ファイルのコピーが始まります。ファイルのコピーには、15分程かかります。**

Windows2000の場合は画面の指示に従って「リカバリCD-ROM Disc2」をセットします。

8 **「コンピュータの再起動」画面が表示されたら、CD-ROMドライブから「リカバリCD-ROM」を抜いて[再起動]をクリックします。**

9 **コンピュータの再起動時に「SCU」を起動してCD-ROMドライブの起動優先順位をもとに戻します。**

10 **コンピュータ再起動するとWindowsのセットアップが始まります。これでリカバリの実行は終了です。**

マウスドライバのインストール

マウスドライバのインストールは、次の手順で行います。

1 **「マウスドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。**
正しくセットされると自動的にセットアップ画面が表示されます。
もし自動的にセットアップ画面が表示されない場合は、[スタート]－「ファイル名を指定して実行」をクリックし、「名前」に「D:\SETUP」と入力し[OK]をクリックします。

2 **「インストール先の選択」画面で[次へ]をクリックします。**

3 **「プログラムフォルダの選択」画面で[次へ]をクリックします。**

4 **「セットアップの完了」画面で「はい、直ちにコンピュータを再起動します。」にチェックを付けて[完了]をクリックします。**

5 **Windowsが再起動すると「新しいホイールマウスがPS/2ポート上で検出されました。…」と表示されます。[はい]をクリックしてマウスの設定を行います。これでマウスドライバのインストールは終了です。**

FAXモデムドライバのインストール

WindowsMeの場合

WindowsMeインストールモデルのFAXモデムドライバのインストールは、次の手順で行います。

1 「リカバリCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットします。

2 ［スタート］－「設定」－「コントロールパネル」をクリックします。

3 「システム」アイコンをダブルクリックします。

4 「デバイスマネージャ」タブをクリックし、［更新］をクリックします。

5 「次の新しいハードウェアが見つかりました：PCI Card」と表示されたら、「ドライバの場所を指定する」にチェックを付けて［次へ］をクリックします。

6 「リムーバブルメディア」のチェックを外し、「検索場所の指定」にチェックを付けて「D:\MODEM\WINME」と入力して［次へ］をクリックします。

7 「デバイス用のドライバファイルの検索：AMR Modem Device」と表示されたら［次へ］をクリックします。

8 「新しいハードウェアのインストールが完了しました。」と表示されたら、［完了］をクリックします。

9 「システムのプロパティ」を閉じてから、Windowsを再起動します。
Windowsが再起動すると、FAXモデムドライバのインストールは終了です。

Windows98の場合

Windows98インストールモデルのFAXモデムドライバのインストールは次の手順で行います。

1 「リカバリCD-ROM」をCD- ROMドライブにセットします。

2 [スタート] ー「設定」ー「コントロールパネル」をクリックします。

3 「システム」アイコンをダブルクリックし、「デバイスマネージャ」タブをクリックします。

4 [更新]をクリックします。

5 「新しいドライバを検索しています：PCI Card」と表示されたら[次へ]をクリックします。

6 「次のデバイスの更新されたドライバを…」と表示されたら[次へ]をクリックします。

7 「使用中のデバイスに最適な…」にチェックを付けて[次へ]をクリックします。

8 「検索場所の指定」にチェックを付けて「D:\MODEM\WIN98」と入力し[次へ]をクリックします。

9 「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。：LP200 MDC Modem」と表示されます。[次へ]をクリックします。

10 「…インストールが完了しました。」と表示されたら[完了]をクリックします。

11 起動時に「mdmslamr.catが見つかりませんでした。…」と表示された場合は、「ファイルのコピー元」に「D:\MODEM\WIN98」と入力して、[OK]をクリックします。

12 「システムのプロパティ」を閉じてからWindowsを再起動します。
Windows が再起動するとFAXモデムドライバのインストールは終了です。

Windows 2000の場合

Windows2000インストールモデルのFAXモデムドライバのインストールは次の手順で行います。

1. 「リカバリCD-ROM Disc2」をCD- ROMドライブにセットします。
2. [スタート] ー「設定」ー「コントロールパネル」をクリックします。
3. 「システム」ー「ハードウェア」タブをクリックします。
4. [デバイスマネージャ]をクリックします。
5. 「その他のデバイス」の「PCI Device」をダブルクリックします。
6. 「ドライバ」タブの [ドライバの更新]をクリックします。
7. 「デバイスドライバのアップグレードウィザード」が始まります。[次へ]をクリックします。
8. 「デバイスに最適な…」にチェックを付けて [次へ]をクリックします。
9. 「場所を指定」にチェックを付けて、「CD-ROMドライブ」のチェックを外してから[次へ]をクリックします。
10. 製造元のファイルのコピー元に「D:\MODEM\WIN2000」と入力して[OK]をクリックします。
11. 「新しいハードウェアのドライバをインストールします。」と表示されたら[次へ]をクリックします。
12. 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」で [完了]をクリックします。
13. 「デバイスマネージャ」画面を閉じてWindows を再起動します。Windowsが再起動するとFAXモデムドライバのインストールは終了です。

WindowsNT4.0の場合

WindowsNT4.0インストールモデルのFAXモデムドライバのインストールは次の手順で行います。

1 「リカバリCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットします。

2 [スタート] ー「ファイルを指定して実行」をクリックします。

3 「ファイル名」に「D:\ MODEM\NT40\SETUP」と入力して、[OK] をクリックします。

4 「Welcome」画面で[Next] をクリックします。

5 「Ask Installation Options」画面で「COM3」にチェックをつけて[Next]をクリックします。

6 「Modem System Information」 画面で[Next]をクリックします。

7 「新しいモデムのインストール」画面で、「モデムを一覧から選択するので検出しない」にチェックを付けて[次へ]をクリックします。

8 一覧から次のモデムを選択して、[次へ]をクリックします。
製造元：CLEVO
モデル：LP200 MDC Modem

9 「ポートの選択」で「COM3」を選択して[次へ]をクリックします。

10 「モデムは正常にセットアップされました。」と表示されたら、[完了]をクリックします。

11 「モデムのプロパティ」画面を閉じます。

12 「Installation Complete」画面で「Yes, I want to restart ...」にチェックを付けて[Finish] をクリックします。Windowsが再起動するとFAXモデムドライバのインストールは終了です。

キーボードドライバのインストール（WindowsMe/Windows98）

Windows98/WindowsMeのホットキーを使用するための、キーボードドライバのインストールは次の手順で行います。

1 **「リカバリCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットします。**

2 **［スタート］－「ファイル名を指定して実行」をクリックします。**

3 **「名前」に「D:¥KEYBOARD\SETUP」と入力して［OK］をクリックします。**

4 **「ようこそ」画面で［次へ］をクリックします。**

5 **「ファイルコピーの開始」画面で［次へ］をクリックします。**

6 **「セットアップの完了」画面で「コンピュータを再起動します。」にチェックをつけて［完了］をクリックします。**
Windowsが再起動すると、キーボードドライバのインストールは終了です。

ホットキーの設定

p.53の「ホットキーの設定」を参照して、インターネットキー（ブラウザー）の設定を「WWW」から「Iexplore」に変更します。この設定を行わないと、インターネットキーで正常にインターネットエクスプローラを起動できません。
設定時に指定するファイルは「C:\PROGRAM FILES\INTERNET EXPLORER\IEXPLORE」です。

各種ドライバのインストール

お使いになるシステム構成によって、ドライバやユーティリティのインストールが必要です。本機でお使いになるオプション類のマニュアルをご覧になって、各ドライバのインストール作業を行ってください。

参考

インストールが必要なドライバの例

お客様がお使いになる仕様によって、次のようなドライバやユーティリティが必要になります。

- USB対応機器を装着する場合　：機器に添付のドライバ
- プリンタを装着する場合　：プリンタに添付のドライバ

STD領域の作成（Windows98のみ）

STD（Save to Disk）領域は、省電力モードの休止状態に入ったときに、作業中断時の状態を保存するためのHDD内の領域です。STD領域が確保されていないと、休止状態に入れません。

p.96「省電力機能」

本機では、STD領域をHDD内に「ファイル」として領域を確保します。ただし、このファイルは表示されません。

出荷時のHDDにはSTD領域は作成されていません。必要に応じて作成してください。

参考

次の場合には、STD領域の作成は必要ありません。

- 休止状態を使用しない場合
- WindowsMe/Windows2000/WindowsNT4.0を使用する場合

STD領域のサイズ

STD領域のサイズは、メインメモリの容量によって異なります。

STD領域に必要なサイズは次のとおりです。

STD領域容量＝内蔵メモリ容量＋20MB

メモリを増設した場合は、STD領域を1度削除し、作成し直す必要があります。

次の手順でSTD領域の作成と削除を行います。

STD領域の作成

1 **「リカバリCD-ROM」を使ってコンピュータを起動します。**

p.176「起動方法」

2 **コマンドプロンプトが「A:\」と表示されたら、コマンドプロンプトに次のように入力し[↵]を押します。（メモリを64MB搭載の場合）**

P:\0VMAKFIL□－F84　（0は数字、□はスペースを意味します。）

84はメモリが64MBの場合のSTD領域容量（内蔵メモリ容量＋20MB）です。

3 **「・・・Suspend-to-Disk is Enabled.」と表示されコマンドプロンプトが表示されます。これでSTD領域の作成は完了です。**

STD領域の削除

1 **「リカバリCD-ROM」を使ってコンピュータを起動します。**

p.176「起動方法」

2 **コマンドプロンプトが「A:\」と表示されたら、コマンドプロンプトに次のように入力し[↵]を押します。**

P:\0VMAKFIL□－R　（0は数字、□はスペースを意味します。）

3 **「・・・Suspend to Disk File/Partition has been removed.」と表示されコマンドプロンプトが表示されます。これでSTD領域の削除は完了です。**

作業終了後、忘れずに「SCU」でCD-ROMドライブの起動順位をもとに戻してください。

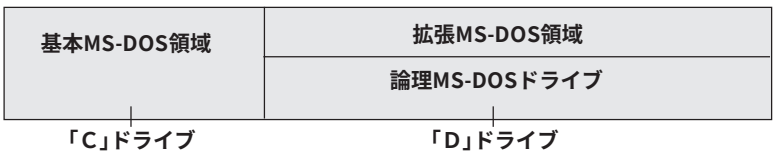
HDD領域の変更

MS-DOS領域の種類

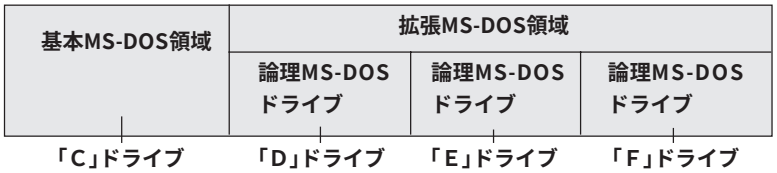
MS-DOS領域には、**「基本MS-DOS領域」**と**「拡張MS-DOS領域」**の2種類があります。Windowsの起動は基本MS-DOS領域からしか行えません。拡張MS-DOS領域は、HDD上に複数のドライブを作成する場合に必要になります。
Windowsを使用する場合には、これらの領域は**「C」**ドライブや**「D」**ドライブなどの論理ドライブ名で区別されます。これらの論理ドライブもMS-DOS領域の作成時に決められます。
基本MS-DOS領域は、必ず**「C」**ドライブです。基本MS-DOS領域にHDDの最大サイズを割り当てた場合は、基本MS-DOS領域のみが作成され、HDD上はすべて**「C」**ドライブとなります。（WindowsNT4.0の場合、Cドライブの最大サイズは、2GBです。）これに対して、**「C」「D」「E」**ドライブなどの複数のドライブをHDD上に作成したい場合は、使用できる最大サイズを割り当てずにHDDの領域を残しておき、この残った領域を拡張MS-DOS領域に割り当てます。拡張MS-DOS領域は、さらに論理MS-DOSドライブとして区分けされ、**「D」「E」**などの論理ドライブになります。
基本・拡張MS-DOS領域および論理MS-DOSドライブの関係をまとめると次のようになります。

基本MS-DOS領域のみを作成した場合

基本MS-DOS領域と拡張MS-DOS領域に1つの論理MS-DOSドライブを作成した場合



基本MS-DOS領域と拡張MS-DOS領域に複数の論理MS-DOSドライブを作成した場合



HDD領域の変更

HDD領域の変更は、MS-DOS領域のドライブ数や、各ドライブのサイズを変更したいときなどに行います。通常は、HDD領域の変更を行う必要はありません。

HDD領域の設定を変更するには、いったんHDD上の領域を削除してから、新たに領域を作成しなくてはなりません。
HDD領域の設定を変更する手順の概要は、次のとおりです。

制限

領域を削除すると、その領域上のデータは消失します。必要なデータは、あらかじめFDなどにバックアップを取ってから、次の作業を行ってください。

MS-DOS領域の削除

最初に既存の領域を削除します。HDD領域の削除は**「拡張MS-DOS領域内の論理ドライブ」→「拡張MS-DOS領域」→「基本MS-DOS領域」**の順番で行います。

MS-DOS領域の作成

使用環境に合わせてMS-DOS領域を作成します。HDD領域の作成は**「基本MS-DOS領域」→「拡張MS-DOS領域」→「拡張MS-DOS領域内の論理ドライブ」**の順番で行います。

MS-DOS領域のフォーマット

フォーマットはFORMATコマンドを使用します。

FDISKコマンド

HDD領域の設定を変更するには、FDISKコマンドを使用します。FDISKコマンドは、「リカバリCD-ROM」に登録されています。

大容量ディスクサポートとは

FDISKコマンドを起動すると「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか(Y/N)」と表示されます。「大容量ディスクのサポート」とは、大容量HDDを効率的に管理する方法で、FAT32ファイルシステムのことです。
大容量ディスクサポートを行わない場合(FAT16ファイルシステム)の基本MS-DOS領域の最大サイズは、2GBです。そのため2GBを超えるHDDに対しては複数のドライブ作成が必要です。FAT32ファイルシステムでは、2GBを超えたHDDでも1つのHDD領域で使用できます。

本機購入時のHDDは、次のファイルシステムを使用してWindowsがインストールされています。ファイルシステムを変更してもリカバリを実行するともとのファイルシステムに設定されます。

WindowsMe	FAT32ファイルシステム
Windows98	FAT32ファイルシステム
Windows2000	FAT32ファイルシステム
WindowsNT4.0	FAT16ファイルシステム

既存領域の削除

起動方法

次の方法でWindowsを起動し、コマンドプロンプトを表示させます。

1 **コンピュータの電源を入れて、「SCU」を実行します。**

p.113「SCUの操作」

2 **CD-ROMドライブから起動させるため、CD-ROMドライブの起動優先順位を変更します。**

SCUの「Start up」－「Boot Device」－「1st Boot Device」を「CD-ROM Drive」に変更します。

3 **「リカバリCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットします。**

4 **「Save & Exit Setup」で[Yes]を選択し「SCU」を終了します。**

5 **コンピュータが再起動して「EasyRestore」画面が表示されたら、[キャンセル]をクリックします。**

6 **画面左上にコマンドプロンプト(A:\>)が表示されます。**

作業終了後、忘れずに「SCU」でCD-ROMドライブの起動順位をもとに戻してください。

既存領域の削除

1 **コマンドプロンプト(A:\>)が表示されたら、次のとおり入力して [↵] を押します。**

FDISK

2 **「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか(Y / N)」と表示されます。[N] または [Y] を押して [↵] を押します。**

通常は、「Y」を選択します。ただし、WindowsNT4.0をインストールする領域を作成する場合は、「N」を選択します。

3 **処理メニューから「3. 領域または論理MS-DOSドライブを削除」を選択します。[3] を押してから [↵] を押します。**

4 **「MS-DOS 領域または拡張MS-DOSドライブを削除」画面で、削除する領域を指定します。**

基本MS-DOS 領域は、拡張MS-DOS領域があると削除できません。**「拡張MS-DOS領域内の論理ドライブ」→「拡張MS-DOS 領域」→「基本MS-DOS 領域」**の順番で削除することができます。

ここでは基本MS-DOS 領域を削除する手順を説明します。(基本MS-DOS 領域以外の削除については画面のメッセージに従ってください。)

[1] を押してから [↵] を押します。

5 **削除する領域の確認メッセージが表示されます。「1」と表示されていることを確認して [↵] を押します。**

6 **削除する領域のボリュームラベルを入力し、[↵] を押します。**

Windows98インストールモデルの初期設定は、次のとおりです。

WINDOWS_98 (　_は [Shift] + [ろ] を押します。)

そのほかのインストールモデルには、ボリュームラベルは設定されていません。そのまま [↵] を押します。

7 **確認メッセージが表示されたら、[Y] を押して [↵] を押します。**

基本MS-DOS領域が削除されます。

8 **[Esc] を押して「FDISKオプション」画面に戻ります。**

領域を作成する場合は、「MS-DOS領域の作成(p. 178)手順4に移ります。

付録

9 **FDISKを終了する場合は、Esc を押します。**

10 **コマンドプロンプト(A:\>)が表示されます。**
これでMS-DOS領域の削除は終了です。

MS-DOS領域の作成

基本MS-DOS領域の作成

1 **「リカバリCD-ROM」を使ってコンピュータを起動します。**
p.176「起動方法」

2 **コマンドプロンプト(A:\>)が表示されたら、次のとおり入力して ↵ を押します。**
FDISK

3 **「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか?」と表示されます。N または Y を押して ↵ を押します。**
通常は、「Y」を選択します。ただしWindowsNT4.0をインストールする領域を作成する場合は、「N」を選択します。

4 **処理メニューから「1.MS-DOS 領域または論理MS-DOSドライブを作成」を選択します。1 を押してから ↵ を押します。**

5 **「MS-DOS 領域または論理MS-DOSドライブを作成」画面で、「1. 基本MS-DOS領域を作成」を選択します。1 を押してから ↵ を押します。**

6 **「基本 MS-DOS 領域に使用できる最大サイズを・・・」とメッセージが表示されます。**
最大サイズは、大容量ディスクサポートを行った場合は全容量、行っていない場合は2GBです。

7 **[Y]を入力した場合と[N]を入力した場合で次のように作業が異なります。**

- [Y]を入力して[↵]を押した場合

  基本MS-DOS領域が最大サイズで作成され、アクティブに設定されます。FDISKを終了させてから[Ctrl]+[Alt]+[Delete]を押して、コンピュータを再起動します。

  大容量ディスクサポートを行った場合は、再起動後にフォーマットを行います。ただし、作成した領域にWindowsをインストールする場合は、フォーマットを行う必要がありません。Windowsのインストールを行ってください。

  p.165「リカバリの実行」

  大容量ディスクサポートを行っていない場合に、拡張MS-DOS領域を作成するには、再起動後に手順12に進みます。

- [N]を入力して[↵]を押した場合

  [N]を押すと**「領域のサイズを･･･入力してください。」**とメッセージが表示されます。割り当てるサイズを入力し、手順8に進みます。

8 **基本 MS-DOS 領域が作成されます。[Esc]を押して、「FDISKオプション」画面を表示させます。**

9 **処理メニューから「2. アクティブな領域を設定」を選択します。[2]を押してから[↵]を押します。**

10 **「アクティブにしたい･･･」とメッセージが表示されます。[1]を押してから[↵]を押します。**

11 **「領域1がアクティブになりました」とメッセージが表示されます。[Esc]を押して、「FDISKオプション」画面を表示させます。**

拡張MS-DOS領域と論理MS-DOSドライブの作成

12 再び、処理メニューから「1. MS-DOS領域または論理MS-DOSドライブを作成」を選択します。[1]を押してから[↵]を押します。

13 「2. 拡張 MS-DOS領域を作成」を選択します。[2]を押してから[↵]を押します。

14 「領域のサイズを・・・入力してください。」とメッセージが表示されます。MS-DOS以外のOSをインストールするような場合を除いて、ここではそのまま[↵]を押してください。

15 拡張 MS-DOS 領域が作成されます。[Esc]を押すと、論理ドライブの定義画面が表示されます。

16 「論理ドライブのサイズを・・・入力してください。」とメッセージが表示されます。論理ドライブを複数(基本 MS-DOS 領域と合わせて3つ以上)設定する場合は、ここですべてを割り当てないようにします。使い方に合わせてサイズを入力し、[↵]を押します。

17 すべての拡張 MS-DOS 領域に論理ドライブを割り当てたら、[Esc]を数回押して、FDISKを終了します。

18 コマンドプロンプト(A:\>)が表示されます。

これでMS-DOS領域の作成は終了です。Windowsをインストールする領域(Cドライブ)以外の領域は、再起動後にフォーマットを行ってください。

p.181「MS-DOS領域のフォーマット」

MS-DOS領域のフォーマット

HDD領域の変更をした場合は、各領域のフォーマットが必要です。フォーマットの手順は、次のとおりです。

1 **「リカバリCD-ROM」を使って、コンピュータを起動します。**

p.176「起動方法」

2 **コマンドプロンプト(A:\>)が表示されたら、次のとおり入力して [↵] を押します。(Dドライブをフォーマットする場合)**

FORMAT□D:（□はスペースを意味します。）

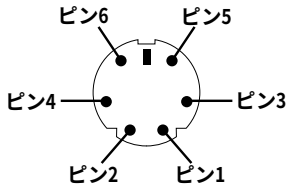
3 **「フォーマットしますか(Y/N)?」と確認のメッセージが表示されたら、[Y] を押して [↵] を押します。フォーマットが開始されます。**

4 **フォーマットが終了すると、「ボリュームラベルを入力してください。」と表示されます。ボリュームラベルを入力して [↵] を押します。**

必要のない場合は、そのまま [↵] を押します。コマンドプロンプト(A:\>)に戻り、フォーマットの処理が終了します。

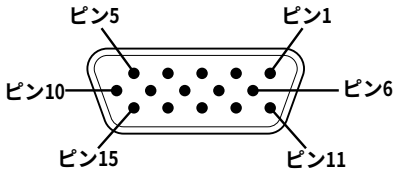
コネクタ仕様

キーボード・マウスコネクタ



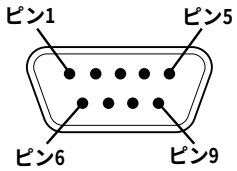
ピン番号	信号	意味
1	DATA	データ信号
2	Reserved	システム予約
3	GND	接地
4	+5V	電源
5	CLK	クロック
6	Reserved	システム予約

VGA コネクタ



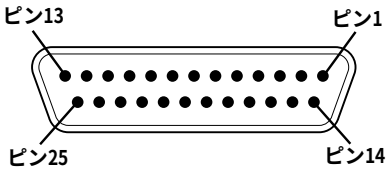
ピン番号	信号	意味
1	Red Video	赤映像信号
2	Green Video	緑映像信号
3	Blue Video	青映像信号
4	NC	未使用
5	GND	接地
6	Red GND	接地（赤）
7	Green GND	接地（緑）
8	Blue GND	接地（青）
9	NC	未使用
10	GND	接地
11	NC	未使用
12	DDCSDA	DDC データ
13	HSYNC	水平同期信号
14	VSYNC	垂直同期信号
15	DDCSCL	DDC クロック

シリアルコネクタ



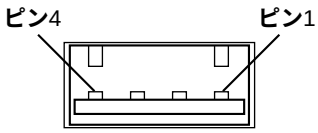
ピン番号	信号	意味
1	DCD	キャリア検出
2	RXD	受信データ
3	TXD	送信データ
4	DTR	データ端末レディ
5	GND	各信号線の接地
6	DSR	データセットレディ
7	RTS	送信要求
8	CTS	送信可
9	RI	被呼表示

パラレルコネクタ



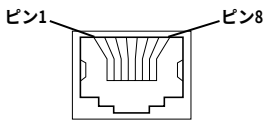
ピン番号	信号	意味
1	$\overline{\text{STROBE}}$	D0 ～ D7 有効信号
2	D0	Data Bit0（印字データ）
3	D1	Data Bit1
4	D2	Data Bit2
5	D3	Data Bit3
6	D4	Data Bit4
7	D5	Data Bit5
8	D6	Data Bit6
9	D7	Data Bit7
10	$\overline{\text{ACK}}$	データ受信
11	BUSY	データ受信不可
12	PE	用紙切れ
13	SLCT	プリンタセレクト
14	$\overline{\text{AUTFD}}$	オートフィードモード
15	$\overline{\text{ERROR}}$	エラー
16	$\overline{\text{INIT}}$	初期化
17	$\overline{\text{SLCTIN}}$(DIR)	プリンタセレクトイン（データ方向）
18 ～ 25	GND	接地

USB コネクタ



ピン番号	信号	意味
1	VCC	電源
2	－ Data	信号
3	＋ Data	信号
4	Ground	グランド

LAN コネクタ（100BASE-TX/10BASE-T）



ピン番号	信号	意味
1	TD ＋	送信データ＋
2	TD －	送信データ－
3	RD ＋	受信データ＋
4	NC	未接続
5	NC	未接続
6	RD －	受信データ－
7	NC	未接続
8	NC	未接続

機能仕様一覧

機能仕様一覧

CPU		Intel Pentium IIIプロセッサ	Intel Celeronプロセッサ
	キャッシュメモリ	32KB内蔵(命令16KB+データ16KB)	32KB内蔵(命令16KB+データ16KB)
	セカンドキャッシュ	256KB	128KB
メモリ	ROM	BIOSその他(256KB FLASH ROM使用)	
	メインメモリ	最大512MBまで増設可能(DIMMスロット×2) (うち8、16、32MBのいずれかの容量をビデオメモリとして使用)	
	ビデオメモリ	8、16、32MBのいずれかに設定(メインメモリの一部を使用)	
ビデオ	コントローラ	SiS 630	
	バス	AGPバス	
画面表示	液晶タイプ	15型TFT XGAカラー液晶　1024×768ドット、True Color*	
	外部ディスプレイ接続	1280×1024ドット、True Color(32ビット色)	
サウンド	コントローラ	Sound Blaster互換	
	バス	PCIバス	
記憶装置	FDD	3モード対応3.5型FDD1基内蔵	
	HDD	IDE HDD1基内蔵	
	スリムドライブ	24倍速CD-ROMドライブ1基内蔵	
インタフェース	パラレルインタフェース	1(セントロニクス社準拠　D-SUB　25ピン　マルチモード双方向ECP/EPPサポート)	
	シリアルインタフェース	1(RS-232C準拠　D-SUB　9ピン)	
	VGAインタフェース	1(アナログRGB　D-SUB　15ピン)	
	キーボードインタフェース	1(IBM PS/2互換　ミニDIN　6ピン)	
	マウスインタフェース	1(IBM PS/2互換　ミニDIN　6ピン)	
	サウンドインタフェース	ステレオスピーカ内蔵(3W+3W) ライン入力コネクタ×1、ヘッドフォン出力コネクタ×1、マイク入力コネクタ×1	
	IrDA	IrDA1.1準拠　FIR(4Mbps)、SIR(115.2Kbps)対応	
	USBインタフェース	4	
	FAXモデムインタフェース	FAXモデム**(RJ-11、V.90対応)(FAXモデム機能内蔵モデル)	
	ネットワークインタフェース	ネットワーク(RJ-45 10Base-T/100Base-TX自動確認)	
PCカードスロット		2スロット内蔵　TypeII ×2または TypeIII ×1 (PC Card Standard準拠CardBus対応)	
カレンダ時計		内蔵(内蔵電池によりバックアップ)	
電源容量		130 W	
入力電圧		入力AC100V±10V, 50/60Hz	
温湿度条件		温度:10～35℃ 湿度:20～80%(ただし、結露しないこと)	
外形寸法		本体:約369(幅)× 175(奥行)× 384(高さ)mm(突起部除く)	
重量		本体:約7.9Kg	
消費電力		待機時消費電力30W(最大80W)	

*　グラフィックアクセラレータのディザリング機能により1600万色実現しています。

**　認定番号ラベルはコンピュータの背面に貼付されています。

キーボード	日本語対応104キー
マウス	ホイール付きPS/2マウス

用語集

本書で使用している用語やコンピュータに関する基本的な用語を簡単に解説します。詳細については、市販の書籍などを利用してください。

● **ACPI**
Advanced Configuration and Power Interfaceの略。コンピュータの電力の状態を、Windowsのアプリケーションからコントロールするための電源管理機能の規格です。

● **AGP**
CPUとビデオチップを接続するための拡張ポート。PCIバスのデータ転送方法を最大限に残し、ビデオ関係の性能を強化しています。

● **BIOS(バイオス)**
Basic Input Output Systemの略。コンピュータの基本的な入出力を行うプログラムを集めたものです。コンピュータ内部にROMで提供されています。
類義語 CMOS RAM

● **SCU(システム環境設定ユーティリティ)**
コンピュータの動作状態やBIOSの動作を設定したり変更するためのプログラム。BIOSとセットでROMで提供されています。SCUで設定した値はCMOS RAMに保存されます。

● **CPU**
Central Processing Unitの略。コンピュータの処理の中心を担う頭脳のようなものです。

● **DIMM**
Dual Inline Memory Moduleの略。メインボードの所定のソケットに差し込むことで、コンピュータのメモリを拡張できます。

● **DRAM(ディーラム)**
メモリの種類。Dynamic Random Access Memoryの略。コンピュータで最も一般的に使用されるメモリです。
メインメモリには、DRAMが使用されます。コンピュータの電源を切ると、DRAMのデータは消失します。

● **FAT16ファイルシステム**
Windowsがデータの読み書きに利用しているファイルの配置情報(File Allocation Table)を16ビットに拡張したファイルシステム。FAT16ファイルシステムでは、基本MS-DOS領域の最大サイズは、2GBで、その容量を超えるHDDに対しては、複数のドライブの作成が必要です。

● **FAT32ファイルシステム**
Windowsがデータの読み書きに利用しているファイルの配置情報(File Allocation Table)を32ビットに拡張したファイルシステム。2GB以上のディスク容量を1つのドライブとして使用することができます(FAT16では2GBまで)。

● **I/Oポート(Input/Outputポート)**
CPUとデバイスの間でデータをやりとりするポートです。

● **IDE**

Integrated Device Electronicsの略。コンピュータ本体とHDDのデータの入出力方法(インタフェース)を定めた規格の一種。HDDだけでなく、CD-ROMドライブなどもIDEで接続するのが一般的です。

使用例 IDEインタフェースのHDD(IDE HDD)

● **IRQ**

Interrupt Requestの略。周辺装置からCPUに対して処理を依頼するための信号。DOS/V機では16本あり、コンピュータ内部や、拡張カードなどで使用されます。

● **IRQ番号**

コンピュータには、ハードウェア割り込みを発生させる周辺機器が複数あるので、各機器からの割り込みを区別するために、識別番号が付いています。IRQ番号は、この識別番号のことです。IRQ0～IRQ15の16種類が用意されています。

使用例 サウンドカードではIRQ7を使用します。

● **ISDN**

NTTが提供する高速デジタル回線のことです。普通の電話回線よりもデータを高速で送信できるので、コンピュータ間のデータ送受信などに多く使用されています。また、ISDNを導入することにより、一本で二回線分を使用することができます。

● **MIDI**

演奏データをやり取りするためのインタフェース、または規格のことです。現在では、多くの電子楽器がMIDI規格の端子を装備しています。

● **OS**

Operating Systemの略。コンピュータ全体を管理するソフトウェアのことです。WindowsやMS-DOSなどのことです。

● **PCIバス**

拡張バスの一種。一般的に採用されている拡張バス。ISA拡張バスに比べて高速、プラグアンドプレイに対応など多くのメリットがあります。高速性を要求される拡張カードに使用されます。

● **RAM(Random Access Memory)**

RAMには、DRAMとSRAMの2種類のデータ保存方式があります。どちらも自由に読み書きができるメモリですが、一度電源を切るとデータは消えてしまいます。主に、DRAMはメインメモリに、SRAMはキャッシュメモリに使われています。

● **ROM(Read Only Memory)**

読み出し専用のメモリで、電源を切ってもデータを保持しつづけます。BIOSなど重要なデータは、あらかじめROMに格納されています。

● **RS-232C**

シリアルインタフェースとして採用されている規格のことです。外付けモデムやTA(ターミナルアダプタ)などの周辺機器とコンピュータとの間で、データをやり取りするときに用いられています。

● **SDRAM**

外部バスインタフェースが、一定周期のクロック信号に同期して動作するように改良されたDRAMです。

● **USB**

Universal Serial Busの略。比較的低速な装置をシリアル通信で接続するための規格のことです。キーボードやマウス、プリンタなどUSB対応品が増えています。

● **Ultra ATA/66**

IDEインタフェース上において66MB/sでデータを転送できるデータ入出力方法のことです。

使用例 Ultra ATA/66対応ケーブル

● **VGA**

640×480ドット16色を表示するビデオ表示機能。DOS/V機の基本的な表示機能です。Windowsなどで高解像度表示が可能なコンピュータでも起動時には必ずこのモードで表示されます。

● **アカウント**

ネットワーク上で利用者を識別するための名前(記号や番号)のことです。

● **アクセス**

データの読み書きなど、入出力動作一般のことです。

使用例 HDDにアクセスする。=HDDのデータを読み書きします。

● **アクセスポイント**

インターネットに接続するために、プロバイダが用意している電話番号のことです。

● **アクセスランプ**

HDDやFDDにアクセスしていることを示すランプのことです。

使用例 HDDアクセスランプ

● **アップロード**

手元のコンピュータにあるデータを、通信回線を利用して、遠隔地のコンピュータに転送することです。

● **アドレス**

メモリやI/Oポートに付けられた番地(場所)のことです。一般的に16進数で示されます。

使用例 メモリアドレス、I/Oポートアドレス

● **アプリケーションソフト**

プログラムのなかで、ワードプロセッサや表計算など目的のはっきりしたソフトウェアのことです。

● **インストール**

ソフトウェアをコンピュータで実行できるようにHDDなどへコピーすることを言います。ソフトウェアごとに専用のインストールプログラムが付いているのが普通です。ソフトウェアを「組み込む」とも言います。

使用例 サウンドドライバをインストールします。

● **インタフェース**

コンピュータと周辺装置の間でデータを入出力するための回路や手順などを定めた規格のことです。

使用例 IDEインタフェース、インタフェースコネクタ、インタフェースケーブル

● **オフライン**

コンピュータがネットワークとつながっていない状態のことです。オンラインの反対語として用いられています。

● **オンライン**

他のコンピュータとつながっている状態や、電話回線でインターネットに接続している状態などのことです。オンライン・ショッピングなどの表現で、幅広く用いられています。

● **解像度**

画面表示の細かさのことです。

使用例 1024×768ドットの解像度で表示します。

● **外部キャッシュメモリ**

CPUとメインメモリ間のデータ転送を高速化し、コンピュータの処理速度を向上させるメモリです。

類義語 キャッシュRAM、L2キャッシュ、2次キャッシュ

● **カーソル**

文字やデータなどが入力される場所を示す画面上の印です。

使用例 マウスカーソル

● **起動する**

コンピュータの電源スイッチを入れて、コンピュータを使用できる状態にすることを「起動する」と言います。

類義語 立ち上げる。

● **キャッシュ処理、キャッシュ機能**

一度読み込んだデータを保持し、コンピュータの処理速度を上げるための機能です。

使用例 メモリキャッシュ、ディスクキャッシュ

● **コマンド**

コンピュータに与える命令です。
命令は、文字を入力したり、マウスによってアイコンをダブルクリックしたりして行います。

使用例 次のコマンドを入力してください。

● **サーバ**

ネットワークで結ばれたコンピュータに、さまざまなサービスを提供するコンピュータのことです。一般に、サーバと結ばれたコンピュータのことを「クライアント」と呼びます。

● **システム**

コンピュータ(ハードウェア)、OS、アプリケーションソフト(ソフトウェア)など全体のことを示します。

使用例 システムを起動する。=コンピュータの電源スイッチを入れて、OSを立ち上げてコンピュータを使用できる状態にすることです。

● **ターミナルアダプタ(TA)**

コンピュータ、モデム、電話機やFAXなど、本来ISDN対応機能を持たない通信機器をISDN回線に接続するためのアダプタのことです。

● **ダイヤルアップ接続**

モデムを用い、電話回線を通じて離れた場所にある別のコンピュータに接続することです。主に、インターネットを利用するためにプロバイダに接続することを言います。

● **ダウンロード**

遠隔地のコンピュータのデータなどを、通信回線を利用して、手元のコンピュータに転送することです。

● **ディスプレイ**

表示装置のことです。

類義語 CRTディスプレイ、モニタ

● **ドット**

表示画面のひとつひとつの点の単位です。

使用例 1024×768ドットの解像度=画面上に1024×768個の点を表示することができます。

● **内部キャッシュ**

CPUから周辺チップへアクセスを減らし、高速処理をするためにCPU内部に設けられたキャッシュメモリ。演算用のデータなどを格納しておき、CPU内部で高速処理を行えるようにします。

● **バス**

コンピュータ内部でデータの入出力を行う電気的な通り道およびデータの集合のことです。拡張スロットのコネクタ部を指すこともあります。

使用例 PCIバス、AGPバス

● **パラメータ**

コマンドや項目に対して付加する数値や、文字列などです。

使用例 パラメータを設定します。

● **ハングアップ**

コンピュータが暴走し、コマンドを受け付けない状態になることです。

● **ヒートシンク**

放熱板など動作中に発熱する素子を冷やす装置のこと。CPUの発熱量は大きいため熱暴走しないようにヒートシンクがCPU上部に付いています。ヒートシンクには、板状のもの(自然空冷)や放熱ファンを回す(強制空冷)ものがあります。

● **ファイル**

コンピュータで扱うすべてのプログラムやデータの総称です。

使用例 ファイルをコピーする。データファイルを作成する。

● **物理ドライブ**

HDD1台や、CD-ROMドライブ1台など、物理的なドライブ装置のことです。

● **ブラウザ**

インターネットに接続したときに、ホームページを見るためのソフトウェアで、米ネットエスケープ・コミュニケーションズ社の「NetScape」や、米マイクロソフト社の「Internet　Explorer」などがあります。これらのソフトウェアでホームページをみることを「ブラウジング」といいます。

● **プラグアンドプレイ**

取り付ける(Plug)だけで動作する(Play)ことです。PnP、Plug and Playなどとも記載されます。

拡張カードや周辺装置などをコンピュータに取り付けるだけで、自動的に検出して使用できる状態にする機能です。

この機能により、従来拡張カード上で設定していたI/Oポート、IRQ、DMAの設定などが不要になります。

● **プログラム**

コンピュータで処理を行うための命令の集まりのことです。

類義語 ソフトウェア、アプリケーションソフト

● **プロトコル**

ネットワークで接続されたコンピュータ同士が、通信を行うための「手段」や「規格」のことです。一般的に使用されるネットワークプロトコルは、TCP/IP、NetBEUI、AppleTalkなどです。

● **ポート**

コネクタまたは、そのコネクタに対するインタフェース回路全般のことです。

● **メッセージ**

コンピュータが入力されたコマンドに対して出力する回答のことです。「処理が正しく実行された」「このエラーが発生した」など種類はさまざまです。

● **メインメモリ**

メモリのなかで、最初にプログラムやデータなどが読み込まれるメモリのことです。コンピュータのメモリ容量といえば、メインメモリの容量のことを示します。

使用例 メインメモリは128MBです。

● **メモリ**

実行するプログラムや、データを一時的に保存する素子のことです。コンピュータはHDDなどからプログラムやデータをメモリに読み込みながら実行します。一般的にメモリ容量が多ければより高速にコンピュータを利用することができます。

● **メモリチェック**

コンピュータ起動時に装着されているメモリに異常がないか検査する動作のことです。

● **モデム**

電話回線を通じてデータを送受信するための周辺機器です。ほとんどの製品はFAX機能が付加されています。

● **リソース**

拡張カードや周辺機器で使用するIRQ、DMA、I/Oポートアドレスなどをまとめて表現する用語です。

類義語 システム資源

● **ログオン**

コンピュータシステムにアクセス可能な状態になることです。ログオン時には、ユーザーアカウントとパスワードの入力が求められます。「ログオン」とは逆に、コンピュータシステムの利用を終えて、接続を切り離すことを「ログオフ」と言います。

類義語 ログイン/ログアウト

● **論理ドライブ**

OSによって管理される論理的な区分けです。HDDには、1台の物理ドライブ上に複数の論理ドライブを作成することができます。

索引

英数字

1.25MBフォーマットFD 57
2HD(FDD) 54
2DD(FDD) 54
3モードFDD 57
3.5型フロッピーディスクドライブ 10, 54

A

Adobe Acrobat Reader 5
ATコマンド 157

B

Boot Password 117
BIOS（SCU） 117

C

CapsLock 50
CardBus 63
CD-ROM 60
CD-ROMイジェクトホール 10
CD-ROMイジェクトボタン 10
CD-ROMドライブ 10, 60
　～の不具合 138
CD-ROMドライブのアクセスランプ 8, 10
CMOS RAM初期化 155
COAラベル 2
CRTディスプレイ 71

D

DIMM（メモリ） 104
　～の不具合 140

F

FAT16 176
FAT32 176
FAXモデム 80
　～カードの取り外し方 158
　～ドライバのインストール 167
　～の不具合 142
　ATコマンド 157
　インターネットに接続する 82
FD（フロッピーディスク） 54
FDD（フロッピーディスクドライブ） 10, 5
　～の不具合 136
FDDアクセスランプ 8, 10
FDDイジェクトボタン 10
FDISKコマンド 175
FIR 67
FORMATコマンド 181

H

HDD（ハードディスクドライブ） 58
　～購入時の状態に戻す 160
　～の不具合 137
　～領域の変更 174
HDDアクセスランプ 8

I

ISDN 83
Internet Explorer 92

L

LAN 101
LCD画面 70
　～のお手入れ 150
　～の不具合 133
LCDユニット 8

M

MS-DOS領域 174
MS-DOS領域のフォーマット 181
MS-IME 50

N

NumLock 50

O

Outlook Express 94

P

Passwordの設定 117
PBX 80
PCカード 63
　～の不具合 140
PCカードスロット 11
PCカードイジェクトボタン 11

S

Safeモード 134
Scroll Lock 50
SCU 112
　～の設定項目 120
SCU Password 117
Service Pack6aのインストール 39
SIR 67
STD領域 97
　～の作成 172

U

URL 93
USB 102
USBコネクタ 9, 10

V

VGAコネクタ 9
VGAモード 134
Virus Scan for Windows 102

W

WindowsMe
　～のセットアップ 23
　～起動ディスクの作成 25
Windows98
　～のセットアップ 26
　～起動ディスクの作成 29
WindowsNT4.0
　～Service Pack6aのインストール 39
　～のセットアップ 35
　～ネットワークドライバのインストール ... 38
Windows2000
　～セットアップ 30
　セットアップブートディスクの作成 33

X

XGA 70

50音順

あ

アイコン ..... (8)
アウトルックエクスプレス 94

い

インストール
　FAXモデムドライバ 167
　ServicePack6 39
　キーボードドライバ 171
　ダイヤルアップネットワーク 85
　ネットワークドライバ 38
　マウスドライバ 166
インターネットに接続 82
インターネットエクスプローラ 92

う

ウィルス 102

お

お気に入り（ホームページ） 93
お手入れ 150
お問い合わせ情報 2

か

解像度の変更 74
拡張MS-DOS領域 174

き

キーボード 49
　～コネクタ 9
　～の接続 14
　～ドライバのインストール 171
　～不具合 131
キーロック表示ランプ 49
起動方法 176
輝度調節ダイヤル 11
基本MS-DOS領域のフォーマット 181
機能キー 49
機能仕様一覧 184
休止状態 97
強制取り出し（CD-ROMドライブ） 62

く

クリック 48

け

警告メッセージ 145
ケンジントンロック 10

こ

コネクタ仕様 182
コンピュータウィルス 102

さ

サウンド機能 78

し

自己診断テスト 145
システム環境ユーティリティ（SCU） 112
システムの拡張 103
シリアルコネクタ 9, 101
仕様 184
省電力機能 96
　～の不具合 130
シングルモード 172

す

数値キー 49
スクロール 48
スタンバイ 96
スピーカ 8
　～の不具合 141
スリムドライブ 10

せ

赤外線通信 67
　IrDA 67
赤外線通信ポート 8
セットアップ
　Windows2000インストールモデル 30
　Windows98インストールモデル 26
　WindowsMeインストールモデル 23
　WindowsNT4.0インストールモデル 35
セットアップブートディスクの作成 33

た

ダイヤルアップ接続 88
ダイヤルアップネットワークのインストール ... 85
大容量ディスクサポート 176

タスクバー ..... (8)
タブ ..... (8)
ダブルクリック 48

つ

通信モード 67

て

ディスプレイ 70
　～の接続（CRT） 71
　～の不具合（LCD） 133
デスクトップ ..... (8)
電源コードの接続 16
電源コネクタ 10
電源スイッチ 8
電源の入れ方 19
電源の切り方 43
電源ユニット 8
電源ランプ表示 98
添付ソフトウェア 5
電話回線 80
　～への接続 16

と

ドラッグアンドドロップ 48

な

内蔵ステレオスピーカ 8

に

日本語入力プログラム 50
入力キー 49

ね

ネットワーク 101
　～の接続 15
ネットワークコネクタ 9

は

背面カバーの取り付け・取り外し 106
ハードディスクドライブ（HDD） 58
　～のフォーマット 181
　～の領域の変更 174
　～の不具合 137
パスワード 117
　～の初期化 155
　Boot Password 117
　SCU Password 117
バックアップ
　～ディスクの作成 41
　FD 56
　HDD 58
パラレルコネクタ 9, 101
パワーマネージメント 96
ハングアップ 46

ひ

表示色の変更 74
表示装置 70

ふ

フォーマット（FD） 55
フォーマット（HDD） 181
プリンタの不具合 141
フロッピーディスクドライブ（FDD） 10, 54
フロッピーディスク（FD） 54
プロバイダ 82

へ

ヘッドフォン出力コネクタ 79

ほ

ボタン ..... (8)
ホットキー 52
　～ドライバのインストール 171
ボリューム 20

ま

マイク入力コネクタ 79
マウス 48
　～コネクタ 9
　～ドライバのインストール 166
　～のお手入れ 150
　～の接続 14
　～の不具合 132
マニュアルディスク 5
マルチモニタモード 72

み

ミラーモード 72

め

メールアカウントの設定 89
メールの送受信 95
メモリ（DIMM） 104
　～の不具合 140

も

モデム 80

ゆ

ユーティリティCD 5

ら

ライトプロテクト（FD） 57
ライン入力コネクタ 79

り

リカバリCD-ROM 5
リカバリの実行 165
リセット 46
リチウム電池の交換 152

れ

レジューム 100

ろ

論理MS-DOSドライブ 174

わ

ワイヤレスリンク 69

ご注意

(1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
(2) 本書の内容および製品の仕様について、将来予告なしに変更することがあります。
(3) 本書の内容は万全を期して作成いたしましたが、万一誤り・お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
(4) 運用した結果の影響につきましては、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

使用限定について

本製品は、OA機器として使用されることを目的に開発・製造されたものです。
本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全性維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮頂いた上で本製品をご使用ください。
本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命維持に関わる医療機器などの極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途にはご使用にならないでください。

本製品を日本国外へ持ち出す場合のご注意

本製品は日本国内でご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本製品の修理・保守サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではお受けできませんのでご了承ください。また、日本国外ではその国の法律または規制により、本製品を使用できないこともあります。このような国では、本製品を運用した結果罰せられることがありますが、当社といたしましては一切責任を負いかねますのでご了承ください。

電波障害について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

国際エネルギースタープログラムについて

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。
当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。（WindowsNT4.0インストールモデルを除く）

漏洩電流自主規制について

本装置は、社団法人日本電子工業振興協会のパソコン業界基準（PC-11-1988）に適合しております。

高調波ガイドライン適合品

本製品は、家電、汎用品高調波抑制対策ガイドラインに適合しております。

商標について

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、Windows NT は 米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Pentiumは Intel Corporation の登録商標です。Celeron は Intel Corporation の商標です。
PS/2は International Business Machines の登録商標です。
VirusScanは米国法人Network Associates, Inc.またはその関係会社の米国またはその他の国における登録商標です。
Adobe、Acrobat、およびAcrobatロゴはAdobe Systems Incorporatedの商標 (地域によっては登録商標)です。
そのほかの社名、製品名は一般にそれぞれの会社の商標または登録商標です。

© エプソン販売株式会社 2000

エプソン販売 株式会社

PRINTED WITH SOY INK™ 大豆油インキを使用しています。

このユーザーズマニュアルは再生紙を使用しています。

C77113002 01.01-00.15(SO)